

官
衆
號
外

大正十年三月二十三日 水曜日

印
刷
局

第四十四回 衆議院議事速記録第三十二號

帝國議會

大正十年三月二十二日(火曜日)

午後一時開議

十八 上剛一君提出

裁判所構成法中改正法律案(政府提出、貴族院送付)

第一 裁判所構成法中改正法律案(政府提出、貴族院送付)

第一讀會

第二 定年二四ル退職判事檢事ノ恩給ニ關スル法律案(政府提出、貴族院送付)

第一讀會

右各案ノ審査ヲ付託スヘキ委員ノ選舉

度量衡法中改正法律案(政府提出、貴族院送付)

第一讀會

第五 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ委員ノ選舉

刑法中改正法律案(禱苗代君提出)

第一讀會

第六 第一讀會ノ續(委員長報告)

第七 養蠶業並絹絲工業調査會設置ニ關スル建議案(飯塚春太郎君外四名提出)

第一讀會

第八 水產銀行設置ニ關スル建議案(鶴澤宇八君外四名提出)

第一讀會

第九 縣社乃木神社昇格ニ關スル建議案(横田千之助君外二名提出)

第一讀會

第十 豐伊川治水工事速成ニ關スル建議案(原夫次郎君外五名提出)

第一讀會

第十一 長崎五島佐世保間交通運輸ノ設備ニ關スル建議案(牧山耕藏君外三名提出)

第一讀會

第十二 大連茂木間鐵道速成ニ關スル建議案(石井三郎君外三名提出)

第一讀會

第十三 社寺境内敷地無償下付ニ關スル建議案(鶴澤總明君外四名提出)

第一讀會

第十四 兵庫福崎間鐵道敷設ニ關スル建議案(木下甚三郎君提出)

第一讀會

第十五 航空業保護獎勵ニ關スル建議案(津野田是重君外一名提出)

第一讀會

第十六 平和記念東京博覽會費國庫補助ニ關スル建議案(前田米藏君外十四名提出)

第一讀會

第十七 八王子高崎間鐵道速成ニ關スル建議案(長谷川宗治君外十名提出)

第一讀會

第十八 東京大阪間高速度交通機關ノ設備ニ關スル建議案(久下豊忠君提出)

第一讀會

第十九 三戸千曳間鐵道速成ニ關スル建議案(野村治三郎君外七名提出)

第一讀會

第二十 五條新宮間鐵道速成ニ關スル建議案(玉置良直君外五名提出)

第一讀會

第二十一 土器川外四川改修ニ關スル建議案(大林森次郎君外四名提出)

第一讀會

第二十二 勞働組合法ノ制定並勞働局設置ニ關スル建議案(近藤達兒君提出)

第一讀會

第二十三 剩餘金貯益金ノ繰入ニ關スル建議案(田川大吉郎君提出)

第一讀會

第二十四 青森築港國營ニ關スル建議案(北山一郎君外十四名提出)

第一讀會

第二十五 信樂貴生加茂川間輕便鐵道敷設規矩雄君外六名提出)

第一讀會

第二十六 阿武隈川阿賀川改修工事費國庫補助增額ニ關スル建議案(清瀬阿武隈川阿賀川改修工事費國庫補助增額ニ關スル建議案(八田宗吉君外六名提出)

第一讀會

第二十七 境港修築速成ニ關スル建議案(清瀬規矩雄君外六名提出)

第一讀會

第二十八 阿武隈川阿賀川改修工事費國庫補助增額ニ關スル建議案(中野寅吉君外三名提出)

第一讀會

第二十九 敦賀今津間輕便鐵道豫定線追加ニ關スル建議案(安原仁兵衛君外一名提出)

第一讀會

第三十 樞原神宮第二期宮域擴張及建物修繕ニ關スル建議案(小橋藻三衛君外三名提出)

第一讀會

第三十一 有益鳥獸及有用植物保護法制定ニ關スル建議案(吉良元夫君提出)

第一讀會

第三十二 滿洲大學設立ニ關スル建議案(佐藤寅太郎君提出)

第一讀會

第三十三 御殿場大宮間及吉田大月間鐵道速成ニ關スル建議案(岩崎勤君外二名提出)

第一讀會

第三十四 痢傳染絕對防止ニ關スル建議案(鶴澤總明君外二名提出)

第一讀會

第三十五 官幣大社三島神社修繕並境內擴張整理ニ關スル建議案(岩崎勤君外一名提出)

第一讀會

- 第一 質問
霞ヶ浦沿岸江戸崎入干拓ニ關スル質問(田中萬逸君提出)
第二 質問
第十二師團兵器部下關倉庫移轉ニ關スル質問(藤井啓一君提出)
第三 質問
養蠶業者救濟ニ關スル再質問(山邊常重君提出)
第四 質問
軍紀振肅ニ關スル質問(田中武雄君提出)
第五 民心統一ニ關スル質問(早川龍介君提出)
第六 獨逸賠償船選擇ニ關スル質問(田中萬逸君提出)
第七 司法權ノ威信ニ關スル第三質問(横山勝太郎君外一名提出)
第八 火葬船葬禮株式會社ノ營業ニ關スル質問(横山勝太郎君外二名提出)
第九 朝鮮ニ於ケル行政司法ノ衝突ニ關スル質問(鮎川盛貞君提出)
第十 蟻絲及織物ノ根本政策ニ關スル質問(清水留三郎君提出)
十一 血清販賣及之ニ關聯スル事項ニ關スル質問(山田永俊君提出)
十二 陪審制度ニ關スル質問(植原悅二郎君提出)
十三 人權蹂躪及辯護士會ノ權能ニ關スル質問(横山勝太郎君外一名提出)
十四 室素化合物ニ對スル政策ニ關スル質問(大口喜六君提出)
十五 國有土地森林原野下戻ニ關スル質問(禱苗代君提出)
十六 文政並大本教ニ關スル質問(安藤正純君提出)
十七 中學校新設ヲ黨勢擴張ニ利用シタル件
二關スル質問(木檜三四郎君提出)
文政並大本教ニ關スル質問(安藤正純君提出)

第三十七 水戸鹿島間高濱延方間及玉造鋤田間鐵道速成ニ關スル建議案(宮古啓三郎君外二名提出)

第三十八 (原田佐之治君外七名提出) 四國重要港灣整備ニ關スル建議案(原田佐之治君外十五名提出)

第三十九 (原田佐之治君外五名提出) 宮河内谷川改修費國庫補助ニ關スル建議案(岡順次君外三名提出)

第四十 (徳島監獄廳舍移轉ニ關スル建議案(海原清平君外三名提出))

第四十一 (原田佐之治君外八名提出) 社會政策三必要ナル資金ニ關スル建議案(三善清之君外八名提出)

第四十二 寺泊築港ニ關スル建議案(高橋金治郎君外二名提出)

第四十三 宇都宮岐阜及和歌山監獄ノ移轉促進ニ關スル建議案(植竹龍三郎君外二名提出)

第四十四 帝國在郷軍人會國庫補助ニ關スル建議案(八田宗吉君外四名提出)

第四十五 印紙稅免除ニ關スル建議案(安原仁兵衛君外一名提出)

第四十六 (池田泰輔君外四名提出) 楠浦港富岡間鐵道敷設ニ關スル建議案(稱號撤廢ニ關スル建議案(奥村安太郎君提出))

第四十七 (蛤港牛深間鐵道敷設ニ關スル建議案(伊藤廣幾君外七名提出))

第四十八 (北海道產業資金充實ニ關スル建議案(森格君外三名提出))

第四十九 (横須賀ヨリ浦賀三崎ヲ經テ三浦半島ノ一周スル鐵道敷設ニ關スル建議案(山形福島高知神戸徳島及京都ノ監獄移轉ニ關スル建議案(戸狩權之助君外五名提出))

第五十 (那賀川改修速成ニ關スル建議案(田佐之治君外三名提出))

第五十一 私立中學校私立高等女學校ニ關スル建議案(金下付ニ關スル建議案(鷦山一郎君外四名提出))

第五十二 関スル建議案(香川保忠君外二名提出)

第五十三 関スル建議案(吉良元夫君外六名提出)

第五十四 関スル建議案(木下成太郎君外十名提出)

第五十五 関スル建議案(原田書記官報告)

第五十六 二今一二二日政府ヨリ提出セラレタル議案左ノ如シ
(第三號)大正十年度歲入歲出總豫算追加案
(第四號)大正十年度歲入歲出總豫算追加案

第五十七 北海道糖業政策ニ關スル建議案(木下成太郎君外七名提出)

第五十八 林間學校獎勵補助ニ關スル建議案(大林森次郎君外五名提出)

第五十九 神祇ニ關スル特別官衙設置建議案(岩崎勵君外十二名提出)

第六十 高田川井間及世田米水澤間鐵道敷設ニ關スル建議案(志賀和多利君外一名提出)

第六十一 食料品供給施設ニ關スル建議案(山本栄太郎君外四名提出)

第六十二 地方稅財源擴張ニ關スル建議案(八田宗吉君外三名提出)

第六十三 片町四條吸間電力鐵道延長ニ關スル建議案(植場平君外一名提出)

第六十四 直江津港築港ニ關スル建議案(鈴木義隆君外三名提出)

第六十五 支那共和國留學生教育ニ關スル建議案(一宮房治郎君提出)

第六十六 日本海沿岸鐵道完成ニ關スル建議案(田邊熊一君外五名提出)

第六十七 千曲川鳴瀬川江合川改修工事費國庫補助增額ニ關スル建議案(遠藤良吉君外十四名提出)

第六十八 佐原松岸間鐵道速成ニ關スル建議案(濱口吉兵衛君外一名提出)

第六十九 東洋文庫設立ニ關スル建議案(澤來太郎君外十名提出)

第七十 漢學振興ニ關スル建議案(木下成太郎君外十名提出)

第七十一 岡崎大井間鐵道建設ニ關スル建議案(齊藤鶴太郎君外二名提出)

第七十二 九州築學專門學校設置ニ關スル建議案(原田十衛君外六名提出)

第七十三 三原吳間沿海鐵道速成ニ關スル建議案(山道襄一君外六名提出)

第七十四 (以上三月十九日提出) 一今二十二日政府ヨリ受領シタル答辯書左ノ如シ
衆議院議員鈴木錠藏君外二名提出關稅定率法中改正法律案ニ關スル質問ニ對スル答辯書
衆議院議員藤井啓一君提出第十二師團兵器部下ノ關倉庫移轉ニ關スル質問ニ對スル答辯書
衆議院議員山邊常重君提出養蠶業者救濟ニ關スル再質問ニ對スル答辯書
衆議院議員田中武雄君提出軍紀振肅ニ關スル質問ニ對スル答辯書
二對スル答辯書
衆議院議員早川龍介君提出民心統一ニ關スル質問ニ對スル答辯書
衆議院議員田中萬逸君提出獨逸賠償船選擇ニ關スル質問ニ對スル答辯書
衆議院議員横山勝太郎君外一名提出司法權ノ威信ニ關スル第三質問ニ對スル答辯書

一去十九日貴族院ヨリ受領シタル政府提出案左ノ如シ
裁判所構成法中改正法律案
度量衡法中改正法律案
一議員ヨリ提出セラレタル議案左ノ如シ
府縣制中改正法律案ニ對スル修正案
提出者荒川五郎君 大口喜六君
三原吳間沿海鐵道速成ニ關スル建議案
提出者荒川五郎君 大口喜六君
龍口了信君 荒川五郎君
金尾稜嚴君 橫山金太郎君
山科慎二郎君
一議員ヨリ提出セラレタル質問主意書左ノ如シ
國有土地森林原野下戻ニ關スル質問主意書
提出者禱苗代君
中學校新設ヲ黨勢擴張ニ利用シタル件ニ關スル質問主意書
提出者木檜三四郎君
文政竝大本教ニ關スル質問主意書
提出者安藤正純君
行政裁判所組織改造ニ關スル質問主意書
提出者井上剛一君
(以上三月十九日提出)
一今二十二日政府ヨリ受領シタル答辯書左ノ如シ
衆議院議員鈴木錠藏君外二名提出關稅定率法中改正法律案ニ關スル質問ニ對スル答辯書
衆議院議員藤井啓一君提出第十二師團兵器部下ノ關倉庫移轉ニ關スル質問ニ對スル答辯書
衆議院議員山邊常重君提出養蠶業者救濟ニ關スル再質問ニ對スル答辯書
衆議院議員田中武雄君提出軍紀振肅ニ關スル質問ニ對スル答辯書
二對スル答辯書
衆議院議員早川龍介君提出民心統一ニ關スル質問ニ對スル答辯書
衆議院議員田中萬逸君提出獨逸賠償船選擇ニ關スル質問ニ對スル答辯書
二對スル答辯書
衆議院議員横山勝太郎君外一名提出司法權ノ威信ニ關スル第三質問ニ對スル答辯書

ノ所屬隊長志岐中將ハ參謀本部ニ對シテ彼ノ召還方ヲ申請スルニ至ラタ

水モ渢テサヌ大

「チタ」政府ノ手ニ歸シタノデ平佐大尉ハ此處ニ目ヲ付ケ
白川友一ヲハ爾賓ニ呼ビ寄セ種々密議ヲ凝ラシテ後一
上賛ノレ更等ノリ、終里ノ名ヘシ「ト」出張所ヲ八

處驚クベシ自分ノ配下タル參謀少佐が其一味タル専半明シ而モ軍ノ參謀ヨリハ平佐大尉ノ參謀タルノ觀ガアルノデ若此事實ヲ公ニスレバ事態容易ナラズト見テ取報告ノ屋リ貴シテ素加ラズ頂シテ居タ

横組二審渡シタ

軍隊思想爲二惡化遂三陸軍大臣三報告

水毛洩ラサヌ大尉ノ棘腕
處カ當時特務將校トシテ滿洲里ニ在ヲ黒木少佐ハ此
ノ由ヲ聞イテ氣ノ毒ニ思ヒ志岐中將其他要路ニ對シ交
渉ノ結果平佐大尉ヲ滿洲里特務機關附ニシテ處黒木

益々沙エル大尉ノ腕森林探伐...水田貢收
蓋シ八幡組ナルモノハ白川友一ノ弟ナル岡島某ガ主ト
ナ、テ經營セルモノノデ資金ハ平佐大尉ガ提供シ事業ハチ

軍隊に於ては、二種の代役を設け、陸軍ノ目ニ率合
何シロ事件ガ事件アリ既ニ、内一部將校ニハ
知レ渡リ、果テハ下士卒ニ至ル内部薄ニ知ルヤウニナシタ
レ渡左大才一未ニ付ケル非准所ノ高マリ民貴軍貴也

ルノ止ム無キニ至リ平佐大尉ハ「セ」軍聯絡將校トシ居
残り轉テ自己ノ地位ヲ利用シテ「セ」將軍ヨリ莫大ナル軍
資金ノ運用ヲ託セラレル迄トナタ目的圓ニ當ラタ大尉ハ
北叟笑ミテ著々計略ヲ運ラシ先づ第一著手トシテ軍事警
察ヲ手中ニ丸メ込ムベク豫テ懇意ノ間柄デ且ツ同縣人
タル哈爾賓ノ北滿憲兵隊長憲兵少佐藤村成助氏ヲ抱

タ「西南方ノ森林伐採ニ在リ其ノ利權ノ如キモ平佐大尉ノ手ニ依リ軍司令部某々將校等其ノ手先ニ使ハレテ苦モ無ク獲得シ平佐大尉ハ同時ニセ「軍將來」ノ爲メト稱シ齊々哈爾附近ニ數萬「サアーベン」ノ水田ヲ買收シタ是レ大尉ガ「チタ」會計院ヨリ金塊ヲ引出シ東露公司ノ手ヨリ麥粉ヲ買入レル迄ノ辛辣ナ遣リ口デアル

ノ責任ヲ云爲スル考サヘアリ殊ニ將校ハ藩閥ノ關係ヲ痛感シ下士卒ノ中ニハ思想惡化ノ傾向サヘアルヲ以テ軍ノ要路ハ益憂慮スルニ至リ事件ハ愈重大トナツクノ憲兵司令部モ黙シテ置ケズ種々手ヲ迴シテ取調タル結果田中陸軍大臣ニ詳細報告スル所アリ尙ホ參謀本部ヘモ同様報告サレタ筈アルガ先月下旬藤村憲兵隊長並ニ其部下ノレバ清喜少佐・大庭義助少佐・大庭義昌少佐・大庭義和少佐等ハ皆立候

誼アル某參謀少佐ヲ丸メ込ミ斯クテ急所急所ニ渡リ付ケハ爾賓ニ於テ糧食並ニ軍事品ヲ請負フ東露公司ト結託スル迄三漕ヤ付ケタ此ノ東露公司ナルモノハ彼有名ナル大浦事件ノ元児白川友一ノ經營ニ係リ其ノ配下ニハ松本世其他如何ハシキ人物アリ其筋ヨリモ夫ヒト無ク注意サレタ札附ノモノデアル

而シテ大尉ハ日本出兵論鼓吹ノ運動費トシテ金塊三十萬圓ヲ日本ニ持チ來ラシメ是ヲ白川等ノ手ニ依クテ日貨ニ兩替シタク該金ハ殘ラズ取扱者タル前記八幡組ノ店員ガ拐帶逃走シ行方不明ノ爲メ捜査中デアルト稱シ茲再今日ニ至ツテ井ル次ハ「哈爾賓新聞」ノ買收デアルガ此買收ニ就テハ我ガ哈爾賓特務機關上「セ」軍トノ間ニ種

其部下外ハ北洋憲兵分隊長牛島君日共ニ併用セラレタニ過ギズ某參謀少佐ハ依然何ノ障リモ無ク西伯利ニ在リテ辣腕ヲ揮ヒ平佐大尉ハ右ノ如ク第五十一聯隊ノ中隊長トシテ幅ヲ利カシ居ル
金儲ケニ奔走スル大尉前途ヲ見越シテ
大尉ハ最近資本金三十萬圓ヲ投ジテ浦鹽ニ「オルガン」
商會ナルモノヲ設ケ陰ノ人トナシテ金儲ニ熱中シ又數日
前ニ一萬圓ノ債ニ二月半ニ上手ハ務メ其盤ニシテ土地

金塊三十萬圓滿洲里附近テ紹失
計略ハ著々進行シ平佐大尉ハ巧ニ「セ」將軍ヲ説キ糧食
ノ買入並ニ日本出兵論ヲ鼓吹スル爲メノ宣傳及ビ運動
費トシテ「チタ」會計院ヨリ金塊二百五十萬圓ヲ引出し

々政略上ノ關ヒアリ即チ特務機關ハ政策ノ上ヨリ哈爾賓ニ機關新聞ノ必要ヲ感シ石坂中將ハ意ヲ決シテ前記ハ爾賓新聞買收ノ件ニ就テ詳ナル意見書ヲ參謀本部ニ提出シ其買收費數萬圓支出方ヲ申請シタ

是ヲ「チタ」停車場ヨリ汽車ニ乗セ、哈賓爾ニ輸送スル途
中、滿洲里附近ニ於テ約三十萬圓ニ值スル金塊ヲ紛失。
シタト稱シテ事ヲ有耶無耶ニ葬リ去ツタ殘リ二百二十一
萬圓ノ中、約三十萬圓ハ軍ノ糧食トシテ麥粉ヲ買入レル事
ト稱シ豫ア謀シ合セタ通り前記白川友一ノ東露公司ヲ
指定シテ納入セシムル事トナゾタ

金ノ相場ヲ狂ハス程「ハルビン」ニ豪遊
然ルニ此計畫ハ端ナクモ軍司令部ノ前記某參謀少佐ダ
平佐大尉ニ漏洩シタ爲メ平佐ハ先手ヲ打ツベク「チタ」ヨ
リ莫大ノ金塊ヲ持テ來リ哈爾賓新聞社長ニシテ五時半
デ有名ナ代議士松本誠之氏ト會見協議ノ上五萬圓ニ
同新聞ヲ買收シ平佐大尉ハ多勢ノ乾兒ヲ引連レテ哈爾

貨車失踪夢粉一萬圓ヲ積ンデ
然ルニ此ノ夢粉ハ容易ニ輸送シテ來又爲メ不審ヲ抱キ
取調ベタ處哈爾賓ヨリ輸送ノ途中貨車行方不明ノ爲
メ東露公司ニ於テモ調査中ダト云フ極メテ珍妙ナ挨拶
ヲ爲シ其後此ノ問題ニ就テハ何時モ「捜査中ダ」トノミ要
領ヲ得ズ今日ニ至ルモ其儘トナツテ井ル

賓第一ノ旅館北滿ホテルニ陣取り同地ノ藝妓多數ヲ揚ガ
ゲテ連日大景氣ヲツケ莫大ノ金塊ヲ湯水ノ如ク撒キ
ラシ遂ニ同地金塊ノ相場ヲ狂ハシムルニ至ツタ事態斯
如ク平佐大尉ノ爲メニ哈爾賓新聞買收ノ先手ヲ打タ
タ特務機關ハ腹ガ立ツテ堪ラズ同機關ノ骨ノ硬イ將校
ハ石坂中將ニ肉薄シテ平佐大尉調査ノ件ヲ主張シニ

「セ」軍ノ手ニ落タ金塊ニ目ヲ付ク
是ヨリ先キ東露公司ハ吉富久孝氏經營ノ日露商會ト
共ニ貿易業トシテ相當重キヲ爲シ井上陸軍主計總監ノ
世話デ「セ」將軍ノ軍需品ヲ納入スル事トナツタガ當時「乞
レンスキ」留紙幣ノ通用禁止トナツタ爲メ兩商會ハ太
ニ手違ヒテ生ジ已ムナク一時日本ニ引揚ゲタカ斯ル
「ゴルチヤツク」政府倒レタ爲メ數千萬圓ノ金塊ガ「セ」軍

賓第一ノ旅館北滿ホテルニ陣取り同地ノ藝妓多數ヲ揚ガ
ゲテ連日大景氣ヲツケ莫大ノ金塊ヲ湯水ノ如ク撒キ皆
ラシ遂ニ同地金塊ノ相場ヲ狂ハシムルニ至ツタ事態斯ニ
如ク平佐太尉ノ爲メニ哈爾賓新聞買收ノ先手ヲ打タ
タ特務機關ハ腹ガ立ツテ堪ラズ同機關ノ骨ノ硬イ將校
ハ石坂中將ニ肉薄シテ平佐太尉調査ノ件ヲ主張シ遂ニ
其議容レラレテ北滿憲兵隊長藤村少佐ニ調査方ヲ相
頼シタ處ガ藤村隊長ハ前記ノ通り平佐太尉ノ爲メニ拘
込マレテ居ルノデ突込ンダ調査ガ出來ズ遂ニ事ヲ「國
評」トシテ好イ加減ナ報告ヲ爲シタ
大井大將ノ喫驚部下ニモ同類ガアル
一方此ノ由ヲ聞知シタ時ノ派遣軍司令官大井大將ハ
大ニ心痛シテ特ニ司令部附將校ニ内命シテ調査セシメタ
大井大將ノ喫驚部下ニモ同類ガアル

長閻軍人ヲ父トセル平佐ト陸軍頭目ノ恩因縁
即チ平佐大尉ノ父ハ平佐是純氏ト云ヒ我ガ騎兵隊三大
ナル功績アリ西南役當時ハ山縣公ノ副官トシテ出軍シ
故寺内元帥・田中陸軍大臣其他陸軍ノ頭目ト親交ア
リ氏が大佐時代ニ病ヲ得テ危篤トナルヤ枕頭ニ集マツタ
今ノ陸軍ノ頭目ニ對シ二郎〔平佐大尉ノ事〕ハ軍人ト
シテ名ヲ爲サシメ度イカラ何分宜敷頼ムト涙ヲ流シテ遣
言シタノデ故寺内元帥田中陸相ヲ始メ陸軍ノ要路ハ平
佐ヲ目ニカケ今回斯ル大ソレタコトヲシタニ拘ラズ何ウス
ル事モ出來ヌノデアル

操縱費トシテ三萬圓ヲ林原吉次郎ナルモニ與ヘ林原

ハ日本ニ歸リ帝國小テルニ澤在シテ豪遊ヲ極メ警視廳

ニ注意サレタ爲メ何レヘカ姿ヲ晦マシタ、白川友一ノ番

頭松本世ハ是レ又莫大ノ金ヲ儲ケテ露國將校ノ未亡人

ト結婚シ此ノ程日本觀光ニ來リ先月下旬相州鎌倉ナ

ル海濱ホテルニ澤在シ豪遊ヲ極メテタカ一昨々日午

前同中同ホテルノ支拂ヲ爲シ横濱ニ赴イテ同地ノ「オリ

エンタルホテル」三入り晝食ヲ済シテ哈爾賓ニ向ソタガ同

人ノ日本觀光ニ就テハ其筋ヨリモ極メテ注意深イ眼デ

睨マレテ井ル

無ニノ親交アル黒木少佐ハ曰ク

「セミヨーノフ」將軍蹶起以來將軍ト無ニノ親交アル黒

木親慶少佐ハ宿病猶瘧エス目下鎌倉ニ靜養中テアル

同少佐ハ語ル

平佐君ノコトニ就テハ多少聞キ込ンダコトモアリマスガ

苟且ニモ死生ノ巷ヲ俱ニシタ間柄トシテハ僕ノ口カラ免

ヤ角言ヒタクアリマセン僕ハ平佐君ニ限ツテ左様ナコトガ

ナイト信ズルモノデス然シ萬一事實デアタシテモ決シ

テ平佐君ノ私心カラ出タモノタハ考ヘタクナインデスセ

ミヨーノフ」將軍ハ極メテ利慾ニ恬淡ナ人物デスカラ目的

サヘ正シケレバ隨分費用ヲ惜シマナイ方ノ性デスガダラ

シナク金錢ヲ亂費スルヤウナ男デハアリマセン僕ハセミ

ヨーノフ」將軍ノ名譽ノ爲ニモ切ニ平佐君ノ冤罪タラン

コトヲ祈ルモノデアリマス

果シテ右ノ如クナリトセハ我カ軍紀ハ爲ニ破壞セラルヘシ

右事實ノ真相及政府ノ所見如何

右及質問候也

大正十年三月二十二日

内閣總理大臣 原 敬

衆議院議長與第三郎殿
對シ別紙答辯書差進候

(別紙)

衆議院議員田中武雄君提出軍紀振肅ニ關スル質問ニ

對シ別紙答辯書差進候

一 金塊二百五十萬圓輸送ノ件

事ハ全然事實ト相違ス但平佐大尉カ此輸送ニ若干

ノ關係ヲ有スルコトハ事實ニシテ其情況左ノ如シ

大正九年五月上旬平佐大尉ガ知多特務機關附トシ

テ服務中「セメノフ」ハ金塊五十六箱(價格約二百五

十萬圓)ヲ哈爾賓方面ニ輸送セントシ既ニ發送ノ準

備ヲ終レルモ目下「セ」軍ノ力ヲ以テシテハ安全ニ之ヲ

輸送スルヲ得ス且日本軍憲ヨリモ其輸送ニ關シ便宜

ヲ與ヘラレサルノ理由ヲ以テ個人タル平佐大尉ニ其輸

送方法ニ關シ助言ヲ求メタリ因テ平佐大尉ハ確實ナ

ル日本人ヲ選ヒ之ニ輸送セシムル外方法ナキ旨助言

セリ此結果「セ」軍行政補助官「タスキ」ト日本貿易

商山内基信トノ間ニ本輪送ニ關スル契約ノ成立ヲ見

ルニ至レルモノナリ而シテ爾後ニ於ケル輸送ノ方法金

塊及代金ノ授受等ニ關シテハ平佐大尉ハ全然關係

ナシ從テ金塊三十萬圓紛失ノコトモ平佐大尉トハ何

等ノ關係ナキモ輸送途中多クモ三四萬圓ノ金塊カ滿

洲里方面ニ於テ山内基信ノ使用人坂上某ニ竊取セ

ラレタル事實ニシテ坂上某ハ大正九年七月哈爾賓警

察署ノ手ニ逮捕セラレ旅順ニ於テ裁判ニ附セラレタル

苦ナリ

二 夢粉ノ納入並約一萬圓ノ夢粉紛失ノ件

麥粉ノ納入並麥粉紛失ノ件ハ事實此種ノコトアリシ

トスルモ平佐大尉トハ何等ノ關係ナシ

三 八幡組ト平佐大尉トノ關係

八幡組ナルモハ義勇兵トシテ「セ」軍ニ從軍セシ邦人

ノ一部カ鑑山森林等ノ經營ヲ目的トシテ「セメノフ」ノ

希望ニヨリ組織セルモニシテ平佐大尉ハ當時「セ」軍

ニ從軍シアリシ關係上其成立ニ關シ「セメノフ」ニ助言

ヲ與「セメノフ」ハ其資金トシテ金塊十數布度(價格

約三十萬圓)ヲ支出シタルコトアリ尙ホ森林ノ利權獲

得等ハ「セメノフ」ノ命令ニヨリ主トシテ哥薩克司令部

ヨリ便宜ヲ與ヘタルモノナリ而シテ此八幡組ハ大正九

年七月頃解散シ現在ハ存在セス

四 出兵論ヲ種ニ三十萬圓ノ運動費ヲ支出セル件

此事實ナシ

五 哈爾賓新聞買收ノ件

哈爾賓新聞社長東鄉俊明カ其社ノ權利ヲ永島義高

ニ譲リ渡スニ際シ平佐大尉カ斡旋ノ勞ヲ取リ「セ」軍

軍事補佐官アフアナシエフ「ラシテ」「セ」軍宣傳費中ヨ

リ二萬圓ヲ支出セシメタルコトハ事實ナルモ軍參謀ノ

漏洩ニヨリ哈爾賓特務機關ニ先キヲ打チ云々ノ東京

日々新聞ノ記事ハ全然事實ト相違ス

六 「オルガン」商會ニ關スル件

平佐大尉カ浦鹽在勤中西伯利各地ヨリ避難シ來ル

邦人ニ對シ生業上若干ノ助言ヲ與ヘタルコトアルモ資

本金三十萬圓ヲ投シテ浦鹽ニ「オルガン」商會ナルモノ

ヲ組織セル事實全然ナシ同商會ハ東露公司ノ出張所

ナリ

八 口止料トシテ二萬圓ヲ鎌田正一ニ與ヘシ件

鎌田正一ノ哈爾賓ニ於ケル生活狀態ニ同情シ平佐

大尉カ幼年學校時代ノ知己タルノ故ヲ以テ岡島揆ヨ

リ三千圓ヲ融通セシムルコトニ助力セシハ事實ナルモ

口止メ料云々ノ事實全然ナシ

九 林原吉次郎ニ新聞操縱費トシテ參萬圓ヲ與ヘシ件

林原吉次郎ナルモ「セメノフ」ノ内意ヲ受ケ帝國「ホ

テル」ニ滯在セシコトハ事實ナルモ平佐大尉トハ關係

ナシ

十 白川友一ト平佐大尉トノ關係

大正七年八月頃平佐大尉「セ」軍ニ從事中白川友一

ト滿洲里ニ於テ會見セルコトアリ爾後白川友一カ「セ」

軍ニ糧食等ヲ納入セシハ事實ナルモ平佐大尉トハ東

京日々新聞記事ノ如キ關係ナシ

本事件ニ關スル平佐大尉ノ行動ハ概ね前記ノ如クニシ

テ之カ爲未タ軍紀ヲ破壞サル、カ如キコトアルヲ認メス

ヨリ便宜ヲ與ヘタルモノナリ而シテ此八幡組ハ大正九

年七月頃解散シ現在ハ存在セス

右成規ニ據リ提出候也

大正十年三月二十二日

陸軍大臣 男爵田中 義一

民心統ニ關スル質問主意書

右成規ニ據リ提出候也

大正十年三月九日

提出者 早川 龍介

賛成者 井上 剛一

外三十一人

民心統ニ關スル質問主意書

右成規ニ據リ提出候也

大正十年三月二十二日

内閣總理大臣 原 敬

民心統ニ關スル質問主意書

世界戰亂ノ影響ヲ受ケ我カ帝國ニ於ケル民心ノ思想上

一大變化ヲ來サムトスルノ傾向アリ上下共ニ杞憂ニ

堪ヘサルトコロナリ此ノ時ニ於テ宜シク民心ノ統一ヲ圖

ラサルヘカラス依ア政府ノ所信ヲ問ハムトス

右成規ニ據リ提出候也

大正十年三月二十二日

内閣總理大臣 原 敬

民心統ニ關スル質問主意書

衆議院議員早川龍介君提出民心統ニ關スル質問ニ

對シ別紙答辯書差進候

(別紙)

衆議院議員早川龍介君提出民心統一ニ關スル質問ニ對スル答辯書

國民思想ノ穩健ナル發達ヲ見ムコトハ政府ノ最モ庶幾スル所ニシテ之カ爲ニ適當ノ施設ヲ爲シ國民思想ヲ善導シ其歸郷ヲ誤ラシメサルコトニ努メツ、アリ今後倍々力ヲ此ニ致シ效果ヲ舉ダムコトヲ期ス

右及答辯候也

大正十年三月二十二日

内務大臣 床次竹二郎

内閣總理大臣 原敬

獨逸賠償船選擇ニ關スル質問主意書

右成規ニ據リ提出候也

大正十年三月十日

提出者 田中萬逸
賛成者 正木照藏
外二十九人

内務大臣 床次竹二郎

内閣總理大臣 原敬

而シテ政府ハ該船ノ利用處理等ニ付テハ海運界ノ状勢ニ順應シ機宜ノ措置ヲ講スヘク差當リ政府ハ相當ノ條件ヲ以テ我當業者ニ同船ノ管理ヲ委託シ相當ノ航路ニ之ヲ使用セシムル見込ニシテ其ノ利用ニ困難ヲ感セサルノミナラス是ニ由リ我對外交通運輸上便宜ヲ加フルコト鮮カラサルヘキヲ信ス

右及答辯候也

大正十年三月二十二日

外務大臣 伯爵内田康哉

大藏大臣 子爵高橋是清

遞信大臣 野田卯太郎

司法權ノ威信ニ關スル第三質問主意書

右成規ニ據リ提出候也

大正十年三月十一日

提出者 橫山勝太郎 八並武治

贊成者 箕浦勝人 外三十人

司法權ノ威信ニ關スル第三質問主意書

本員等ハ去三月一日付ヲ以テ「去二月十二日司法權ノ威信ニ關スル質問主意書ヲ提出シタルニ政府ハ何等斯ル事實ナシト答辯セリ今其ノ一例ヲ舉クレハ前大分警察署長警視小野忠藏ハ前大分警察部長山口織之進ノ名譽ヲ毀損スヘキ記事ヲ新聞紙ニ掲載頒布セムコトヲ斯ノ如キ船種ヲ選ムテ賠償ノ一部トシテ領得セシハ如何ナル順序ニ出テ又如何ナル見込ヲ以テセシモノナリヤ明確ナル答辯ヲ求ム

右及質問候

帝國政府ニ於テハ過般獨逸ヨリ實物賠償ノ一部トシテ數隻ノ船舶ヲ領得シタリ此ノ船舶中ノカツブ、フ井ニスデレ號(總噸數一万四千五百零三噸、最高速力十六哩)ハ優秀華麗ナル旅客運送船ナルカ東洋方面ニ於テ平素之ヲ利用スルコト頗ル困難ニシテ從テ之ヲ維持セムトスルニハ多大ノ經費ヲ要スルモノナリ然ルニ政府ハ斯ノ如キ船種ヲ選ムテ賠償ノ一部トシテ領得セシハ如何ナル順序ニ出テ又如何ナル見込ヲ以テセシモノナリヤ明確ナル答辯ヲ求ム

大正十年三月二十二日

内閣總理大臣 原敬

而シテ政府ハ該船ノ利用處理等ニ付テハ海運界ノ状勢ニ順應シ機宜ノ措置ヲ講スヘク差當リ政府ハ相當ノ條件ヲ以テ我當業者ニ同船ノ管理ヲ委託シ相當ノ航路ニ之ヲ使用セシムル見込ニシテ其ノ利用ニ困難ヲ感セサルノミナラス是ニ由リ我對外交通運輸上便宜ヲ加フルコト鮮カラサルヘキヲ信ス

右及答辯候也

當局ニ於テ該事件ニ關スル當該檢事ノ起訴處分ヲ高壓抑止スルナラハ檢事局全員ハ假令野ニ下ルトモ司法當局ノ非議ヲ糺彈シ之ヲ公明ナル社會ノ批判ニ訴フヘシトノ意嚮ヲ上申スルトコロアリタルヲ以テ司法省ハ小野警視擁護ノ交渉ヲ拒絕シタルト云フ之レ大正八年十二月中ノ事ニ屬ス

大正八年十二月二十七日大分地方裁判所監督書記室ニ於テ檢事鳥原英治氏ハ中山鷹城ニ對シテ語テ曰ク「兩三日中ニハ當局ヨリ小野警視起訴ノ許容沙汰アルヘシト考フル故最早政友會員如何ニ狂奔スルモ徒勞ニ過キサルヘシ云々」

ト然ルニ越へテ大正九年一月八日松田源治君突如歸縣シ別府紅葉館ニ多數ノ同志ト會見翌九日暮夜竊ニ事務室ニ在ルヲ傳ヘサルナク世論益高潮シ司法權ノ威信全ク地ト助氏ヲ訪問セシム其ノ要談ノ内容ハ之ヲ知ルコトヲ得サルモ略ホ推察スルニ難カラス之カ爲ニ當時大分縣ニ於ケル民間ノ風說ハ司法省ノ檢事壓迫小野警視擁護ニ拂フニ至ル斯ノ如クニシテ結局小野警視ハ不起訴ニ終レリ

是レヨリ先大正八年十二月二十一日上京中ナリシ中山鷹城ハ赤坂區復坂町東亞同文書院表二階事務室ニ於テ政友會代議士一宮房治郎君ト會見シタル際一宮君ハ語ヲ曰ク「大分縣ノ政友會諸君ノ輕舉妄動ニハ寃ニ迷惑トアル全回ノ事件(小野警視ノ起訴不起訴事件ヲ指ス)ノ如キモ既ニ一度ハ農工銀行問題テ司法省ヲシテ無理ナ處斷ヲ採ラシタルニ拘ラス引續キテ又モヤ不

起訴ニセシムルコトハ實ニ困難テアル直接ニ交渉ノ任ニ當ア居ル松田君ノ如キハ非常ニ困惑シテ居ル云々尙同日中山鷹城ハ元田政友會總務ヲ訪問シタルニ病床中ノ故ヲ以テ面會セサリシモ女中ヲ通シテ曰ク「余ハ病床中ニテ遺憾ナカラ會談スルヲ得サレトモ小野忠藏カ中山鷹城等名譽毀損被告事件ノ共犯タルノ必要ナキモト認メタルニ因リ起訴猶豫處分ニ付スヘキ旨訓令ヲ發シタルモノニシテ決シテ某政黨ノ請託ニ基キテ斯ル措置ヲ採リタルモノニアラス其ノ他司法權ノ威信ヲ害シタル事實更ニ無之」ト答辯セリ然レトモ或方面ヨリ司法省ニ向テ右小野警視ニ對スル不起訴ノ交渉ヲ爲シタルヲ以テ司法省ハ不起訴ノ内命ヲ下サムトシタルニ大分地方裁判所檢事局ヨリ非公式ノ書信ヲ以テ若司法

ト語ラレタル事實アリ此等ノ事實ニ依レハ小野警視ノ不起訴處分ハ政府答辯ノ如ク改悛ノ情著シク處罰ノ必要ナキモノナルカ故ニ非スシテ全ク政友會員ノ運動松田源治君等ノ司法省並檢事局三對スル交渉請託司法省ノ壓迫等カ原因ト爲リテ瀆職犯罪名譽毀損罪ノ犯人ヲ以テ不起訴處分ノ利益ヲ享ケシメタルコト極メテ明瞭ナリト信ス政府ハ此ノ點ニ關シ詳細ナル調査ヲ爲シ更ニ答辯アラムコトヲ望ム

右及第三質問候也

大正十年三月二十二日

内閣總理大臣 原 敬

衆議院議長吳繁三郎殿

火葬船葬禮株式會社ノ營業ニ關スル質問主意書

右成規ニ據リ提出候也

大正十年三月十一日 提出者 橫山勝太郎

太田信治郎

高木 正年

一 最近ノ調査ニ係ル東京府下ニ於ケル漁業戸數ハ九千五百二十三戸ニシテ漁業ニ從事スル者ハ一万八千有餘人アリ右ノ内極少ナル淡水魚漁業者及遠洋漁業者ヲ除キテ其ノ大數ハ東京灣内ニ出漁セリ而シテ火葬船會社ノ事業目論見ニ依レハ火葬船ハ常ニ之ヲ芝浦沿岸ニ繫留シ置キ晝間市内各地ヨリ運搬シ來封印ノママ靈柩收容地ニ歸來シテ遺骨ノ引渡ヲ爲スヘキ業務ノ特許權ヲ受ケ一面陸軍中將吉田平太郎、男爵名和長憲、坂忻次郎、前警視立川太郎、東京市會議員辨護士佐々木藤市郎、東京府會議員千葉博巳、坪田金作、保坂政次郎、藤田勇、山下吉太郎氏ノ發起ヲ以テ資本金二百五十萬圓ノ火葬船葬禮株式會社ヲ創立シ、藤田勇氏ハ右特許權ヲ金二十萬圓ヲ以テ該會社ニ賣渡シ該會社ハ其事務ヲ經營セムトセリ内務大臣ハ岡警視總監カ此ノ如キ許可ヲ爲シタルヲ相當ナリト思料セラルヤ如何

二 元來今回火葬船葬禮株式會社ナルモノ東京市一般ノ爲ト稱シ海上火葬營業ヲ爲目的ヲ以テ其ノ設立ヲ企て既ニ警視廳ノ許可ヲ受ケ近ク設立ノ運ニ至レルニ就テハ該會社事業開始ノ曉ニ於ケル事業豫定地ニ接スル關係各町村ノ蒙ルヘキ打撃ハニシテ止マラス一營利會社タル該會社カ營業許可ヲ受クルニ至ル迄ノ經路ニ就テハ冤角ノ不審ヲ抱クモノサヘアリテ其ノ反對ノ機運ハ今ヤ殆ド絶頂ニ達セリ

凡ソ死者其ノモノニトリテハ最嚴肅ナルヘク又其ノ關係者ニトリテハ最大ノ悲哀タルヘク從テ之ヲ葬ルニ於ケル唯一ノ產物タル海苔ノ需要ニ影響スルコトアラムカ之レ決シテ個個一地區ノ問題ニ非スシテ東京市全般ニ關スル重大問題ナリ

三 都市ノ火葬場カ何レモ市街地ヲ離レテ設置シアルノ理由ハ敢テ贅言ノ要ナシト雖火葬場設置カ土地繁榮上甚大ナル障害タルノ一事ハ直ニ首肯シ得ルトコロナリト信ス而シテ火葬船會社ノ事業地タル芝浦沿岸ハ會社自ラ公言セル如ク「東京市ノ中心」ニシテ市ノ海上關門トセ云フヘキトコロタリ而モ右地域ハ近キ将来ニ於テ實現セラルヘキ東京灣大築港ノ中心地ナリ從來火葬場設置ニ關シテハ山村水郭ト雖之ヲ快シトセサルノ理由ヲ是トスルニ於テハ帝國ノ首府タル大

以外何等ノ餘談モ之レナカリシナリ其ノ他該事件ニ關シテハ本年三月一日ノ司法權ノ威信ニ關スル再質問ニ對スル答辯ト異ル所ナク毫モ司法權ノ威信ヲ害シタル事實存セス

右及答辯候也

大正十年三月二十二日

司法大臣 伯爵大木 遠吉

火葬船葬禮株式會社ノ營業ニ關スル質問主意書

右成規ニ據リ提出候也

大正十年三月十一日 提出者 橫山勝太郎

太田信治郎

高木 正年

ニシテ伊邪那美命黃泉國ヨリ歸リマシテ鹽ヲ以テ死ノ不淨ヲ潔メ給ヒシ故事舊記ニ載スルトコロヲ見ルモ明ナリ從來各地方ニ於テ火葬場設置ニ際シ附近住民ノ之ニ反對スルノ理由素ヨリ多々アルヘシト雖主トシテ此ノ國民性的觀念ニ基クモノトス

右火葬船會社カ事業開始ノ曉芝ノ事業豫定地タル芝浦沿岸ヲ始メ東京灣沿岸各町村ノ蒙ルヘキ打撃亦一二時止マラス就中左記各項ハ各町村又ハ個人ノ利益ヲ踩踏スルモノアルノミナラス東京府金般ニ關スル産業上由々敷結果ヲ招致スルモノアリ殊ニ畏クモ高貴ノ尊嚴ヲ冒瀆スルモノアルニ於テハ決シテ默過スヘキニ非スト

信ス

衆議院議員横山勝太郎君外一名提出司法權ノ威信ニ關スル第三質問ニ對シ別紙答辯書差進候
(別紙)

衆議院議員横山勝太郎君外一名提出司法權ノ威信ニ關スル第三質問ニ對スル答辯書差進候

威信ニ關スル第三質問ニ對スル答辯書

本質問書ニ引用スル事件即チ前大分警察署長警視小野忠藏ニ係ル事件ノ處分ニ付テハ司法省ハ政友會會員本質問書ニ引用スル事件即チ前大分警察署長警視小野忠藏ニ係ル事件ノ處分ニ付テハ司法省ハ政友會會員ノ交渉或ハ請託ヲ受ケタルコト絕對ニ無之又大分地方裁判所檢事局ヨリ非公式書面ヲ以テ司法當局ニ於テ該事件ニ關スル當該檢事ノ起訴處分ヲ抑止スルニ於テハ該檢事局ノ全部假令野ニ下ルモ司法當局ノ非議ヲ糾弾シ之ヲ公明ナル社會ノ批判ニ訴フヘシトノ趣意ヲ以テ申シ來リタルコト全然無之且又質問趣意書中檢事鳥原英治カ大分地方裁判所監督書記室ニ於テ中山鷹城ニ對シ兩三日中ニハ小野警視起訴ノ許容沙汰アルヘシト考フル故最早政友會員如何ニ狂奔スルトモ徒勞ニ過キサルヘシ云々ト語リタリト謂フニ在ルセ本事案ニ付テハ最モ祕密ヲ嚴守スヘキ旨特ニ檢事正ヨリ注意シアリタルモノナルヲ以テ鳥原檢事カ被告タル中山ニ對シ斯カル談話ヲ爲スノ謂レナク大正八年十二月二十七日頃ハ鳥原檢事ハ該事件ノ擔任ヲ離レ何等關係ナカリシモノナリ而シテ趣意書中大正九年一月八日松田源治君突如歸縣シ別府紅葉館ニ多數ノ同士ト會見翌九日暮夜竊ニ大分日々新聞社長衛藤又三郎君ヲシテ男庭檢事正ヲ訪問セシム其要談ノ内容ハ之ヲ知ルコトヲ得サルモ

略推察ニ難カラス云々ト云フ點ニ付テハ當時衛藤又三郎カ男庭檢事正ヲ訪問シ中山等ニ對スル告訴ハ元談交渉中ナルヲ以テ暫時起訴ヲ見合ハサレタキ旨希望ヲ述ヘタル事實ハレアルモ檢事正ヨリ司法省又ハ其ノ他ノ者ノ意見ヲ談話シタルカ如キコト之レナキハ勿論右希望

東京ノ關門ニ火葬船ヲ繫留スルカ如キ不合理ノ最甚シキモノト云フヘキナリ更ニ大正十一年度ニ於テ開催セラルヘキ豫定ナル明治神宮記念博覽會ノ敷地十五萬坪ノ内五萬坪ハ芝浦埋立地ヲ以テ之ニ充當スル計畫アルニ於アヘ敢テ後日築港完成ノ曉ヲ俟タストモ都市繁榮上都港美观上其ノ無暴不可ナルコト明ナリハ敢テ醫學士ノ説明ヲ俟シノ要ナシ東京市附近ニ於ケル海岸娛樂地ハ多々アリト雖時間ト經費ノ關係上一般市民ハ遠ク市街ヲ離レテ一日ノ清遊ヲ恵マレ居ラス芝浦一帶ノ地カ朝夕ノ散策夏期ノ納涼ニ於テ市民ヲ擇ハシムルコトハ如上時間ト經費トノ關係ニ於テ最モ適合シ居ル所以ニシテ更ニ春秋沿岸ニ蝦集セル釣魚者又ハ遊船ヲ浮ヘテ投網釣魚ノ興ヲ得ソアル者又所謂潮干狩ニ於テ團體的慰安ノ催シヲ爲スモノ數ハ明ナル數字ヲ以テ示シ難シト雖蓋莫大ナルハシト想像スルコトヲ得ヘシ火葬船會社事業開始後果シテ之ニ影響ヲ及ホスコトナキヤ果シテ市民ノ娛樂場ヲ奪取ルカ如キコトナキヤ之レ保障ノ限りニ在ラサルヘシ

四

芝區ノ或地域ニ於テ大煙筒建設ヲ許可セラレス又對岸ナル月島沿岸ノ護岸ハ特ニ不體裁ナラサル岩壁下ナシ居レルハ右離宮ニ對シ不敬ニ至ラサラシムル爲ニシテ殊ニ芝區民カニ離宮御鳥瞰區域ノ清淨ヲ思フノ熱情ハ事々ニ明ニシテ海草ヲ拾フ無智ノ幼童ト雖尙且尊嚴ノ念ヲ忘レ居ラス然ルニ今火葬船ノ如キ不淨ヲ勿論一般國民ノ反感ヲ招クコト明ナリ

五 芝浦沿岸埋立地ノ如キハ十七萬五千坪ノ膨大ナル大地域ヲ多年放棄セラレタルヲ大正八年三月漸クニ向ヒ土地ノ發展ヲ妨クル同時ニ芝區ノ繁榮ニ多見積リ居リ以テ中流以下一般市民ノ利益ヲ圖ルトナ

六 最後ニ會社目論見書ノ元ストコロニ依レハ火葬料一人平均十四圓葬典料平均四十圓計一人五十圓ト大ナル障害ヲ來スハ燎々火ヲ見ルヨリモ明ナリ

シ居レルモ今日五十圓ノ葬祭料ハ決シテ安キニ非ス而モ種ヘニ附帶スル費用ヲ安スルトキハ之ノ以テ中

東京ノ關門ニ火葬船ヲ繫留スルカ如キ不合理ノ最甚シキモノト云フヘキナリ更ニ大正十一年度ニ於テ開催セラルヘキ豫定ナル明治神宮記念博覽會ノ敷地十五萬坪ノ内五萬坪ハ芝浦埋立地ヲ以テ之ニ充當スル計畫アルニ於アヘ敢テ後日築港完成ノ曉ヲ俟タストモ都市繁榮上都港美观上其ノ無暴不可ナルコト明ナリハ敢テ醫學士ノ説明ヲ俟シノ要ナシ東京市附近ニ於ケル海岸娛樂地ハ多々アリト雖時間ト經費ノ關係上一般市民ハ遠ク市街ヲ離レテ一日ノ清遊ヲ恵マレ居ラス芝浦一帶ノ地カ朝夕ノ散策夏期ノ納涼ニ於テ市民ヲ擇ハシムルコトハ如上時間T經費トノ關係ニ於テ最モ適合シ居ル所以ニシテ更ニ春秋沿岸ニ蝦集セル釣魚者又ハ遊船ヲ浮ヘテ投網釣魚ノ興ヲ得ソアル者又所謂潮干狩ニ於テ團體的慰安ノ催シヲ爲スモノ數ハ明ナル數字ヲ以テ示シ難シト雖蓋莫大ナルハシト想像スルコトヲ得ヘシ火葬船會社事業開始後果シテ之ニ影響ヲ及ホスコトナキヤ果シテ市民ノ娛樂場ヲ奪取ルカ如キコトナキヤ之レ保障ノ限りニ在ラサルヘシ

陪審制度ハ立憲政體ノ健全ナル發達ヲ期スルニ最必要

陪審制度ニ關スル質問主意書

大正十年三月十八日

提出者 植原悅二郎

賛成者 關直彦

外二十九人

陪審制度ニ關スル質問主意書

大正十年三月二十二日

提出者 横山勝太郎

賛成者 鈴木富士彌

衆議院議員横山勝太郎君外二名提出火葬船葬禮株式會社ノ營業ニ關スル質問ニ對シ別紙答辯書差進候
(別紙)

衆議院議員横山勝太郎君外二名提出火葬船葬禮株式會社ノ營業ニ關スル質問ニ對シ別紙答辯書差進候
(別紙)

大正十年三月二十二日

内閣總理大臣 原 敬

衆議院議員植原悅二郎君提出陪審制度ニ關スル質問ニ對シ別紙答辯書差進候
(別紙)

大正十年三月二十二日

一 茨城縣稻敷郡長戸村大字長峰 植名貞五郎ニ

對シ同人窃盜被告事件ニ付龍ヶ崎分署ニ於テ刑事巡査係根喜代松巡査青山由之助ノ兩人カ拷問ヲ爲シ自白ヲ爲サシメタル事ハ不當ト認ム

二 右決議ヲ以テ司法大臣ニ建議スルコト
トノ決議ヲ爲シ建議書ヲ司法大臣ニ提出シタルニ司

法大臣ハ大正十年一月二十六日附ヲ以テ右水戸辯護士會ノ決議ヲ無効トスル旨ノ指令ヲ下シタルト云フ

右ハ拷問ノ事實ヲ否認スルニ在ルカ辯護士會ノ決議カ違法ナリト云フニ在ル乎

第三 我々司法界ニ於テ此ノ如キ人權蹂躪ノ事例カ依然トシテ其ノ痕跡ヲ絶タサルハ其ノ因何レニ在リスルヤ且司法大臣ハ人權蹂躪ノ事跡ヲ根絶セシメ以テ司法權ノ威信ヲ發揚セシメ人權尊重ノ實ヲ全ウスル

右及質問候也

大正十年三月二十二日

内閣總理大臣 原 敬

衆議院議員横山勝太郎殿
及辯護士會ノ權能ニ關スル質問ニ對シ別紙答辯書
(別紙)

衆議院議員横山勝太郎君外一名提出人權蹂躪及辯護士會ノ權能ニ關スル質問ニ對シ別紙答辯書差進候也

第一 茨城縣龍ヶ崎警察分署刑事巡査二名ハ同縣稻敷郡長戸村椎名貞五郎ニ對シ其窃盜事件ノ取調ヲ爲スニ當リ陵虐ノ行爲アリタル事實アリシテ起訴ヲ爲シタリ

第二 水戸地方裁判所所属辯護士會ニ於テハ大正九年十二月十九日總會ヲ開キ右刑事巡査ヲ處分セシム目的ヲ以テ司法大臣ニ建議ヲ爲シ辯護士會ニ於テ決議スヘキ事項ノ範圍ヲ超越シタルカ故ニ司法大臣ハ辯護士法第三十條ニ依リ其決議ヲ無効トスルノ指令ヲ爲シタリ陵虐ノ事實ヲ否認スルモノニ非ス

第三 第一項ノ如キ陵虐ノ行爲カ行ハレタルコトハ甚タ遺憾トスル所ナリ司法當局ニ於テハ此等ノ行爲ヲ根絶セシメ人權ヲ尊重スルノ抱負ヲ以テ常ニ司法權ノ威信ヲ發揚スルニ努メツ、アリ

右及答辯候也

大正十年三月二十二日

司法大臣 伯爵大木 達吉

中學校新設ヲ黨勢擴張ニ利用シタル件ニ關スル質問
主意書
主成規ニ據り提出候也

大正十年三月十九日

提出者 木檜三四郎
賛成者 横山勝太郎
外三十五人

中學校新設ヲ黨勢擴張ニ利用シタル件ニ關スル質問主意書
主成規ニ據り提出候也

大正十年三月二十二日

贊成者 木檜三四郎
横山勝太郎
外三十五人

(別紙)
衆議院議員木檜三四郎君 提出 中學校新設ヲ黨勢擴張ニ利用シタル件ニ關スル質問ニ對スル答辯書
京都府ニ於テ舞鶴中學校ヲ新設スルニ當リ其ノ位置ヲ選定スルニ就キテハ精密ニ調査シ慎重ニ審議シテ之ヲ決定シタルモノナリ本大臣ハ本件ニ關シテ京都府ニ對シ何等ノ命令ヲナシタルコトナシ
右及答辯候也

大正十年三月二十二日

文部大臣 中橋德五郎

一去十九日貴族院ニ於テ本院ノ送付ニ係ル左ノ議案ヲ可決シタル旨同院ヨリ通牒ヲ受領セリ

煙草專賣法中改正法律案(政府提出)

大正五年法律第四號中改正法律案(政府提出)

朝鮮事業公債法中改正法律案(政府提出)

臺灣事業公債法中改正法律案(政府提出)

樺太事業公債法中改正法律案(政府提出)

大學特別會計法案(政府提出)

大正八年法律第十二號中改正法律案(政府提出)

軍用自動車補助法中改正法律案(政府提出)

大正九年法律第五十三號中改正法律案(政府提出)

畜牛結核病豫防法中改正法律案(政府提出)

一今二十二日貴族院ニ於テ本院ノ送付ニ係ル左ノ議案ヲ可決シタル旨同院ヨリ通牒ヲ受領セリ

執達吏規則中改正法律案(政府提出)

民事訴訟費用法中改正法律案(政府提出)

刑事案件訴訟費用法案(政府提出)

公有水面埋立法案(政府提出)

黃燒燒寸製造禁止法案(政府提出)

(左ノ報告ハ朗讀ヲ經サルモ参照ノタメ茲ニ掲載ス)

一去十九日議長ニ於テ選定シタル委員左ノ如シ

山田川ニ河川法適用ニ關スル建議案

阿部武智雄君 宇野 勇作君 北山 一郎君

原田藤次郎君 原 夫次郎君 野村治三郎君

淺川 浩君 山村喜一郎君 最上 直吉君

鴨綠江岸道路修築ニ關スル建議案外一件

高木第四郎君 蓮井 藤吉君 高見 之通君

牧山道
耕藏君
長一岁
松山常次郎君
公伴
秋夫君
山崎
山本
篠功昌
猛君

國幣大社大山祇神社昇格ニ關スル建議案外二件

河上 哲太君 上塚 司君 深見寅之助君
佐藤寅太郎君 植竹龍三郎君 門屋 尚志君

森 達三君 早川 龍介君
内本大輔著 有明社編 三國コレ集義案
砂田 重政君

日本大正實業社
竹澤 太一君 中島 守利君
山崎 猛君

宮崎三之助君	秋本喜七君	土屋興君
阿由葉勝作君	清水留三郎君	三輪市太郎君

第五回 極東競技大會派選手援助ニ關スル建議案

中島 姫山
鵬六君 一郎君
池田 花岡
泰親君 九郎君
土屋 井坂
興君 豊六君

野尻彌重郎君 手島 鍾司君 近藤 達兒君
一去十九日北海道本州連絡完成ニ關スル建議案委員

野村治三郎君松實喜代太君辭任ニ付其ノ補闕トシ
テ河郡武智惟吉黒主成章君ヲ、西條松山間鐵道豫

定線一部變更ニ關スル建議案 委員會上哲太君辭任
付其間變更ニ關スル建議案

二付其ノ補闕一江ノ洋石惠八君ノ發明獎勵二開
建議案外一件委員河上哲太君、出口直吉君、辭任ニ

付其ノ捕闕トシテ深見寅之助君吉川吉郎兵衛君乃
府縣制中改正法律案外八件委員深見寅之助君荒

川五郎君荻田悅造君井上剛一君野村嘉六君辭任
ニ付其ノ補闕トシテ宮崎三之助君太田信治郎君森

下龜太郎君田中善立君正木照藏君ヲ、辯護士法改正法案委員清穎一郎君辭任ニ付其ノ補闕トシテ

高柳覺太郎君ヲ、國分岩川間鐵道敷設ニ關スル建議
表委員市原政一郎^{モリサト}辛壬^{キンジ}二十一年正月
日

泰親君ヲ孰レモ議長ニ於テ選定セリ

今二十二日西線松山間鐵道豫定線一部變更ニ關ス
ル建議案委員矢野丑乙君辭任ニ付其ノ補闕トシテ

深見寅之助君馬籍法案委員岩切重雄君辭任二付
其ノ補闕トシテ萩亮君ヲ酒造稅法中改正ニ關スル建

議案外二件委員坪田十郎君辭任ニ付其ノ補闕トシテ海江田準一郎君ヲ就レモ議長ニ於テ選定セリ

一去十九日委員長及理事互選ノ結果左ノ如シ
四分岩川間鐵道改設ニ關ニレ建設局長

國分新川間 錦道樂語
委員長 日野 春次君 理事 古賀三千人君

西條松山間鐵道豫定線一部變更二關スル建議案表
員 委員長 渡邊 翁君 理事 大石 大君

卷之三

○ 森林保険實施ニ關スル建議案外三件委員	○ 鎌業税率引上ノ請願	一通
委員長 成田 榮信君 理事 淺野 順平君	高等水產學校設置ノ請願	一通
三原吳問鐵道敷設速成ニ關スル建議案外三件委員	水產銀行法制定ノ請願	一通
酒造稅法中改正ニ關スル建議案外二件委員	軍人恩給法附則改正ノ請願	一通
委員長 鐸木三郎 兵衛君 理事 田中 武雄君	○ 副議長(柏谷義三君) 成田君、何デスカ	二通
北海道本州連絡完成ニ關スル建議案委員	○ 成田 榮信君 水產銀行法制定ノ請願	一通
委員長 海原 清平君 理事 佐野 正雄君	○ 遠藤良吉君 所得稅法中改正法律案外四件ノ委員	一通
去十六日参考トシテ政府ニ送付シタル請願左ノ如シ	會ヲ開キタウゴザイマスカラ、許可ヲ求メマス	一通
明治四十三年三月以前ニ於ケル退職若ハ死亡文	○ 成田 榮信君 議長	一通
官ノ恩給並遣族扶助料増額ノ請願	○ 副議長(柏谷義三君) 成田君、何デスカ	一通
空也上人墳墓確定ノ請願	○ 成田 榮信君 溫泉政策ニ關スル建議案外三件ノ委員	一通
小學校教員ニ各種議員被選舉權附與ノ請願	會ヲ開キマスカラ…	一通
市、町、村吏員恩給法制定ノ請願	○ 副議長(柏谷義三君) 本日ノ日程ニ掲ゲテアリマス質問ノ第一霞ヶ浦沿岸江戸崎入八千拓ニ關スル質問、是ハ提出者ヨリ趣旨辯明ヲ省略スルト云フ申出ガアリマシタ、ソレカラ質問第二、第三、第四、第八マデ――第八ソレカラ第十二、第十三、第十六、以上ノ質問ニ對シマシテハ政府ヨリ答辯書ガ參テ居リマスカラ、日程カラ省キマス、質問第九、朝鮮ニ於ケル行政司法ノ衝突ニ關スル質問――鮎川盛貞君	一通
僧侶其ノ他諸宗教師ニ各種ノ被選舉權附與ノ請願	○ 副議長(柏谷義三君) 本日ノ日程ニ掲ゲテアリマス質問ノ第一霞ヶ浦沿岸江戸崎入八千拓ニ關スル質問、是ハ提出者ヨリ趣旨辯明ヲ省略スルト云フ申出ガアリマシタ、ソレカラ質問第二、第三、第四、第八マデ――第八ソレカラ第十二、第十三、第十六、以上ノ質問ニ對シマシテハ政府ヨリ答辯書ガ參テ居リマスカラ、日程カラ省キマス、質問第九、朝鮮ニ於ケル行政司法ノ衝突ニ關スル質問――鮎川盛貞君	一通
神職ニ各種被選舉權附與ノ請願	○ 副議長(柏谷義三君) 本日ノ日程ニ掲ゲテアリマス質問ノ第一霞ヶ浦沿岸江戸崎入八千拓ニ關スル質問、是ハ提出者ヨリ趣旨辯明ヲ省略スルト云フ申出ガアリマシタ、ソレカラ質問第二、第三、第四、第八マデ――第八ソレカラ第十二、第十三、第十六、以上ノ質問ニ對シマシテハ政府ヨリ答辯書ガ參テ居リマスカラ、日程カラ省キマス、質問第九、朝鮮ニ於ケル行政司法ノ衝突ニ關スル質問――鮎川盛貞君	一通
改名許可法制定ノ請願	○ 副議長(柏谷義三君) 本日ノ日程ニ掲ゲテアリマス質問ノ第一霞ヶ浦沿岸江戸崎入八千拓ニ關スル質問、是ハ提出者ヨリ趣旨辯明ヲ省略スルト云フ申出ガアリマシタ、ソレカラ質問第二、第三、第四、第八マデ――第八ソレカラ第十二、第十三、第十六、以上ノ質問ニ對シマシテハ政府ヨリ答辯書ガ參テ居リマスカラ、日程カラ省キマス、質問第九、朝鮮ニ於ケル行政司法ノ衝突ニ關スル質問――鮎川盛貞君	一通
按摩術取締規則改正ノ請願	○ 副議長(柏谷義三君) 本日ノ日程ニ掲ゲテアリマス質問ノ第一霞ヶ浦沿岸江戸崎入八千拓ニ關スル質問、是ハ提出者ヨリ趣旨辯明ヲ省略スルト云フ申出ガアリマシタ、ソレカラ質問第二、第三、第四、第八マデ――第八ソレカラ第十二、第十三、第十六、以上ノ質問ニ對シマシテハ政府ヨリ答辯書ガ參テ居リマスカラ、日程カラ省キマス、質問第九、朝鮮ニ於ケル行政司法ノ衝突ニ關スル質問――鮎川盛貞君	一通
飲酒制限ニ關スル請願	○ 副議長(柏谷義三君) 本日ノ日程ニ掲ゲテアリマス質問ノ第一霞ヶ浦沿岸江戸崎入八千拓ニ關スル質問、是ハ提出者ヨリ趣旨辯明ヲ省略スルト云フ申出ガアリマシタ、ソレカラ質問第二、第三、第四、第八マデ――第八ソレカラ第十二、第十三、第十六、以上ノ質問ニ對シマシテハ政府ヨリ答辯書ガ參テ居リマスカラ、日程カラ省キマス、質問第九、朝鮮ニ於ケル行政司法ノ衝突ニ關スル質問――鮎川盛貞君	一通
兵役免除稅ニ關スル請願	○ 副議長(柏谷義三君) 本日ノ日程ニ掲ゲテアリマス質問ノ第一霞ヶ浦沿岸江戸崎入八千拓ニ關スル質問、是ハ提出者ヨリ趣旨辯明ヲ省略スルト云フ申出ガアリマシタ、ソレカラ質問第二、第三、第四、第八マデ――第八ソレカラ第十二、第十三、第十六、以上ノ質問ニ對シマシテハ政府ヨリ答辯書ガ參テ居リマスカラ、日程カラ省キマス、質問第九、朝鮮ニ於ケル行政司法ノ衝突ニ關スル質問――鮎川盛貞君	一通
監獄制度ニ改良及免囚救濟ニ關スル請願	○ 副議長(柏谷義三君) 本日ノ日程ニ掲ゲテアリマス質問ノ第一霞ヶ浦沿岸江戸崎入八千拓ニ關スル質問、是ハ提出者ヨリ趣旨辯明ヲ省略スルト云フ申出ガアリマシタ、ソレカラ質問第二、第三、第四、第八マデ――第八ソレカラ第十二、第十三、第十六、以上ノ質問ニ對シマシテハ政府ヨリ答辯書ガ參テ居リマスカラ、日程カラ省キマス、質問第九、朝鮮ニ於ケル行政司法ノ衝突ニ關スル質問――鮎川盛貞君	一通
漁業ヲ營業稅法中ニ追加スルノ請願	○ 副議長(柏谷義三君) 本日ノ日程ニ掲ゲテアリマス質問ノ第一霞ヶ浦沿岸江戸崎入八千拓ニ關スル質問、是ハ提出者ヨリ趣旨辯明ヲ省略スルト云フ申出ガアリマシタ、ソレカラ質問第二、第三、第四、第八マデ――第八ソレカラ第十二、第十三、第十六、以上ノ質問ニ對シマシテハ政府ヨリ答辯書ガ參テ居リマスカラ、日程カラ省キマス、質問第九、朝鮮ニ於ケル行政司法ノ衝突ニ關スル質問――鮎川盛貞君	一通
有價證券割賦販賣業及營業稅法中改正ノ請願	○ 副議長(柏谷義三君) 本日ノ日程ニ掲ゲテアリマス質問ノ第一霞ヶ浦沿岸江戸崎入八千拓ニ關スル質問、是ハ提出者ヨリ趣旨辯明ヲ省略スルト云フ申出ガアリマシタ、ソレカラ質問第二、第三、第四、第八マデ――第八ソレカラ第十二、第十三、第十六、以上ノ質問ニ對シマシテハ政府ヨリ答辯書ガ參テ居リマスカラ、日程カラ省キマス、質問第九、朝鮮ニ於ケル行政司法ノ衝突ニ關スル質問――鮎川盛貞君	一通
營業稅法改廢ノ請願	○ 副議長(柏谷義三君) 本日ノ日程ニ掲ゲテアリマス質問ノ第一霞ヶ浦沿岸江戸崎入八千拓ニ關スル質問、是ハ提出者ヨリ趣旨辯明ヲ省略スルト云フ申出ガアリマシタ、ソレカラ質問第二、第三、第四、第八マデ――第八ソレカラ第十二、第十三、第十六、以上ノ質問ニ對シマシテハ政府ヨリ答辯書ガ參テ居リマスカラ、日程カラ省キマス、質問第九、朝鮮ニ於ケル行政司法ノ衝突ニ關スル質問――鮎川盛貞君	一通
請負業者ノ議員被選舉權ニ關スル法令改正ノ請願	○ 副議長(柏谷義三君) 本日ノ日程ニ掲ゲテアリマス質問ノ第一霞ヶ浦沿岸江戸崎入八千拓ニ關スル質問、是ハ提出者ヨリ趣旨辯明ヲ省略スルト云フ申出ガアリマシタ、ソレカラ質問第二、第三、第四、第八マデ――第八ソレカラ第十二、第十三、第十六、以上ノ質問ニ對シマシテハ政府ヨリ答辯書ガ參テ居リマスカラ、日程カラ省キマス、質問第九、朝鮮ニ於ケル行政司法ノ衝突ニ關スル質問――鮎川盛貞君	一通
醫藥分業ノ請願	○ 副議長(柏谷義三君) 本日ノ日程ニ掲ゲテアリマス質問ノ第一霞ヶ浦沿岸江戸崎入八千拓ニ關スル質問、是ハ提出者ヨリ趣旨辯明ヲ省略スルト云フ申出ガアリマシタ、ソレカラ質問第二、第三、第四、第八マデ――第八ソレカラ第十二、第十三、第十六、以上ノ質問ニ對シマシテハ政府ヨリ答辯書ガ參テ居リマスカラ、日程カラ省キマス、質問第九、朝鮮ニ於ケル行政司法ノ衝突ニ關スル質問――鮎川盛貞君	一通
願	○ 副議長(柏谷義三君) 本日ノ日程ニ掲ゲテアリマス質問ノ第一霞ヶ浦沿岸江戸崎入八千拓ニ關スル質問、是ハ提出者ヨリ趣旨辯明ヲ省略スルト云フ申出ガアリマシタ、ソレカラ質問第二、第三、第四、第八マデ――第八ソレカラ第十二、第十三、第十六、以上ノ質問ニ對シマシテハ政府ヨリ答辯書ガ參テ居リマスカラ、日程カラ省キマス、質問第九、朝鮮ニ於ケル行政司法ノ衝突ニ關スル質問――鮎川盛貞君	一通
米專賣ノ請願	○ 副議長(柏谷義三君) 本日ノ日程ニ掲ゲテアリマス質問ノ第一霞ヶ浦沿岸江戸崎入八千拓ニ關スル質問、是ハ提出者ヨリ趣旨辯明ヲ省略スルト云フ申出ガアリマシタ、ソレカラ質問第二、第三、第四、第八マデ――第八ソレカラ第十二、第十三、第十六、以上ノ質問ニ對シマシテハ政府ヨリ答辯書ガ參テ居リマスカラ、日程カラ省キマス、質問第九、朝鮮ニ於ケル行政司法ノ衝突ニ關スル質問――鮎川盛貞君	一通
西伯利亞撤兵ノ請願	○ 副議長(柏谷義三君) 本日ノ日程ニ掲ゲテアリマス質問ノ第一霞ヶ浦沿岸江戸崎入八千拓ニ關スル質問、是ハ提出者ヨリ趣旨辯明ヲ省略スルト云フ申出ガアリマシタ、ソレカラ質問第二、第三、第四、第八マデ――第八ソレカラ第十二、第十三、第十六、以上ノ質問ニ對シマシテハ政府ヨリ答辯書ガ參テ居リマスカラ、日程カラ省キマス、質問第九、朝鮮ニ於ケル行政司法ノ衝突ニ關スル質問――鮎川盛貞君	一通
川尻村ノ區裁判所管轄ニ關スル請願	○ 副議長(柏谷義三君) 本日ノ日程ニ掲ゲテアリマス質問ノ第一霞ヶ浦沿岸江戸崎入八千拓ニ關スル質問、是ハ提出者ヨリ趣旨辯明ヲ省略スルト云フ申出ガアリマシタ、ソレカラ質問第二、第三、第四、第八マデ――第八ソレカラ第十二、第十三、第十六、以上ノ質問ニ對シマシテハ政府ヨリ答辯書ガ參テ居リマスカラ、日程カラ省キマス、質問第九、朝鮮ニ於ケル行政司法ノ衝突ニ關スル質問――鮎川盛貞君	一通
姦通罪ニ關スル法規改正ノ請願	○ 副議長(柏谷義三君) 本日ノ日程ニ掲ゲテアリマス質問ノ第一霞ヶ浦沿岸江戸崎入八千拓ニ關スル質問、是ハ提出者ヨリ趣旨辯明ヲ省略スルト云フ申出ガアリマシタ、ソレカラ質問第二、第三、第四、第八マデ――第八ソレカラ第十二、第十三、第十六、以上ノ質問ニ對シマシテハ政府ヨリ答辯書ガ參テ居リマスカラ、日程カラ省キマス、質問第九、朝鮮ニ於ケル行政司法ノ衝突ニ關スル質問――鮎川盛貞君	一通
捐保郡有限責任購買組合會ニ鹽元賣捌指定ノ請願	○ 副議長(柏谷義三君) 本日ノ日程ニ掲ゲテアリマス質問ノ第一霞ヶ浦沿岸江戸崎入八千拓ニ關スル質問、是ハ提出者ヨリ趣旨辯明ヲ省略スルト云フ申出ガアリマシタ、ソレカラ質問第二、第三、第四、第八マデ――第八ソレカラ第十二、第十三、第十六、以上ノ質問ニ對シマシテハ政府ヨリ答辯書ガ參テ居リマスカラ、日程カラ省キマス、質問第九、朝鮮ニ於ケル行政司法ノ衝突ニ關スル質問――鮎川盛貞君	一通
國旗取扱法制定ノ請願	○ 副議長(柏谷義三君) 本日ノ日程ニ掲ゲテアリマス質問ノ第一霞ヶ浦沿岸江戸崎入八千拓ニ關スル質問、是ハ提出者ヨリ趣旨辯明ヲ省略スルト云フ申出ガアリマシタ、ソレカラ質問第二、第三、第四、第八マデ――第八ソレカラ第十二、第十三、第十六、以上ノ質問ニ對シマシテハ政府ヨリ答辯書ガ參テ居リマスカラ、日程カラ省キマス、質問第九、朝鮮ニ於ケル行政司法ノ衝突ニ關スル質問――鮎川盛貞君	一通
鑄種專賣法制定ノ請願	○ 副議長(柏谷義三君) 本日ノ日程ニ掲ゲテアリマス質問ノ第一霞ヶ浦沿岸江戸崎入八千拓ニ關スル質問、是ハ提出者ヨリ趣旨辯明ヲ省略スルト云フ申出ガアリマシタ、ソレカラ質問第二、第三、第四、第八マデ――第八ソレカラ第十二、第十三、第十六、以上ノ質問ニ對シマシテハ政府ヨリ答辯書ガ參テ居リマスカラ、日程カラ省キマス、質問第九、朝鮮ニ於ケル行政司法ノ衝突ニ關スル質問――鮎川盛貞君	一通
右及質問候也	○ 副議長(柏谷義三君) 本日ノ日程ニ掲ゲテアリマス質問ノ第一霞ヶ浦沿岸江戸崎入八千拓ニ關スル質問、是ハ提出者ヨリ趣旨辯明ヲ省略スルト云フ申出ガアリマシタ、ソレカラ質問第二、第三、第四、第八マデ――第八ソレカラ第十二、第十三、第十六、以上ノ質問ニ對シマシテハ政府ヨリ答辯書ガ參テ居リマスカラ、日程カラ省キマス、質問第九、朝鮮ニ於ケル行政司法ノ衝突ニ關スル質問――鮎川盛貞君	一通

セシムルコトガ出来ナイト云フコトア旗レル次第テヨサイアス之ヲ要ズ
ルニ中學ノ今日ノ狀態ニ於テハ、第一ニ五學年ノ意義ヲ沒却
シ、第二ニ全校ノ風紀ヲ廢シ、第三ニ少年ニ思想ノ確立ヲ
ハ、假リニシレデ宜シシトシタ所デ、中學ダケデ「丁ラントスル
所ノ多クノ子弟ノ教育ヲ、ドウスルカト云フ問題ガ起ルノア
リマス、中學ヨリ上ニ進マナイデ、ソコダケヤシテ行ク者ノ
爲メニハ、一方ニ試験勉強ヲスル者ノ爲メニ、五學年ヲ混亂
サセラレ、而シテソコニ一緒ニ入ラテ中學ダケデ教育ヲ了ラン
トスル、誠ニ不幸ナ結果ヲ來スト思フノアリマス、斯ウ云フ
狀態ニアリマスカラ、中學校ノ教師ノ方モ非常ニ張合抜ケ
ガ致シマシテ、今日ノ中學教育ハ、殆ド根本的ニ其意義ノ
破壊ヲ招クト云フヤウナ傾向ヲ來シテ居ルノアリマス、成
程年限短縮ト云フコトハ結構デアリマス、併シ年限短縮ハ、
實質ヲ件シテコソ始メテ値打カアルノアリマス、實質が低下
致シマシテ、而シテ一年間ノ年限短縮ガ出來マシテモ、是ハ
私ハ所證何ノ效ハ無イト思フノアリマス、是ニ於テ「ソ申
上ダテ置キタイ事ハ、政府ハ此事ヲ考ヘタ結果デアルカドウ
カ知ラヌガ、學制改革ト共ニ、七年制ノ高等學校ト云フモ
ノヲ捨ヘルコトニ定マツタノデアルガ、何故カ七年制ノ高等
學校ハ今日迄設ケラレナイ、若シ此七年制ノ高等學校ガ出
来レバ、此缺陷ニ多少ノ緩和ヲ來スコトガ出來ルデアラウト
思フノアリマスカ、政府ハ果シテ此弊害ヲ認メテ居ルノデアルカ、
居ラヌノデアルカ之ヲ伺ヒタイ、而シテ政府ガ此弊害ヲ認メ
ナイノデアルカ、以上我國ノ中學教育ト云モノハ、斯ノ如
ク破壊シ去ラレント云フコトニ就テ、政府ノ御所見ハ如何
デアリマスカ、政府ハ果シテ此弊害ヲ救済シテ行クコトガ
出來ルノデアルカ、此ニ對スル政府ノ御見込ヲ伺ヒタイノデ
ゴザイマス、矢張是ハ教育上ノ問題デアリマス、次ニ第一ノ私ノ
質問ハ元來政府ハ國民思想ノ善導ト云フ事ヲ頻リニ言ツ
テ御在ニナル、併シ私ナドノ見ル所ニ依リマスルト、如何ニ
モ誠意ニ乏シト云フコトヲ考ヘルノアリマス、而シテ此思
想ノ問題ノ事ニ就キマシテハ、既ニ一再ナラズ私ハ此壇上
ニ於テ申上ダマシタカラ、諄々シク今日ソレヲ言フコトヲ避
ケマシテ、唯一ソノ實例ニ就テ御説明ヲ願ヒタイト思フノア
リマス、矢張是ハ教育上ノ問題デ、今度ハ小學校ノ側ニ
導ト云フ事ニ就テ、政府ハ如何ニモ誠意ト注意トガ足ラナ

イト云フコトヲ感シ來ルノテアリマス當テ私ガテ此處デ申シタ通り、原總理大臣ハ世界ノ進歩ニ順應スル日本ノ新文明ヲ建設スルニハ、明治時代ニ遺方デハ未ダ完成ノ域ニ達シナイ、所謂新文明ノ建設ハ大正國民ノ使命デアルト言ハレル、然ルニ政治ノ上ニソレガ徹底シテ居ラナイ、今度ノ歴史教科書ノ編纂ヲ見テモソレガ分ル、小學校ノ歴史教科書——四年目毎ニ改訂セラレル歴史ノ教科書——ハツイ此頃出來上ニテ參リマシタ、即チ小學校ノ五年六年デ使フ所ノ教科書デアリマス、之ヲ開イテ見マスルト戰爭ノ事バカリガ多イ、成程日本ノ歴史ニ於テハ、武ヲ用ヰ戰ヲ爲シタト云フコトハ從來多カタノニアリマス、併ナガラ文化教育ヲスルト云フコトガ、何ヨリモ今日ノ時代ニ適應シタ大切ナル教育デアルトスルナラバ、此軍事的偏武的色彩ノ記述ヲ、少シ歴史教科書ノ上カヲ薄クシテ、今少シク文化的ノ記述ニ力ヲ用井ル必要ハ無イカト云フコトヲ感ズル次第ゴザイマス、更ニ第十一課デアリマシタカ、弘法大師ト云フ所ノ一課ヲ設ケテアル、而シテ同ジ時代ノ平安朝ニ於ケル所ノ弘法ト相併シテ、佛教上ノ二大偉人デアルノミナラズ、日本ノ文化史上ニ抜クコトノ出來ナイ關係ヲ有シテ居ル所ノ、天台宗ノ傳教大師ヲ逸シ去タノハドウ云フ譯ゴザイマスカ、前ノ教科書ニハ僅カデアリマスガ、傳教ト弘法ト二人並ベテ書イテアタタニモ拘ラズ、今回ハ弘法大師ハ一章ニナクテアリマスガ、傳教大師ハ全然之ヲ記述シテ居リマセヌ、弘法大師ヲ舉ゲテ日本文化ノ貢獻者ヲ明カニシタハ誠ニ結構ダガ傳教大師ハ平安遷都ニ於キマシテハ缺クカラサル關係ヲ有テ居ル日本ノ文明史上ニ大ナル關係ノアル所ノ人デアル、ソレヲ全然逸シ去タト云フコトハ如何ナル趣意ニ出デタノデアルカ、若シ之ニ意味アリトスルナラバソレヲ承リタイ、又不注意テ知ラズ識ラズニ之ヲ抜イタストスルナラバ、如何ニモ國民思想ノ上ニ本當ノ誠意ガ政府ニ無イ、文部當局ニ誠意ガ無イト云フコトヲ認メナケレバラスト思フノデゴザイマス、此點ヲ一言申上げマシテ、御返答ヲ願ヒタイ次第デアリマス、以上ハ第一ノ質問デアリマス、最後ニ私ハ此頃頻リニ世間ニ喧傳セラレテ居ル所ノ大本教ノ事ニ就テ、一言質問ヲ致シタイノデアル、大本教ハ近年大分世間ニ信仰スル人々如キモノヲ只今マテ其儘ニシテ置イタト云フノデアリマス、勿論日本ニ於テハ信教ハ自由デアル、殊ニ宗教ニ彼ノ宗教魂歸神ナルモノハ、日本ノ法ノ上ニ禁ジテ居ル所ノ催眠術ノ濫行デアル思ゴテ居ルノデアリマスガ、政府ハ何故ニ斯ノ此宗教ト徒ラニ甲乙ヲ附ケテ、之ヲ干渉掣肘スルト云フヤウナコトハ、新シイ思想ノ上デハ之ヲ許シマセヌ、私モサウ云

務進捗ノ上ニ於テ、最モ必要ナル點アリマス、事柄ハ些細ノヤウデアリマスガ、事懸テ重大ナル案件ダト信ズル事項アリマス、其問題ハ行政裁判例第七條ニ依リマスレバ「判決ハ審問終結シタル期日又ハ其ノ期日ヨリ十四日間ニ之ヲ言渡スヘシ」ト云フ規定ガ現存シテ居ルノアリマス、併ナガラ此規定ガ果シテ嚴格ニ應用サレテ居ルカ否ヤト云フコトガ、一ノ疑問トナツテ居ルノアリマス、私ノ調べマシタ一例申上ゲマスト云フト、大正四年ノ事件デアリマシテ、其事件ハ村會ノ爭論事件デアリマス、其辯論ノ終結致シマシタ一例ノハ、大正七年ノ十月九日デアリマシテ、其終結ハ條件付結審トシテ辯論ハ終結サレテ居リマス、勿論條件付デアリマスカラ、其間ニ雙方カラ舉證ヲ許スト云フ意味デアラウト思ヒマス、所デ其間ニ何等ノ審理、何等ノ證據調ナクシテ判決ノ言渡ガアリマシタノハ、越ヘテ越ヘテ大正九年十二月二十七日ニ判決ガ下サレテ居リマス、此間約二年有餘箇月デアリマス、是ハ最モ甚シキ一ソノ例デアリマセウガ、少クトモ五年三年若クハ一年ト云フヤウナ如キハ、稀デハナイト斯様ニ思フノアリマスヘレドモ今斯ノ如キ例ヲ澤山列舉スルアリマス、是ハ最モ甚シキ一ソノ例デアリマセウガ、少クトモ五年三年若クハ一年ト云フヤウナ如キハ、稀デハナイト斯シテ其判決ノ結果如何ヲ想望致シマスモノ、切實ナルモノガアルノアリマス、殊ニ人事煩雜ナル此實社會ニ接シテ居ル者ト致シマシテハ、ヨリ以上ニ判決ノ結果如何ヲ望ムモノノ實狀ニ遠ザカニテ居ル者ナラハイザ知ラズ、實社會ニ鬱鬱致シテ居ル者ニ對シマシテ、辯論終結ノ一年有餘ノ歲月後ニテ、以テ事件ノ結果ヲ早カラシムルノ必要ヲ御認ニナリマス、要スルニカ、否ヤト云フコトヲ御伺スルノアリマス、要スルニ其一般当事者ノ權利擁護上、此質問ヲ爲ス所以デアリマス、願クハ政府ニ於カレマシテハ、明快ナル御答辯アラシコトヲ望マス(拍手起ル)

○副議長(粕谷義三君) 質問ニ對シマスル政府ノ答辯書ニ對シテ、意見ノ陳述ヲシタ伊ト云フ申出ガアリマス、此發言ヲ許可致サウト思ヒマス、木檜三四郎君

行政監督ニ關スル質問ノ答辯ニ對スル木檜三四郎君ノ意見

(木檜三四郎君登壇、拍手起ル)

行政監督ニ關スル質問ノ答辯ニ對スル本
倫三四郎君ノ意見

務進捗ノ上ニ於テ、最モ必要ナル點アリマス、事柄ハ些細ノヤウデアリマスガ、事懸テ重大ナル案件ダト信スル事項アリマス、其問題ハ行政裁判例第七條ニ依リマスレバ「判決ハ審問終結シタル期日又ハ其ノ期日ヨリ十四日間ニ之ヲ言渡スヘシ」ト云フ規定ガ現存シテ居ルノデアリマス、併ナガラ此規定ガ果シテ嚴格ニ應用サレテ居ルカ否ヤト云フコトガ、一ノ疑問トナシテ居ルノデアリマス、私ノ調ヘマシタ一例ヲ申上げマスト云フト、大正四年ノ事件デアリマシテ、其事件ハ村會ノ爭論事件デアリマス、其辯論ノ終結致シマシタノハ、大正七年ノ十月九日デアリマシテ、其終結ハ條件付結審トシテ辯論ハ終結サレテ居リマス、勿論條件付デアリマスカラ、其間ニ双方カラ舉證ヲ許スト云フ意味デアラウト思ヒマス所デ其間ニ何等ノ證據ナクシテ判決ノ言渡ガアリマシタノハ、越ヘテ越ヘテ大正九年十二月二十七日ニ判決ガ下サレテ居リマス、此間約二年有餘箇月デアリマス、是ハ最モ甚シキ一ソノ例デアリマセウガ、少クトモ五年三年若クハ一年ト云フヤウナ如キハ、稀デハナイト斯様ニ思フノデアリマスケレドモ今斯ノ如キ例ヲ澤山列舉スル、必要ナキヲ認メマシテ先づ其一班ヲ申上げルニ過ギヌアリマスゾコニ私ハ考ヘルノテアリマス當事者間ニ於キマシテ其判決ノ結果如何ヲ翹望致シマスモノ、切實ナルモノガアルノデアリマス殊ニ人事煩雜ナル此實社會ニ接シテ居ル者ト致シマシテハヨリ以上ニ判決ノ結果如何ヲ望ムモノデアリマス、若シソレ絶海ノ孤島ニ棲息致シマシテ、現社會ノ實狀ニ遠ザカニ居ル者ナラバイザ知ラズ、實社會ニ齷齪致シテ居ル者ニ對シマシテ、辯論終結ニ二年有餘ノ歳月後ニ於テ、判決ノ言渡ヲ受ケルト云フ事實ノ如キハ、實ニ忍ブベカラザル苦痛デアルト云フコトヲ絶叫スルモノデアリマステ、此點ニ於キマシテ、政府ハ裁判令第七條ヲ厲行サレマシテ、以テ事件ノ結果ヲ早カラシムルノ必要ヲ御認ニナリマスカ、否ヤト云フコトヲ御伺スルノデアリマス、要スルニ其一般當事者ノ權利擁護上、此質問ヲ爲ス所以デアリマス、願クハ政府ニ於カレマシテハ、明快ナル御答辯アラシコトヲ望マス（拍手起立）

私ハ斯様ニ思フ、更ニ黨勢擴張ノ爲メニ町村ノ自治ヲ攪亂
ヲ致スノデハナイカト云フニ對シテ、所謂國家ノ基礎タルベ
キ町村ノ自治ヲ、更ニ攪亂致サナイト斯様ニ申サレテ居リマ
ス、而シテ町村長ガソレガ爲メニ——黨勢擴張ノ爲メニ官憲
ニ脅威セラレテ、町村長ガ罷メラレタト云フコトヲ私ガ申シ
タニ對シテ、ソレハ左様ナ事ナシ、所謂町村ノ人望ヲ失シ
テ政務ヲ懈タ爲メニ、村民非難ノ聲アルガ故ニ罷メタノデ
アルト云フコトヲ答辯シテ居ラル、是亦内務行政ノ権機
ヲ握シテ居ル内務大臣トシテ、此答辯ハ甚ダ其要ヲ得テ居
ラナイ、私ガ一二ノ實例ヲ舉ゲテ即ちヒマシタノハ、而モ群馬
縣ニ於ケル吾妻郡伊參村ト云フ、ヲ摘舉致シタ、此村ノ如
キハ町村制始テ以來、未ダ會テ優良村トシテ表彰サレテ居
リマセヌデシタガ、曩ニ罷メラレタ綿貫宇十郎ガ村長トナツテ
模範村トナツタノデアル、内務大臣ハ此事ハ知シテ居ラナイ筈
ハナイ、然ルニ此村長ガ罷メタノハ、職務ヲ懈リ村民非難ノ
聲ガアツタ爲メニ罷メタトシテアル、内務大臣ハ先頃委員會
ニ於テモ、模範村ノ數マデ舉ゲテ御示ニナツテ居ルニ拘ラズ、
模範村ノ一デアル、而モ所謂自治制ニ功績アル——自治制
ヲ採用シテ以來、初メテ模範村ニナツタ此村ノ模範村長ガ罷
メラレタノハ、村政ニ非難ノ聲高キガ爲メニ罷メタト強辯ヲ
致シテ居ラレ、是等ノ事實ノ上ニ於テ内務大臣ガ唯ダ強
辯ニ事ヲ缺イテ、斯様ナル答辯ヲ致シタコトハ明カデアル、或
ハ今一ツ實例ヲ舉ゲマシタ高山村長ノ如キモ、相當ノ德義ヲ
持ツテ居ル人デアリマスガ、又黨派問題ニ脅威サレタ爲メニ罷
メサセラレタノデアル、何等村政ノ非難モ無ケレバ、村民カラ何
等苦情ガ無イノデアリマス、斯ウ云フヤウナ事ハ小サイヤウナ
問題デアリマスガ、國家ノ基礎ハ自治行政デアリマス、是等
ノ事ハ床次内務大臣ハ、最モ重キヲ町村自治ニ置クノデア
ル、アルカラ御知リデアラウニ、更ニ之ヲ知ラナイ風ヲ致シテ
トヲ等ノ事實即チ自治ノ破壊上云フヤウナ形ハ更ニ無イ、唯
ダ村政ノ上ニ職務ヲ懈タノデアルガ爲メニアルト云フヤウ
ナ答辯ハ、内務大臣自ラ反省シテ、今少シク眞面目ナ御答
辯ヲ爲サルガ宜シイト私ハ思フ、ソレカラ官紀振肅ノ問題、ソ
レハ機會アル毎ニ官記振肅ヲ致シテ居ルカラ、更ニ其缺點
ハ無イト申サレテ居ル、ソレモ實例ヲ舉ゲタノデ、ソレハ群馬
縣ニ於ケル土木課長ガ風水害ニ出張シタノデアツテ、其等ノ
政府ノ有力家ヲ呼ビ集メテ、殊ニ縣會議員ノ候補者タル人
ト共ニ携ヘ行シテ町村ノ重立タ者ヲ召集シテ、其場所ニ於
テ道路法ノ實施ノ效能ナドヲ説イタノデアルカ、此點ハ内務

シタト云フコトヲ明言致シテ居ル、更ニ實科高等女學校ト云フヤウナモノ、職員任免ノ事ニ向シテモ、縣が官權ヲ濫用シテ任免致サスト云フコトヲ申シテ居リマスガ、即チ罷メラレタ本人自ラ申シテ居ル、縣廳ノ官吏ガ來テ罷メニスルヤウニト云フコトデ忠告ガアッタノデ、已ムヲ得ズ罷メニシタト云フコトヲ申シテ居ル、總テ是ガ黨派關係ヲ以テ來テ居ル、更ニ此問題ヲ證明スル爲メニハ、本年三月ヨリ桐生ニ市制ヲ實施スルト云フノヲ、政友會ニ入レバ早く市制ヲ實施シテヤルト云フ是ハ證言ガアッ、即チ桐生町立ノ中學校ヲ縣立ニ引直シ、市制ヲ早く實施シテヤルト云フ證言デアッテ、昨年縣知事が十二月十日ニ桐生ニ招カレテ行々時ノ宴會ノ席デ約束ヲ致シマシテ、而モ知事ハ公然ト此御馳走ヲ戴イテ喰逃ハ致サヌトマデ、職務ヲ持ダ知事が演説ヲシテ居ル、此事デモ明カデアリマス、是等ノ事ハ一國ノ内務大臣ハ地方官ノ監督ヲシテ居ル以上ハ、是等ノ事ハ御知リデアルベキ筈デアリマス、唯ダ恬然トシテ更ニ顧ミナイト云フナラバ格別デアリマスケレドモ、地方行政ニ重キヲ置ク内務大臣ハ、是等ノ點ニ於テ一段ノ注意ヲ願ヒタイト私ハ思フノデアリマス、(簡単ト呼フ者アリ)内務大臣ハ免モ角モ一國ノ内務行政ヲ背負テ立ツ者デ、皆サン御承知ノ通り、官吏ハ廉恥ヲ重ンジ貪惡ノ處置アルベカラズ、是ガ即チ官吏ノ心情デアリマセウ、是ダケ事ヲ爲サシムベク監督ノ樞機ヲ握ツテ居ル内務大臣ハ、私共が一國ノ行政ノ上ニ憂慮ヲ致シマシテ、ソレガ爲メニ眞面目ナル質問ヲ致ス爲メニ、實例ヲ舉ゲテ質問ヲ致シタ其答辯ニ於テ事實有ルモノヲ無シト強辯ヲスルガ如キハ、内務大臣トシテ爲スペカラザル事デアルト私ハ思フ、明治大帝が御卽位ノ時ニハ、億兆一人其ノ處ヲ得ザルモ朕ノ罪ナリト仰セラレテ、所謂一人ノ不平ノ徒アルモ、陛下ハ之就テ御軽念遊バサレル旨ヲ申サレテ、所謂民衆政治ヲ主ト爲サルコトヲ言ハレテ居ル、其下ニ一國大臣ニナシテ居ル人ガ、多數ノ國民ガ不平ヲ放ツナラバ、之ニ向テ眞面目ナル答辯ヲナルノガ、大臣トシテ天皇陛下ヲ輔弼シ奉ル當然ノ役目デアルト思フノデアリマス、(拍手起ル)私ハ唯ダ如何ニ政友會ト云フモノヲ背景ニシテ大臣ニナシタトハ申シナカラ、苟モ大臣トナダ以上ハ、國家ノ爲メニ政務ヲ爲スベキモノアリテ、所謂政黨行政ヲ爲スペキモノデナクシテ、國家行政ヲ爲スペキモノデアルト思フ、内務大臣ハ相當知識アル人デアリマスカラ、此點ハ國家ノ上ニ鑑ミラニ政務ニ厲精一番セラレシコトヲ私ハ望ム、何モ神ナラヌ身シタ事ニ向シテハ、眞面目ナル反省ヲナサレテ、有ルモノハ有ルトシテ答辯シ、不正ナルモノハ正シウシテ、而シテ自己ノ行政事務ニ厲精一番セラレシコトヲ私ハ望ム、何モ神ナラヌ身

デアリマスカラ、惡シキ事ガアリマシテモ、ソレヲ惡イモノトハ申サヌ、反省ヲ致シテ國務ノ上ニ眞面目ニ爲サレバ、ソレデ宜シイノデアリマス、私ハ爰ニ長ク諸君ノ御耳ヲ煩ハスコトヲ避クル爲メニ、國務大臣ノ國務ヲ爲サルニハ、黨派本位ヲ離レテ、國家本位ノ上ニ猛省シテ戴キタイ、殊ニ私共ノ質問ハ事實ヲ提ダテ申上ダタノデアリマスカラ、此點ニ向テハ特ニ御調ヲ願ヒマシテ、若シモ内務大臣監督ノ上ニ不注意ガアツタナラバ、前ニ自己自ラ監督ノ手落ヲ改メテ、國家ノ爲メニ、正シキ行政事務ヲ爲サレンコトヲ偏ニ冀フ次第デアリマス(拍手起ル)

養歸業者救濟ニ關スル質問ノ答辯ニ對ス
・山邊重君ノ意見

○副議長(粕谷義三君) 山邊常重

○山邊常重君 諸君、本員八養蠶業者

政府ニ質問書ヲ提出致シマシタ所、之ニ對シマシテ政府カラ應答ガアリマシタガ、併シ此答辯ニ私ハ満足スルコトハ出來ナイノデ、再び本壇上ニ現ハレタ次第アリマス、政府當局者ハ曰ク、大正九年度ニハ養蠶業者ヲ救濟スルト云フ趣意カラ日本銀行カラ低利資金一千万圓ヲ貸出スコトニシ

得タノデアル、併シ大正十年度ニ於キマシテヘ、一方ニ童
蠶會社ガアルノデアテニ對シテ、三千万圓ノ助成金ヲ交
付スルコトニナツテ居ルゾレガ爲メニ生絲ノ市價ハ十分ニ之
ヲ維持スルコトガ出來得ルカラ、大正十年度ニ於テハ、別ニ
養蠶業者ヲ救濟スルノ必要方無イノデアル、斯ウ云フ御答
辯ニアリマス、甚ダ奇怪至極デアルト私ハ思フノデアリマス、
何トナレバ大正九年度ニ一千万圓ノ低利資金ヲ出シマシテ
テ相當ナ成績ヲ擧ゲ、且ツ非常ナル效果ヲ擧ゲ得タノデアル

ト政府ハソレ自身ハ信ジテ居ル、然ルニ大正十年度ニハ是
ガ必要ガ無イ、此必要ガ無トイ云フ其理由ガ那邊ニ在ルカ、
私ハ其議論ノ根據ノ發見ニ苦シムノデアリマス、私ハ大正
九年度ニ於テ、政府ガ相當ノ成績ヲ舉ダト云フコトヲ確
信サレタナラバ、大正十年度ニ於テモ、矢張日本銀行ヨリ一
千万圓乃至二千万圓ノ低利資金ヲ出しシテ、一般養蠶業者
ヲ救濟スルト云フコトハ必要デアル、成程政府當局者ノ說
明ノヤウニ、市價ノ維持ヲ圖レバ養蠶家ハ矢張間接ニ其利
益ヲ得ル、本年ハ別ニ養蠶業者ヲ救濟スルノ必要ハ無イ

成程一應尤モノヤウデアリマスケレドモ、大正十年度ニ於テ
帝鑑會社ニ三千万圓ノ助成全ヲ交付スルト云フコトハ、大
正九年度ニ於ケル生絲ノ始末デアルガ、マダ大正十年度ニ

對シテ何等ノ方針モ無イノデアル、勿論私モ帝國會社ニ三千万圓ノ助成金ヲ交付スルコトハ、決シテ異論ハ唱ヘマセヌ、併シ帝國會社へ三千万圓ノ助成金ヲ交付シテ、尚且ツ同ジヤウニ之ヲ救濟スルト云フコトガ、最モ必要デアルト絲價ノ維持ヲ圖ルト云フ心掛デアタナラバ、大正九年度ニ於テ相當成績ヲ擧ゲ得タリト云フ此低利資金ヲ、更ニ大正十年度ニ於キマシテハ一般養蠶業者ニ貸出シテ、大正九年度物價ハ下落シテ居リマスルケレドモ、尚且ツ一貫目春蘭時ニハ少クトモ七圓三十五錢程ノ生産費ヲ要スルノデアラル、若シ三千万圓ノ助成金ノ交付ガアリマシテ、大正九年ノ絲ハ全部足デ始末ガ付キマスケレドモ、大正十年度ニ於ケル生絲ニ對スル資金ガ無イコトニナリマシタナラバ、恐ラク春蘭ノ如キハ、矢張一貫目四圓乃至三圓五十錢ニ下落スルダラウト思フ、サウシマスルト、養蠶業者ノ被リマス損害ハ實ニ其額莫大デアリマス、過日支那ノ上海ニ於キマシテ、生絲約八万數千捆蘭ヲ數千石燒キマシタ、是ハ只ダ燒イタノデナイ、火災ニ罹テ燒イタノデアリマス、其市價ガ約二千八百万圓ト聞イデ居リマス、是ハ支那ニ取りマシテハ誠ニ御氣ノ毒ナ詰デアル、併ナガラ我が日本ニ取りマシテ、殊ニ製絲家養蠶業ニ取りマシテハ、非常ニ幸福ナ事デアル、是等ガ自動機トナリマシテ、數日來生絲ノ賣行カ甚ダ好クナテ來居リマス、又市價モ千五百圓内外ヲ唱フルヤウニナテ居リマス、併シ是ハ一時のノ現象デアリテ、決シテ永久的ノ現象デハナカラウト思フ、ソレガ爲メニ私ハ一方三千万圓ノ助成金ヲ交付シテ、帝國會社ヲ救濟スルト同時ニ、更ニ一方ニ日本銀行ヨリ低利資金一千萬圓乃至二千万圓ヲ出しシマス、併シテ生絲ノ市價維持ヲ圖ルト云フコトハ、一見甚ダ宜シシテ、サウシテ養蠶業者ヲ救濟スルコトニ致シマシクナラバ、是兩々相俟テ始メテ此養蠶業者ト云フモノヲ、救濟スル目的ヲ貫徹スルコトガ出來ルノデアル、只ダ帝國會社ダク助成シテ生絲ノ市價維持ヲ圖ルト云フコトハ、是ヤウニ思ヒマスケレドモ、其實情ヨリ研究シマシタナラバ、是ハ片手落ノ處置デアル、願クハ政府當局ニ於カレマシテモ、大正九年度ニ於テ好成績ヲ擧ゲ得タノデアリマスカラ、大正十年度ニ於テモ更ニ日本銀行ニ命ジマシテ、一千万圓乃至二千万圓ノ低利資金ヲ一般養蠶業者ニ貸出し、サウシテ此絲價ノ維持ニ努力スルト同時ニ、養蠶業者ノ益、隆盛ナランコトヲ期スルハ、國家トシテ當然執ルベキ途デアラウト信ズルノデアリマス、聊カ卑見ヲ述ベマシテ更ニ深切ナル政府ノ御答辯ヲ得タイノデアリマス、是デ壇ヲ降リマス○副議長(柏谷義三君) 橫山勝太郎君

○副議長(柏谷義三君) サウデス
○岩崎勳君 然ラバ 議事日程變更ニ關スル緊急動議ヲ
提出致シマス、即チ茲ニ政府提出、關稅定率法中改正法律案、及政府提出、製鐵業獎勵法中改正法律案ヲ一括
議題ト爲シ、其第一讀會ノ續キヲ開キ、委員長ノ報告ヲ求
メ、且ツ其審議ヲ進メラレンコトヲ望ミマス
〔賛成「賛成」ノ聲起ル〕

○副議長(柏谷義三君) 御異議ナシト認メマス、仍テ日程ハ變更セラレマシタ、關稅定率法中改正法律案、製鐵業獎勵法中改正法律案、此兩案ヲ一括シテ第一讀會ノ續キヲ開キマス、委員長報告 指田義雄君

關稅定率法中改正法律案(政府提出)
第一讀會ノ續(委員長)

報告書
右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致候此段及報告
一關稅定率法中改正法律案(政府提出)

大正十年三月二十二日

法律案委員長

衆議院議長奥繁三郎殿

第一讀會ノ讀(委員長)
新録美少隠治口改正活術案(山形提出)

製鐵業獎勵法中改正法律案(政府提出)
報告書

本院ニ於テ可決ス。半モノト講決致候此段及報告

製鐵業獎勵法中改
正法律案委員長
指田

衆議院議長奥繁三郎殿

官報號外
大正十年三月二十三日

衆議院議事速記錄第三十二號

議業者救濟ニ關スル質問ハ答辯ニ對スル山邊常重君ノ意見
鑑事日程變更ニ關スル緊急動議 關稅定率法中改正法律案外

○指田義雄君 只今上程セラレマシタ兩案ノ委員會ノ經過ヲ御報告申上ダマス、關稅ノ改正ニ就キマシテハ、前議會ニ於キマシテ各種ノ原料品ニ對スル稅率ノ按排ニ依テ、我が產業保護ノ政策ト致サレタノデアリマス、而シテ同議會ニ於テ、本院全體ノ希望ト致シテ、製鐵亞鉛其他各工藝品ニ對スル關稅政策ヲ、次ノ議會ニ適當ニ提案ヲスベシト云フ希望ガ附セラレ居タノデゴザイマス、本案ハ即チ其希望ニ準應致スガ爲メニ提案セラレタモノニアリマス、而シテ此内容ニ就キマシテハ、彼ノ財政經濟調査會ニ於テ決定セラレマシタ所ノ復申ノ趣旨モ、亦之ニ參酌セラレテ居ルノデアリマス、故ニ私ハ此際本案ノ改正ノ要旨ニ就キマシテ、搔拗ンデ御報告ヲ申上ダニテ置ク必要ガアラウト考ヘマス、暫時御清聽ヲ煩ハシタイト存ジマス、本案改正ノ要點ハ、先づ第一ハ製鐵業ニ對スル關稅ノ保護政策ニアリマス、製鐵ノ輸入稅ハ從來從量稅デゴザイマシタモノヲ、約一割五分見當ヲ標準ト致シマシテ從價稅ニ改メマシタ、其結果ト致シマシテ關稅ハ或程度ニ引上ケラレテ、内地製鐵事業ノ發達ヲ保護スルコトニ相成ルノデアリマス、第二ハ造船材料タル所ノ鋼材等ニ就キマシテハ、命令ノ定ムル所ニ依リマシテ輸入稅ノ免除ヲ致シマス併シ此鋼材ニ對スル輸入稅ノ免除ヲ致シマス結果、内地ニ於ケル製鋼業ヲ壓迫致シマス虞カゴザイマスル爲メニ、若シ内地ニ於テ製造致シマシタ所ノ鋼材ヲ以テ、造船材料ニ使用セラレマシタ場合ニ於キマシテハ、其權衡ヲ得セシメント云フ目的ヲ以テ制定セラレタノデアリマス、次ニ化學工業ノ發達ヲ保護致シマスルガ爲メニ、色ニナマスルト同時ニ、一面ニ於キマシテハ内地ニ於ケル製鋼業ノ發達ヲ希望致シマシテ、國家ハ其負擔ニ於キマシテ、兩者ノ關係ヲ得セシメント云フ目的ヲ以テ制定セラレタノデアリマス、同様ニ三十五錢ヲ課稅シ、過酸化曹達ノ如キハ從來四圓其主ナル物ヲ一三御紹介ヲ申上ダマスレバ、例へば苛性曹達ハ從來百斤七十錢アタモノ、一躍一圓五十錢ニ引上げ、炭酸曹達ハ從價一割トシテ、天然曹達ニモ曹達灰ト目等ハ大分ニ色ニノ種類ニナシテ居リマスカラシテ、本案ノ別表ニ就テ御審査ヲ願ヒマシテ、爰ニ御報告ハ省略致スコトニ致シマス、之ヲ要シマスルニ化學工藝品ニ就キマシテハ、詰リ曹達工業、油脂分解工業ヲ保護セントスル行政ヲ行ハレントスルモノニアリマス、其次ニハ亞鉛工業ノ發達ヲ期

フルカ爲ノ三、從來毎百斤ニ付七十銭ノモノナ四倍強ニ當ルマス所ノ三圓ニ引上ダタノデゴザイマス、併ナガラ亞鉛ノ關稅ヲ引上ダマス爲メニ、其他ノ工業ニ及ボシマス所ノ影響ヲ考慮致シマシタ、亞鉛華厚〇、二五「ミリメートル」ヲ超ヤザル所ノ薄板、又ハ命令ヲ以テ指定致シマシタル卽チ燐ニ會ノ間ニ問題ト相成テ居リマシタル彼ノ製鐵造船若クハ化學工業ニ就キマシテ、自給自足ヲ目的トシテ起リマシタル所ノ各般ノ工業ヲ保護獎勵致シマスル爲メニ、關稅ノ按排ニ依リマシテ、其發達ヲ或程度マテ助長セントコトヲ期待セントスルモノデゴザイマス、惟フニ戰後產業界ノ變動ヲ、折角我國ニ勃興致シ來リマシタ所ノ是等ノ各種ノ事業ニ對シマシテ、最大急務デアルト認メラタノデゴザイマス、然ルニ委員會ニ於キマシテハ、是等ノ關稅改正ニマダ満足ヲ表セラレズ、或ハ之ヲ評シマシテ不徹底ナリトシ、或ハ之ヲ不十分ナリトシテ、非難セラル、尙モアタノデゴザイマスケレドモ、御承知ノ如ク關稅ノ引上ハ他面ニ於キマシテハ、或程度マテ市價ノ昂騰ヲ已ムナクセシムルノデゴザイマス、市價ノ昂騰ヲ當然は等ノ品物ヲ原料ト致シマスル所ノ生產品ニ對シテ、原價ヲ増加セシメテ、延々國民生活ノ間ニ影響ヲ及ボス結果トナルベキコトハ當然デゴザイマスカラ、政府ガ本案ノ關稅ノ按排ヲ要求スルモノモアルノデゴザイマスケレドモ、先づ只今ノ程度ニ於キマシテハ、此改正ヲ以テ先づ相當ニ保護獎勵ノ出來ルモノナリモノデハナイケレドモ、會期切迫致シテ居ル所ノ今日ニ於テ、是等ノ重大ナ法律案ヲ提出シタ云フコトガ、其誠意ヲ認めルコトハ出來ヌ、故ニ再調査ニ付スルト云フ、意味ニ於本案以外ニ於キマシテモ、更ニ關稅ノ適當ナ按排ヲ要求スル員會全體ノ希望ニアタノデゴザイマス、但シ國民黨ノ星島君ヨリ致サレマシテ、本案ヲ否決スベシトノ御意見が出来タノデト致シマシテ、之ヲ是認スルコトニ致シタイト云フコトガ、委員會全體ノ希望ニアタノデゴザイマス、但シ國民黨ノ星島君ラモノデハナイケレドモ、會期切迫致シテ居ル所ノ今日ニ於テ、是等ノ重大ナ法律案ヲ提出シタ云フコトガ、其誠意ヲ

切迫シテ居ル問題ニ就テ再調査ニ付スルモノノ説ニハ何人モ同意セラレマヌク、ダ爰ニ一ノ希望條件ヲ付シテ更ニ政府ノ適當ナル計畫ヲ次ノ議會マテ候ツト云フ意味ニ於キマシテ、本案ヲ是認シヤウト云フコトガ多數アタノデアリマス、其希望ノ條件ヲ爰ニ讀上ダマス

一 加里工業脂肪分解工業石炭酸「カボランダム」「アランダム」ニ對シテ更ニ調査ヲ進メ速ニ關稅改正案ヲ提出スヘシ

二 製鐵工業ニ對シテ更ニ進シテ合同經營ノ方法ヲ取ルヲ必要ト認ム

此二箇ノ希望條件ニ就キマシテ、政府ハ第一ニ對シマシテハ成ベク速ニ調查ヲ遂ゲテ、適當ナル提案ヲシタイト思ウテ居ル、第二ノ製鐵業合同經營ノ問題ニ就キマシテハ、是ハ財政經濟調査會ニ於ケル復申ノ中ニモ含マレテ居ル條項デアッテ成ベク官民合同ノ力ニ依テ、製鐵事業ノ資本ヲ統一整理シ之ヲ共同經營スルト云フ方針ニ進ミタイト考ヘテ居ルト云フ、何レモ答辯ニアリマシタ、委員會ハ此政府ノ答辯ニ敬意ヲ拂ヒマシテ、此希望ヲ附ケテ本案ヲ可決スペキモノニアルト云フコトニ決定致シタ次第第ニヨザイマスル、尙ホ附加^テ申上ダテ置キタイノハ銑鐵ノ事アリマス、財政經濟調査會ニ於テハ、銑鐵ニ對シマシテモ相當ノ保護政策ヲ執ルベク希望セラレテアタノデゴザイマスルケレドモ、政府ノ見ル所ヲ以テ致シマスレバ、日英協定稅率ノ關係、或ハ最惠國條款ノ關係等カラ考ヘマシテ、假令我國ノ關稅ヲ引上ゲマシテモ、我國ノ工業ヲ威嚇致シマスル所ノ――脅カス所ノ印度等ヨリノ輸入品ニ對シテハ、之ヲ適用スルコトガ出來ナシ、最惠國條款若クハ日英協定稅率ニ依リマシテ、是等ニ對シテハ高キ關稅ヲ課スルコトハ出來ナイノデアッテ、若シ我國ノ關稅ヲ引上ダマシタナラバ、是ヲ適用ヲ受ケルモノハ、支那滿洲ノ方面ニ於テ經營致シテ居ル所ノ事業ニ對シテ課稅ヲスルト云フコトニナシテ、延テハ日本人自ラが經營ヲ致シテ居リマスルモノ、關稅ノミヲ引上ゲル結果ニナルノデアルカラ、此銑鐵ノ問題ニ就テハ暫ク手ヲ觸レナイデ、現狀ノ儘ニ置クト云フ趣意アルト云フコトヲ説明セラレテ云々タノデアリマス、尙ホ此從來ノ製鐵保護ノ――製鐵獎勵法ノ效果ハドウデアルカト云フコトニ屬シマシテ、政府ハ答フル所ニ依シ得ル見込デアル、若シ是ガ更ニ相當ノ努力ニ依テ發達致シマシタナラバ、大正十三年頃ニ於テ内地ノ需要ヲ總テ内地品

アルト考ヘテ居ル、現ニ獎勵法發布頃ニ於テハ、彼ノ獎勵法ニ決メテゴザイマス所ノ、五千二百五十一頓級ノ設備ノアツ工場ハ無クナタノアルケレドモ、今日ハ非常ノ數ニ増加ヲ致シテ居ル、大正八年頃ノ成績ニ見テモ、大分發達ノ傾向ヲ有シテ居ルノアリマスカラシテ、政府ノ計畫致シマタル所ノ製鐵事業ノ獎勵ハ、成功シテ居ルモアルト考ヘテ居ルト云フ御答ニアリマシタ、尙ホ星島君ノ主張セラレマシタ會期切迫ノ場合ニ、斯ノ如キ法案ヲ提案シマシタノハ、誠意ガ無キモノアルト云フ點ニ對シマシテハ、元來此製鐵等ノ問題ニ就キマシテハ、財政經濟調査會ニ其意見ヲ諮テ居マシテ、財政調査會ノ復申ノ政府ニ到達致シマシタノハ、本年ノ二月半バ過ギアッタノアル、而シテ其間機械其他ノ方面ニ就テ、始終調査ヲ重ヌベキ必要ガアッタガ爲メニ、洵ニ遺憾デハアタケレドモ餘儀ナキ事情ハ之ヲ了解シテ貴ヒタイ、即チ誠意ヲ以テ——大ナル誠意ヲ以テ本案ヲ提出シタノアルケレドモ、今ノヤウナ事情ハ、惡カラズ諒察シテ貴報告ヨリ省略致シマス、之ヲ要スルニ本案ハ、國民黨ノ星島ヒタイト云フ意味デアッタノアリマスル、其他色々ナル細カ君ヨリ再調査ノ意味ニ於テ、否決シタトイフ御議論ヲ除キマシテ、滿場一致デアッタノアリマス、尤モ茲ニ御報告ヲ申上ゲテ置キマスが多分同様ダラウト存ジマスガ、星島君ノ否決スベシト御意見ハ、關稅定率法改正案ダクニ止マルノデアッテ、此製鐵業獎勵法ノ方ハ贊成ヲセラレタノアリマス、爰ニ私ノ委員長トシテ御報告ヲスルニ少シク迷フ點ガゴザイマスルノハ、關稅定率法ノ改正ヲ否決致シマシテ造船用ノ鋼材等ニ免稅ヲスルト云フコトガ否決サレマスニ拘ラズ、製鐵事業獎勵法ヲ贊成セラレマスルト云フト、製鐵業獎勵ノ爲メニ交付金ヲ交付スルト云フ矛盾ヲ生ズルコトニ相成リマスルデ、私ノ考デハドウモ其意味ヲ御紹介スルコトハ出來マセヌ、ドウモ矛盾ガアルヤウニ考ヘラレマスガ、何レ是ハ否決ノ御意見ニ依テ明カニナルコト、考ヘマス、御參考マデニ附加ヘテ御報告ヲ申上ゲテ置キマス、是デ報告ヲ終リマス(拍手起立)

簡單ニ其否決ノ理由ヲ説明致シタイト思フノアリマス、關稅改正ハ一國ノ重大ナル問題デアリマシテ、是ハ少クトモ輿論ニ問フ必要ガアリ、政黨デ申シマスレバ、其政黨ノ重大ナル政綱ノ一ツデナシレバナラヌ、諸外國ニ在リマシテハ、總選舉ノ當時、或ハ大統領ノ選舉ニ當時是ハ關稅改正ハ其政綱ノ非常ナル重大案目デアルノアリマス、ソレガ此會期切迫非常ナ問題ガ多イ時ニ、突如トシテ之ヲ提案サレルト云フコトハ是ハ眞面目デハナイ、又之ヲ「宣イトシテ通過サスコトハ、立法府ノ面目デハナイト斯ウ私ハ思フノアリマス(拍手起ル)」何時モ委員長ノ報告ニハ、極リ文句ニ慎重審議トアルノアリマスケレドモ、是ハ決シテ慎重審議ハサレテ居リマセヌ、委員會ハ僅ニ二回ニ而モ當局ノ大臣大藏大臣或ハ農商務大臣ハ多クハ出席サレテ居リマセヌ、今日モ出席ガアリマセヌデシタ、此重大ナル案件が議セラル、所ノ委員會ニ、當局ノ責任アル大臣ガ出席サレヌト云フコトハ、是レ即チ慎重審議サレテ居ナイト云フコトヲ確證スルモノアリマス(拍手起ル)殊ニ此錢ノ問題ハ關稅ノ中ニ於キマシテモ、一國ノ產業ニ非常ナル影響ヲ及ボスモノアリマスカラ、是コソ特ニ審議シナケレバナラヌト思フノアリマス、只今委員長ハ、是ハ經濟調査會ニ於キマシテ審議シタモノアルト仰セラル、ケレドモ、調査會ハ調査會、立法府ハ立法府デアリマス、然ラバ此改正案ヲ見マシテモ、根本ニ於キマシテ製鐵業者ノ保護ニハナッテ居ナイ、單ニ是マテノ從量稅ヲ從價稅ニ直シタニ止マル、改正案ハ大體ニ於キマシテ、一割五分ノ從價稅トナシテ居リマスケレドモ、戰前ノ一頓七十圓ノ相場ニ對シテ十圓十六錢當タリノ稅ハ、此改正案ニ依リマスレバ、今日ノ百三十五六圓見當ニ對シテ一割五分ハ二十圓某デ矢張一割五分デ、大シタ改正ニハナッテ居ナイ、詰リ此鐵ノ問題ニシマシテモ、若シ徹底のニ保護スルナラバ、保護スル目的ヲ達シテ居ナイ、サリトテ國家ノ收入ヲ増シテ居ルカト云ヘバ增シテモ居ナイ、極メテ不徹底ナル案ト謂シテ宜イト思フノアリマス、是ニハ政府委員モ委員會ニ於キマシテ、實ニ關稅ノ改正ハ重大ナル問題デアシテ、單ニ鐵ヤ色ニナ問題ニ止マラズ、關稅全體ニ對シテ、大改正ヲ行フ必要ガアルト云フコトヲ言明サレテ居ルノアリマス、サウシテ又一般ノ所謂化學工業ニ對シマシテ、特ニ「シノ實例ヲ擧ダマリセリン」工業ヲ保護セントスルナラバ、「グリセリン」其物ニニ對シテ何故改正ヲ加ヘナカッタカ、或ハ「ダイナマイト」其物ニノ脂肪酸ニ課稅ガサレテ居リマスケレドモ、若シ徹底的ニセントスルナラバ、其等ノ

物ニ對シテモ、當然課稅ヲ増スベキモノデアルノデアリマス、要スルニ收入モ得ラレズ、保護ノ目的モ達セズ、而シテ其最モ影響ノ多イ製鐵業者ニモ保護ニナラヌ、ケレドモ是ガ一旦通過シマスレバ、關稅ハ上ヲタト云フ理由ノ下ニ、諸機械器具類ハ非常ニ實質以上ニ値打ガ騰テ參リマシテ、ソレカ爲メニ日本ノ產業三惡影響ヲ及ボシ、或ハ延テハ物價ノ騰貴ヲ來スト云フヤウナ處モアルノデアリマス、是ハ國民生活ニ取リマシテ重大ナル案件デアリマス、練テ練テ、サウシテ少クトモ議會ノ最初ニ之ヲ提案サレマシテ、十分ニ慎重審議ナルベキ筈ノモノニアリマス、我黨ニ於キマシテモ、決シテ本案ノ精神ニ無碍ニ反対ヲスルモノデハナイノデアリマシテ、モント慎重審議立法府ノ責任ヲ明カニスル爲メニハ、モット多クノ時日ヲ與ヘ、サウシテ十分ニ審議シナケレバナラヌ、即チ再調査ヲシテザウシテ此改正案ヲ立直シテ貴ヒタイト云フ意味ニ於キマシテ、之ヲ否決シタイト思フノデアリマス、若シ此案ガ本議會ヲ通過シマシテ、而シテ或ハ賢イ貴族院ガ之ヲ握演シニスルカモ知レマセヌ、サウ云フ場合ニ於テ一旦政府ノ内意ガ國民ニ發表サレマスト云フト、氣ノ早イ商賈人ハ見越輸入ヲヤルカモ知レマセヌ、サウ云フ場合ニ於キマシテ、其責任ハ決シテ國民黨ノ責任デハアリマセヌ、立法府ノウ云フ意味ニ於テ否決シマシタケレドモ、製鐵業ノ獎勵ニハ、大ニ意ヲ用井テ居ル者デアリマシテ、是ハ政府提案ノ根本ノ意思ハ、相關聯シタモノデアリマセウケレドモ、引離シテ製鐵事業ハ大ニ獎勵スルヲ宜トイト認メテ、製鐵獎勵法ニ贊成シタノアリマス否決ノ理由ヲ誤解ナキヤウ説明シタ譯デアリマス(拍手起ル)

○副議長(柏谷義三君) 今泉嘉一郎君

〔今泉嘉一郎君登壇、拍手起ル〕

○今泉嘉一郎君 私ハ委員長ノ報告通り、原案ノ通過ニ贊成ヲ致シマシテ、隨テ星島君ノ抗議反対ヲスル者ニアリマス、星島君ノ反対ノ理由ハ極メテ簡單デゴザイマシタカラ私モ簡單ニ其反対ヲ申上ダマス、星島君ハ會期切迫ノ場合ニ於テ、斯ウ重大ナル問題ヲ提出スルノハイカスト言ハレルガ、私ハ斯ル重大ナル問題ナルが故ニ、會期切迫ノ時期ニ於テ、倉皇トシテ政府ハ提出シタモノデアルト思ヒマス(拍手「詭辯々々」ト呼フ者アリ)又星島君ハ、此議題タルヤ慎重審議ヲ盡サヌト言ハレテ居リマスケレドモ、折ニ此問題ヲ決スルガ爲メニ、政府ハ大正八年十月ニ財政經濟調查會

ニ之ヲ議題ト致シマシテ、免モ角モ其當時日本ノ各部門ニ於ケル所ノ「エキスピート」専門家ヲ召集シテ、十分審議ヲ盡シテ今年二月ニ至タノアリマス、一年有半此事業ノ爲メニ密查ヲ盡シタモノヲ、之ヲ慎重ノ審議ニ非ズトスルカ如何、又議會ニ提出致シマシタノハ十九日アリマス、十九日ヨリ今日迄四日間ノ内ニ於テ、十分ニ此法案ヲ考慮スル違ガ無イデハナイノアリマス(ヒヤー)斯ル問題ヲ議スル場合ニ當リマシテ、屢々或方面ニ誤解ヲ生ズル點ガゴザイマスル故ニ、私ハ此製鐵問題——製鐵事業ト云フモノニ就テ諸君ニ説明ヲシタトイ思フ、世間アハ此工業ヲ「ツノ營利的工業、一ツノ大ナル工業考ヘテ居ルノアリマスケレドモ、ソレハソレニ相違ナイ、併ナガラ我が日本帝國ガ明治三十年ニ官立製鐵所ヲ作リマシテ以來ノコトカラ考ヘマシテモ、爰ニ二十何年ノ年月ト三億五千萬圓ノ國費ヲ投ジテ居ル、而シテソレダケノコトデアッテモ、一大工業タルコトハ失ハヌノアリマスルガ、流石此問題ヲ解決スル場合ニ於テハ、斯ル歴史ヲ有テ居ルカラ、爰ニ一ツノ大工業トシテ取扱ハナケレルト云フコトヲ考ヘナケレバナラヌ、製鐵事業ト云フモノハ、ノ最モ重大ナル事業アル、斯ウ謂ハナケレバナラヌ、斯ル形容ノ詞ト云フモノハ屢々濫用サレマシテ、詰ラヌ事ニモ是ハ國家ノ軍備、ソレカラ國家ノ經濟、並ニ國家ノ文明ノ消長ニ關スル所之ヲ極ク簡單ナル定義デ申シマスルト云フト、是ハ國家ノ軍事事業デアルト云フコトヲ言ハレマスガ、私が最モ嚴重ナル意味主ナル部分ハ鐵材デアル、吾々が問題ト致シマスル八八艦除ノ費用ノ大部分ハ、製鋼材デアルト御承知ニナラナケレバナラヌ、又數日前ノ新聞デ諸君モ御承知デアリマセウガ、數日前ニ倫敦ノ議會ニ於テ、倫敦ノテ下院ノ問題ト致シマシテ、我ガ日本帝國ニ軍備縮小ヲ強ユルガ爲メニ、英吉利ハ宣シク亞米利加ト共同シテ、日本ニ鐵鋼材ノ供給ヲ拒絶スベシト云フ動議が出て居ル、之ヲ見テモ、如何ニ軍備ト鐵鋼材ノ關係ノ大ナルカラ知ルコトが出來ル、又彼ノ歐羅材ノ十万噸ニ相當シテモ「ソンム」ア戦ニ於テ、英吉利人ガ僅カ一日カ一日ノ間ニ於テ、獨逸軍ヲ阻止ル爲メニ擊ナマシテ、此鐵材ノ消費ト云フモノハ、戰争ニ參加シタル兵隊一人算スレバ四億万圓ニ相當シテ、自方ニ換算致シマシテ、鐵材ノ十萬噸ニ相當シテ居ル、歐羅巴大戰ノ全體ヲ通ジマシテ、所ノ大砲ノ彈丸ノ數ハ一千万發アル、而シテ之ヲ金額ニ換算スレバ四億万圓ニ相當シテモ「ソンム」ア戦ニ於テ、英吉利人ガ僅カ一日ノ間ニ於テ、獨逸軍ヲ阻止ル爲メニ擊ナマシテ、此鐵材ノ消費ト云フモノハ、戰争ニ參加シタル兵隊一人當リ一箇年三噸ニ相當シテ居ル、是ハ實際ノ經過デアル、

然ルガ故ニ我ガ日本帝國ガ若シ百万人ノ兵士ヲ戰場ニ出シマシテ、完全ナル戰ヲ爲ス場合ニ於テハ、一箇年三百萬噸ノ鐵材ノ用意ガナケレバナラヌデアル、斯ウ云フ場合ニ於テハ、我ガ日本國今日ノ有様ハドウカト云フト、一箇年ノ銑鐵百五十萬噸鋼鐵百五十萬噸ヲ要スル場合ニ於テ自給自足ノ出來ルノハ其半數デアル、其半數ハ尙ホ海外ヨリノ供給ニ待ツト云フノ有様デアル、斯ウ云フ有様デアタナラバ、四方環海ノ我國ニ於テ一朝事有ル場合ニ於テ、何程自給自足ヲシテ此戰鬪ヲ繼續シ得ルヤト云フコトニナリマスレバ、吾人ハ實ニ寒心ニ堪ヘナイノデアリマス、更ニ經濟問題ニナリマス、我國ガ維新以來輸入ノ多イ關係ニ於テ、始終逆勢ニ立テ居リマス、又將來ニ於テ、海外貿易ノ恐ルベキ結果ノ生ズルモノハ何ニ依ルカト云フト、鐵材ガ今日ノ有様ノ如クアダナラバ、鐵材輸入ト云フコトガ其因ヲ爲スデアラウト考ヘル、假ニ其一例ヲ舉ゲマスレバ、日露戰爭ノ三十八年以來私ノ持シテ居ル統計ノ、大正七年ニ至ルマテ十四年間ニ於キマシテ、日本ガ外國ヨリ輸入シタル所ノ鐵材ト云フモハ、十六億噸ニ達シテ居ル、而シテ之ニ對抗スル所ノ日本ノ輸出品ハ何デアルカト申シマスルト、御承知ノ通リ生絲デアル、其生絲ガ此十四年間ニ於テ二十四億弗、即チ生絲ノ七割ト云フモノハ、鐵材輸入ノ爲メニ消滅サレテ居ル、尙ホシテ生絲ノ輸出ハ僅ニ三億七千万、即チ大正八年ニ於テ日本ノ生絲ト云フモノハ、遼ニ鐵材ノ輸入ニ超過サレタノデアリマス、而シテ昨年ノ如キハドウデアル、我國ガ戰後ニ於テ始メテ大輸入超過ヲ致シタノデ三億八千万、而シテ其中ノ二億八千万ハ日本ニ必要ナル鐵材ノ輸入デアタノデアル、斯ウ云フヤウナ有様カラ見テモ、吾々ハ經濟上非非常ニ注意スベキモノデアル、即チ國家經濟ヨリ見ルベキ大ナル問題デアルト思フ、次ニ文明ノ消長ト云フコトハ、勿論御承知ノ通り、機械、建築、船舶、鐵道、總テノ事ニ於テ、今日鐵材ヲ致シマシテ製鐵事業ヲ論ブル場合ニ於テハ、之ヲ一ツノ營利事業デアル、之ヲ一ツノ大工業ト云フ觀察デハナラヌ、是ハ國家存立上必要ナル國家的事業デアル、サウニ云フ國家管營ノ進歩ト云フモノハ、到底民業ノ進歩ニ及バヌ、進歩發達ノ上カラ申シマシテ、是ハ民業ニ委ネテ、而シテ國家ハ之デアル、斯ウ云フ議論モ起ルノアリマス、實際ニ於テ嘗テ露西亞及獨逸ガ官營トシテ之ヲ始メタコトガアル、併ナカラ官營ノ進歩ト云フモノハ、到底民業ノ進歩ニ及バヌ、進歩發達ノ上カラ申シマシテ、是ハ民業ニ委ネテ、而シテ國家ハ之

ニ出來得ル限りノ援助ヲ與ヘル、斯ウ云フコトデナケレバナ
ラストニ云フコトニ歸著シタノデアリマス、(「簡単」ト呼フ者ア
リ)サウ云フ場合デアリマスガ、之ヲ國家ヨリ見ル場合ニ於
テハ、ドウシテモ國家事業アルか故ニ、國家モ其事業ノ成
立ノ一部ヲ負擔シテ行カナケレバナラヌ、即チ保護政策ヲ
執^フテ行カナケレバナラヌ、又當業者モ亦之ニ對シマシテハ相
當自營ノ方法ヲ講ジ、國家ト同ジ意味ニ於テ、是ハ國家事
業ナリト云フ考ヲ持チマシテ、不當ノ暴利トカ云フ考ヲ持タ
ズニ、確實ニ之ヲヤラナケレバナラヌ、又當業者モ亦之ニ對シマシテハ相
質デナケレバナラヌ、之ヲ實際ニ爲シマシタノハ、米國ノ「スチ
ール、コーベレー^ション」ハ其精神デヤ^シテ居ル、所謂「スチー
ル、オヴ、コーベレー^ション」、亞米利加ノ鋼鐵「トラスト」ノ精
神ト云フモノガ、今日此製鐵事業ヲ經營スベキ所ノ當業者
ノ精神デアル、而シテ國家ハ之ヲ保護シナケレバナラヌ、斯ウ
云フコトニナルノデアリマス、斯ウ云フ場合デアリマスカラ、
只今星島君ハ、今日ノ保護ハ是ハ當業者ノ利益ニナラヌ、
當業者ハ有難ク思ハヌ——ソレハサウモ言ヘマス、保護ダケ
ヲ以テスルナラバ、私共ノ持論ト致シマシテハ、少クモ二
割五分以上ニ非ザレバ、保護政策ニ非スト考ヘテ居ル、一
割五分以下今日ノ五分位デアリマシテハ、是ハ關稅手數料
或ハ自國ニ發達スペキ工業ガ無イ、自國ノ工業ニ就ハド
ウシテモ見込ガ無イカラ、全部外國品ニ依ルト云フ關稅手
數料デアル、苟モ内地ノ工業ニ見込ガアル場合、之ヲ保護
的ニ開發シヤウト云フ場合ニ於テハ、モウ少シ十分デナケレ
バナラヌ、是ハ然ルベキ事デアリマスケレドモ、今日ノ程度ニ
於テ財政經濟調査會ニ於テ此一割五分ヲ以テ至當ナリト
看做シテ、不肖ノ如キモ同會ノ委員ノ末尾ヲ汚シテ居ルガ、來年
一年有餘ノ研究デ之ヲ以テ至當ナリト考ヘテ居ルノデアリ
マス、星島君ハ之ヲ至當ニ非ト言ハレマス、私ハ其意ヲ了
シナイノデアリマス、ソレカラ收入ノ目的ヲ達セズ、成程政府
ガ關稅法ヲ設ケマシテモ、收入ノ目的ヲ達セヌト云フコトモ
アルカモ知レマセヌカ、精神ハ收入ニ在ルニ非ヌシテ、此事業
ヲ保護スルニ在ルノデアリマス、而シテ政府ノ收入ト云フモ
ノハ、恐らくマダ本年ハ堆貨ノ爲メニ好クアリマセヌガ、來年
以後ニ於テ可ナリ相當ノ金額ニナルト私ハ考ヘテ居リマス、
(「簡單」ト呼フ者アリ)見込輸入ガ有ルダラウト、今日ハ幸
ニシテ決シテ見込輸入ノ無イ時期デアル、今日ハ外國品ヲ
日本ヘ持テ來タ時ノ値段ト、日本ノ市場ノ値段ト比較シ
テ一二割三割ノ高價ニ付クノデアリマス、今日ノ如キハ實ニ
此方法ヲ改正致シマスル、最良ノ時機ト私ハ考ヘルノデ
アリマス(「ヒヤー」「ノウー」「ト呼フ者アリ)尙ホ此外申上
ゲタイ事モアリマスガ、大體反對ノ意見ハ述べタ積リデアリ

マス(拍手起立)
○副議長(柏谷義三君) 他ニ御通告モアリマセヌカラ採
決ヲ致サウト思ヒマス、先ソ開稅定率法中改正法律案、本
案ニ對シテハ反対ガアリマスカラ、之ニ就テ第二讀會ヲ開ク
ヤ否ヤ御詰リ致シタイト思ヒマス、本案ノ第一讀會ヲ開ク
ベシトスル諸君ノ起立ヲ乞ヒマス

(賛成者 起立)

○副議長(柏谷義三君) 多數ト認メマス、本案ハ第二讀
會ヲ開クコトニ決シマシタ――次ニ製鐵事業獎勵法中改正
法律案、本案ニ對シテハ何等ノ御通告モアリマセヌ、本案ハ
第二讀會ヲ開クニ御異議アリマセヌカ

(異議ナシ)「異議ナシ」ト呼フ者アリ」

○副議長(柏谷義三君) 御異議ナイト認メマス、即チ本
案ハ第二讀會ヲ開クコトニ決定致シマシタ

○岩崎動君 緊急上程ニ係ル二案ヲ一括シテ直ニ第二
讀會ヲ開キ、第三讀會ヲ省略シテ、委員長報告通り可決確
定セラレントコトヲ望ムマス

(「賛成々々」ト呼フ者アリ)

○副議長(柏谷義三君) 岩崎君ノ動議ニ御異議ナイト
認メマス、仍テ直チニ第二讀會ヲ開キ、議案全部ヲ議題ニ
供シマス

關稅定率法中改正法律案

第一讀會(確定議)

第二讀會(確定議)

第三讀會(確定議)

製鐵事業獎勵法中改正法律案

第一讀會(確定議)

第二讀會(確定議)

第三讀會(確定議)

關稅定率法中改正法律案

第一讀

ニ達シタト云フ自然ノ事實ニ基ヅイテ、當然強テ其現職ヲ去ラシメラレルト云フコトニ相成シテ居ルノデアリマス、此點ニ就テ貴族院ニ於ケル政府ノ御説明ニ依リマスト

憲法五十八條二項ニ掲グテアル免職ト云フコトハ、蓋シ官
ヲ奪フノ意味アル、之ヲ刑法ノ規定ニ顧ミテモ、懲戒法ノ
規定ニ鑑ミテモ、總テ此官ヲ奪フト云フ意味ニナシテ居ツテ、
官ヲ奪フ結果ガ、自ラ職ヲ離ルコトニナシテ居ルノデアルカ
エ、憲法五十八條ノ一項ノ免職ト云フコトハ、免官ト解釋
ヲシナケレバナラスト云フ御説明ニナシテ居ルノデゴザイマス、
然ルニ此懲戒法ナドノ規定ヲ見テ見マスルト、現ニ「免職」トナ
リマシテ「免官」トハ書イテナイ、官ト職トヲ分々テ書イテナイノ
デアリマス、之ヲ言葉ヲ切ニシテ申シマスト「免職」ノ二字ニ
依テ、其官ト職トヲ併セテ奪フノ意味ガ明カニセラレテ居
ルノデアリマス、斯ノ如クニシテ、始メテ此憲法ノ五十八條
ノ二項ノ「職ヲ免セラル、コトナシ」トアル條規ト相俟テ、爰
ニ始メテ此地位ノ保障ノ實ヲ完ウヌルコトガ出來ルト思フテ居
ノデアリマス、而シテ只今申シマスル、此免職トゴザイマスル
文理的解釋ノ上カラ言ヘバ、無論免職ト云フコトハ、讀ンデ
字ノ如ク職ヲ免ズルト云フコトニナリマスルノデ、文理的解
釋ヲ別ト致シマシテ、精神的解釋ト申シマスルカ、將タ論理
的解釋ト申シマスルカ、其精神ニ立戾シテ法理ヲ究メテ見マ
シタラバ、不層的確ニナルト思フノデアリマス、ソレハ試ニ
此政府ノ御解釋ニナル如ク、官ト云フダケ、^ヲ残シテ職ノミ
ヲ奪シタト云フトキニハ、一體其裁判官ト云フモノハ、實際ニ
於テ如何ナル働カ出來ルノデゴザイマスルカ、何ノ働モ出來
ヌデハゴザイマセヌカ、由來此裁判官ガ司法機關タル職責
ヲ完ウ致シマスルノハ、實ニ此天皇ノ名ニ於テ司法權ヲ行
使シ得ルガ爲メアリマス、然ルニ今回ノ定年法ハ、事實上
自己ノ意思ヲ以テ、司法機關タル職務ヲ遂行スル能ハサラム
シムベク、一定ノ年齢ニ達シタ裁判官ノ職ヲ奪シテシマウト
云フコトニナシテ居ルノデアリマス、斯様ニシテ真ニ「能ク司法
機關タル所以ノ、國家意思ノ決定ガ出來マセウカ、私ハドウ
シテモ出來ヌト思フノデゴザイマス、畢竟スルニ此憲法ノ規
定ハ、裁判官其人ノ個人ノ名譽位置ヲ擁護スル爲メハズ
ク致シテ、其職務ヲ保障シテ立法及行政ニ對シテ特立シテ
機關タル所以ノ、國家意思ノ決定ガ出來マセウカ、私ハドウ
シテモ出來ヌト思フノデゴザイマス、是ニ由テ之ヲ觀マスレ
バ、憲法ノ保障ヲ致シテ居リマスル點ハ、必ズシモ官ノミニ非
ズシテ、職ヲモ併セテ保障ヲスルモノデアルト云フコトニ歸著
スルト思フノデアリマスルガ、此點ニ就キマシテハ當局ハ如何
ナル御考ヲ有シテ居ラレマスルカ、是が第一デゴザイマス、其

次ニハ最モ頭懨ノ明瞭ナ御方デアルトノ御評判ノアル山内
政府委員ハ、貴族院ニ於テ説明ヲシテ申サレルノニ、成程徒
ラニ此裁判官ノ職ヲ奪フト云フコトハ、ソレハ出來ヌデアラ
ウケレドモ、ガ裁判所構成法ノ七十四條ニ依テ見レバ、現
ニ職務ヲ執ルコトノ出來ヌ人ノ職ヲ奪フ規定ガアルデハナ
イカ、故ニ此意味ニ於テ、老齢ノ規定ヲ設ケテ老齢職ニ堪
ヲセラレテ居ルノデゴザイマス、所ガ吾ミトテモ此裁判所構
成法ノ七十四條ノ規定ガ、憲法ノ違反デアルト申スノデア
出来ヌニ拘ラズ、法律ノ規定ヲ設ケテサウシテ此職務ヲ退
カシムルト云フコトニシテモ妨ガナイデハナイカ、斯様ト說明
ヲセラレテ居ルノデゴザイマス、所ガ吾ミトテモ此裁判所構
成法ノ七十四條ノ規定ガ、憲法ノ違反デアルト申スノデア
反デナナイカト申スノデアルカ、此點ニ疑ヲ懷ク者デアリマ
ス、即チ裁判所構成法ノ退職規定ト、定年法ノ退職規定ト
ノ比較ヲ致シテ見マスルノニ、退職ト云ヘル結果ニ於テハ、
何等異ル所ガ無イノゴザイマス、サリナガラ其結果ヲ齎ス
マデノ間ノ此退職ノ條件及手續ト云フモノガ、非常ニ違テ
居ルモノデアルト云フコトヲ信ズル者デアリマス、更ニ言葉ヲ
換ヘテ申シマスルナラバ、裁判所構成法ノ七十四條ニハ、二
箇ノ特色ノアルト云フコトニ留意シナケレバナラヌノデアリ
マス、此二箇ノ特色ガアル爲メニ、始メテ此司法権獨立ノ保
障ヲスルト云フ精神法理ト相悖ラザルノミナラズ、寧ロ二着
併行調和シテ、益、裁判官ノ地位ヲ鞏固ニ致ス、所以デアル
トスウ考ヘルノデアリマス、サスレバ其構成法第七十四條ノ
特色トハ何デアルカト申シマスルナラバ、即チ以下申上ゲル
所ノモノデアリマス、其一人身體若クハ精神ノ衰弱ニ因リ
職務ヲ執ルコト能ハサル場合、是ハ要スルニ事實上執務ノ
不可能ノ場合ヲ指シテ居ルノデアリマス、ソレデアリマスカラ
其結果ト致シテ、其裁判官ノ地位ノ獨立ヲ侵害スルト云
フコトニハナラヌノデアル、其一ハ何デアルカト申シマスルト
スノ如キ場合ニ於ケル、即チ身體若クハ精神ノ衰弱ノ
場合ニ於ケル退職ト云フト雖モ、單ナル立法作用若ク
ハ行政作用ニ委ネズ致シテ、特ニ大審院又ハ控訴院ノ
總會ノ決議ニ依ルベク、裁判所ノ自治作用ニ委シク
アルノデアリマス、此自治ノ規定コソ全ク此行政權モ、
提出ニナリマシタ定年法ハ、生理上身體ニモ又精神ニモ何
イ憲法保障ノ實現規定デアッテ、眞ニ千萬無量ノ意味
ガ此ニ存シテ居ルト考ヘルノデアリマス、然ルニ今回御
立法權を得テ司法権ノ獨立ヲ覲覩スルコトノ出來ナ
ハ行政作用ニ委ネズ致シテ壯者ヲ凌グ底ノ元氣ノ旺溢致
シテ居ル裁判官デモ、一定ノ年齢ニ達シタ曉ニハ、其瞬間ニ

於テ否カ處テモ、退カナケレバ、ナラヌト云フコトニナシテ居ルノデアリマス、斯ノ如キハ單リ人物經濟上ニ於テ、不得策テゴザイマスルニナラズ、確ニ憲法五十八條ノ二項、裁判所構成法七十三條七十四條ノ擔保ノ規定ヲ、根柢ヨリ破壊サレモノデアルト考ヘルノデアリマス、此見地ヨリ致シマスルト、ウツ言葉ヲ切ニシテ申シマスルト、定年法ハ執務ノ不可能、即チ執務上無力デナライ者ヲモ退カシムルト云フコトガ、一ツ挿マレテアルト云フコト、ソレカラ構成法七十四條ニ依テ裁判所ニ許サレテ居ル、即チ裁判所自カラ決議ヲシテ、サウシテ退クト云フ此自治ノ規定ノ存在ヲ、破壊スルト云フコトニナッテ居リマスルノデアリマス、故ニ此定年法ハ憲法、構成法ノ保障ヲ擁護セントシマスル所ノ、裁判官獨立ノ權威ヲ遮断スル所ノ立法的一大意圖デアル、一層言葉ヲ進メテ申シマスルト、定年法ハ嚴正ニ申シマスレバ立法權、汎ク申シマスレバ一種ノ行政權ノ作用ヲ以テ、司法ノ獨立司法ノ自治ヲ躊躇セントスルノ端ヲ開カントスルモノデアリテ、正ニ憲法ノ危機ニ瀕シテ居ルト斷言シテモ防ナイト私ハ思フノデゴザイマス、政府ハ此點ニ就キマシテ、矢張裁判所構成法ノ七十四條ノ退職規定ト、定年法ノ老齢ト云フ一事ヲ以テ、直チニ職ヲ退シムルト云フ退職規定トノ間ニハ、何等區別ガ無ニト云フ御考ヲ持テ居ラシヤルノデアリマスカ、是ガ第二ノ疑問デアリマス、又次ニハ政府ノ説明ニ依リマスルト、裁判所構成法ノ七十四條ハ、十數年來徒法空文ニ屬シテ居ル、今後ト雖モ之ヲ適用スルト云フコトニ困難デアルガ故ニ、竿頭一步ヲ進メテ、老年ニナレバ、身體又ハ精神ノ衰弱ハ、絶對ニ來ルモノト看做スト云フ法律ノ擬制ヲ作デ、司法部ノ改善刷新ヲ圖ラントスルモノデアル、斯ウ言ハルノデアリマス、併ナガラ申スマデモナク困難デアルト云フコトハ、ノデアリマス、是ハ無論歴代ノ司法大臣ニモ責任ガアルノデアリマスカ、今ヤ我ガ司法部内ニ密著固定致シテ居リマス所ノ弊害ヲ除去すべく、此定年法案ヲ提出シタト申サレマス所ノ大木司法大臣閣下ハ、何故ニ、其所謂困難ヲ排斥シテ、定年法ノ規定ヲ受クベキ裁判官二十幾名、更ニ政府委員ノ口調ヲ藉リテ申シマスナラバ、老齡職ニ堪ヘナイ所ノ裁判官ニ對シテ、裁判所構成法七十四條ノ發案ヲ爲サランカタノデアルカト御尋スルノデアリマス、現ニ定年法ト云フ立法行為ヲ以テ、其裁判官タル人ニオ意思ニ反シテ退職ヲ強ヒントセラル、大木司法大臣ハ、其立法行爲ヲ企ツル前

ニ當^タテ、現在致シテ居ル所ノ構成法七十四條ヲ適用シテ、
同一ノ目的ヲ達成シ得ベキ境地ニ立チナガラ、其適用ヲ促
スベキ御發案ヲ爲サルト云フ御勇氣ハ無イノアリマスカ、
斯様ニ御尋スルノアリマス、政府、貴族院ニ於テ、構成法ノ
七十四條ハ空文徒法用井ルニ所ナシト言ハレタ爲メニ、
貴族院議員ヨリ質問ヲ受ケラレタノデアリマス、之ニ對シテ政
府ノ御答ニナル所ニ依リマスト、イヤソレハサウハ參リマセヌ、
效用ノ乏シイ法律ナラバ、此場合斷然御廢止ニナシテハドウ
デアルカト云フ質問ヲ受ケラレタノデアリマス、之ニ對シテ政
府ノ御答ニナル所ニ依リマスト、イヤソレハサウハ參リマセヌ、
身體ノ衰弱致シタ者デアルカ否カト云フコトニ就アハ、是ハ
適用ガ出來ルノデアリマス、又年ノ若イ裁判官ニハ此適用
ノ餘地ガアリマスカラ、尙ホ存置スルノ必要ガアリマスト答
ヘラレテ居ル、此説明ノ趣旨カラ致シマスルト、裁判所構成
法七十四條ヲ適用スベキ範圍ハ、精神ノ衰弱致シタ年ヲ
取ラタ人ニ向シテ適用スルコトハ、出來スト云フ意味ニ理解
スルコトガ出來マス、然ニ其舌ノ根未ダ乾カザルニ當^タテ、
鈴木司法次官ハ斯様ニ答辯致シテ居ラル、ノアリマス、
定年法ノ規定ニ依ッテ職ヲ退カシムルケレドモ、五箇年ト云
フ期限ヲ延ベ得ル所ノ決議規定ガアル、斯^タ云フノデ、此決
議規定ヲ説明セラル、ニ當^タテ斯様ニ述ベテ居ル、假令此
定年法ノ適用ヲシ得ベキ年齡ニ達シタ裁判官デアッテモ、此
男ハマダ精神ニ於テモ身體ニ於テモ、壯者ヲ凌グモノデアル
トスウ認メタ場合ニ於テハ、總會ノ決議ヲ求メ、即チ此決
議規定ノ運用ニ依^テテ、遺材ヲ逸セランコトヲ期待シタノ
デアリマスト答ヘラレタノデアリマス、若シ此定年法ノ中ニ
裁判官ノ延年規定ノ運用ノ出來ル位デゴザイマスルナラバ、
何故ニ裁判所構成法七十四條ノ退職規定ノ運用ガ出來
ヌ^テゴザイマスカ、是ガ即チ私ノ疑デアルノデアリマス、殊ニ
豊島政府委員ハ、定年法制定ノ已ムベカラザル所以ノ理由
ヲ説明セラレテ、斯様ニ申シテ居ラマス、裁判官ハ他ノ行
政官トハ其趣ヲ異ニシテ、當面ノ問題デアル事件ニ關スル、
總テノ取扱ヲ自ラ爲サナクレバナラヌ特殊ノ職務ヲ有シテ居
ル官吏デアルカラ、年ヲ重ヌル多キニ至^テハ、自然其職ニ堪
ヘナクナルノデアリマス、云々ト説明サレテ居リマス、其所謂
裁判事務ハ、普通一般ノ事務トハ性質色彩ヲ同ジクシナイ
ト云フ點カラ見マシテモ、裁判官ノ執務狀態ニ鑑ミテ、其
有形ノ事績カラ機能的ニ推斷察知致シマシタナラバ、執務
者タル裁判官ガ、果シテ精神的衰弱者デアルカ否カ、モウ一
ツ言葉ヲ換ヘテ言フト、其裁判官ハ執務上無能力者デアル
カ否カト云フコトハ、自ラ判明シ得ラレル譯^デハアリマスマイ
カ、殊ニ此裁判所構成法ノ七十四條ノ規定ニ依^テ、退職決議ヲ致シマスル場合ニ就テハ、何等證據方法ニ

レテ断言モセラレタモノト云フコトニナリマスレバ、其裁判官ニ對シマシテハ甚ダ氣ノ毒ニ堪ヘヌト同時ニ、其裁判官ハ、極メテ司法當局ノ爲メニ、誹謗侮辱ヲ受ケタモノト謂ハナケレバナラヌノアリマス、ソレカラ裁判官ト雖モ人間デアリマスカラ、現代ノ思想ガ極メテ複雜デアル際ニ、一二理想ニ依テノミ裁斷處理セラルベキモノアリマスマイ、デアリマスルカラ普通裁判所ニ依テハ、民事刑事ノ事件ヲ扱ヒマス時分ニ、場合ニ依リマシテ私ハ此事件カラ回避シタ、此事件ノ裁判ハ致シタクナイト云フ規定ガアルノデゴザイマス、故ニ其精神ヲ酌ンデ、若シ又其精神ヲ酌ムコトガ六ヶシイト云フコトニナレバ、特ニ法律ヲ改正ナサニテモ、裁判官ノ退職ヲ決議スル場合ニ回避ノ途ヲ御設ギニナシテ、サウシテ構成法七十四條ノ運用ヲ圓満ニナサルト云フコトニナレバ、何等妨ガ無イデハゴザイマスマイカ、然ルニ一一ノ裁判官ガ云々致シタト云フ事例ノ有ル故ノ以テ、直チニ裁判所構成法七十四條ノ適用ニ御考ヲ御断チニナシマタト云フコトハ、餘リ御輕舉ノ沙汰デアッテ、其職ニ忠ナル所以デナイト私ハ、信ズルノデアリマス、大木司法大臣ノ如キ練達堪能ノ士カ其職ニ在ラセラレル間ニ於テ、銳意熱心ニ部下ヲ督勵致シテ、裁判官ヲ鞭撻ナスツナラバ、定年法ノ施行ヲ待ツマデモナク從來ノ積弊ヲ一掃致シテ、司法刷新ノ曙光ハ、確ニ之ヲ天ノ一方ニ認ムルコトカ出來ハシナイカ、進シテ其點ニ向テ御努力ニナリマスト云フ御考ハ無イノデアリマスカ、是ガ第四ノ疑デアリマス、第五ニハ大木司法大臣ハ此定年法ヲ擁護スル爲メニ斯様ナ御説明ニナシテ居リマス、大正二年山本内閣當時ニ、單行法ト致シテ裁判官ノ休職規定ヲ設ケタコトノガアル、其休職規定ハ憲法違反デナイカラ、此定年法モ亦違反デナリ、斯様ニ御辯護ニナシテ居ルノデアリマスガ、併ナガラ其休職規定ニハ三ツノ異リタル場合ガアルト云フコトノ記憶ヲ、新タニセナケレバナラスト私ハ思フノデアリマス、其一ハ裁判所ノ廢止、及名稱變更ノ爲メニ裁判所ノ數ヲ減少シタイト云フコト、其二ハ休職ハ一時的デアッテ、人數ガ限ラレテアッタ云フコト、其三ハ休職ヲ命スル裁判官ガアルトキニ於テ、裁判官自己ノ願ニ依ル場合ノ外ハ、總テ此大審院ノ總會ニ掛ケテ決議ヲナスト云フコトガアグノデアリマス、デアリマスカラ致シテ、之ヲ裁判所構成法ノ七十四條ノ自治ノ規定ニ比較ヲ致シマスルト云フト、其間ニ何等ノ區別ハ無イデアリマス、「簡単」ト呼フ者アリ又休職法ニハ其條文自體ガ示シテ居リマスル通りニ、此一時限リト云フコト、裁判所ノ數ガ減シテシマウト云フコトハ明カニナシテ居リマスルト、此時ニ方ダテ此法律ヲ出サレタ趣意ハ、時ノ名大臣ト言ハレタ所ノ松田法相ガ、司法省ノ如キ貧乏世帯デモ、是ダケ

ノ行政整理ガ出來ルデハナイカト云フ手本ヲ示ス爲メニ、一時ノ權道トシテ出サレタ所ノアノ法案デアリマス、實ニ已ム得ナカツモノデアルト同時ニ其已ムヲ得ナカツ場合ノ規定デモ、矢張此司法省カ獨斷專行デ以テ、若クハ立法作用ニ依テ當然裁判官ヲシテ職ヲ退カシムルコトニハナツテ居ラズ、矢張此大審院ノ決議ニ依ルト云フ規定ガ遺サレテ居ルノデアリマス、此點ニ就テハ、私ハ一ツノ證據ヲ擧ゲテ置キタイト思フ、現ニ時ノ政府委員デアッタ司法次官小山溫氏ハ斯様ニ言ニテ居ラレマス、同氏ノ説明セラル、所ニ依ルト、「ドウモ刑法ノ宣告又ハ懲戒處分ニ非ラザレバ、如何ナル場合ニ於テモ職ヲ奪ハル、コトガ無イト云フノモ極端デアルガ又アノ免職ト云フハ、官ノミヲ指シタモノデアルト云フ判事タル虛名ヲ存シテ置ケバ、如何ナル」立法行爲デモ出來ルト云フ主張モ亦極端デアル、故ニ此度ノ休職法ニハ大審院ノ決議ニ依リテ、休職セシムルコトヲ得ル旨ノ「自治規定ヲ置イタノデアル」斯ウ云フ趣意ノ説明ガセラレテ居ルノデアリマス、今定年法ヲ見マスルト云フト、一體何所ニ其自治規定ト云フモノガ遺デ居ルノデアルカ、更ニ無イノデアリマス、立憲思想ノ發達致シマシタル今日ニ於テ、自治作用ニ依シテ此憲法保障ノ實ヲ舉ダラレテ居リマスル其眼目ヲ取去テモ、尙ホ此司法權ノ獨立ハ冒瀆セラレテ居ラヌト仰シヤルノハ、一體ドノ點ニ在リマスカ、其次ニハ大木司法大臣ヘ斯様ニ説明ヲシテ居ラレマスル爰ニ必要ナル事ハ本案ノ效力要不要ト云フコトデアル、諸君、極メテ冷靜ニ又司法ノ現状ニ鑑ミシマシテ、御考慮ヲ願ヒタイト思フ次第デアリマス、何十年も以來殆ド七十三條以外ノ條件ハ實現シ能ハナイノデアリマス、實現スル必要ダ無カタノデハナイ、ソレヨリモ前ニモ實例トシテ種々ノ實例ガアタヤウデアリマス」云々ト述べラレテ、如何ニキ此定年法ノ成立ノ急ナルコトヲ鼓吹セラレテ居ルノデアリマス、私ハ其熱心ト努力ニ伴フ所ノ御誠意ハ、飽マデモ諒ト致シマスルガ、唯ダ目的ノ爲メニ手順ヲ誤ラレテ居ルデハナイカト云フコトヲ氣遣フノデアリマス、譬ヘテ見マスレバ、大木司法大臣ガ自己ノ主張ヲ確ムベク御援用ニナリマシタ休職法ノ如キデモ、司法ノ自治ヲ認メテ居ルノデアリマスカラ、今回ノ定年法ヲ、其休職法ノ程度ノモノニ御改メニナルト云フ御趣意デハ無イノデアリマスカ、又根本的ニ憲法ノ改正ヲ企テラレルノカ、ソレガイヤト言ハル、ナラバ、憲法五十八條一項ノ規定ニ立戻シテ、定年法ノ此職ヲ奪フト云フ規定ヲ、裁判官ノ任命資格規定ニ改メテ、以テ所謂司法刷新ノ目的ヲ達スベキ手段ヲ、御變更ニナルト云フコトノ御意志ハ無イカト御尋スルノデアリマス、憲法ノ五十八條ノ第一項ノ規定ハ、裁判官ノ在職ノ規定ニ非ズ致

シテ、任命資格規定デアルト云フコトハ、其五十八條ノ一項
二「裁判官ハ法律ニ定メタル資格ヲ備フル者ヲ以テ之ニ任
ス」トアル、此文理ヲ裁判所構成法第二編第一章ノ表題
「判事又ハ檢事ニ任セラル、ニ必要ナル準備及資格」下アル
ニ對照ヲ致シテ、明カナル所デアリマス、幸ニ此任命資格規
定ニ御改メニナッテ、現在ノ裁判官ニハ既得ノ權ヲ認メテ、定
年法實施後ニ任命ヲセラレタ裁判官ノミ、此定年法ヲ規定
セラル、云フコトニナリマシタナラバ、爰ニ始メテ憲法違反ト相
云フ疑ガ晴レ、裁判所構成法七十四條ノ規定ノ履行ト相
俟ツテ、徐々ニ司法改善ノ效果ヲ奏スルコトガ出來ルト思フ
ノデアリマス、此點ニ就テハ政府ハ如何ナル御考ヲ御持ニナ
ルノデアリマスカ、之ニ就テ一寸私ハ引用致シテ置キタイモ
ノガアルソレハ此令六問ニ聯連ヲ致シテ居リマスガ、現ニ此
定年法ハ昨年ノ特別ノ議會ニ貴族院ニ出マシタキニ未
議了ニ終リマシタ、其未議了ニ終リマスト同時ニ、或ル裁判
官ガ憲法違反論ヲ公ケニセラレタニ就キマシテ、司法省ハ倉
皇トシテ皆川參事官ヲ致シテ、其反駁論ヲ公ケニセシメラ
レタコトガアルノデアリマス、所ガ其論ハ吾ニカラ見マスルト、
如何ニモ不徹底デ、寧ロ淺薄ノ嫌ガアル、更ニ此司法省ハ
人ヲ物色シテ中島弘道氏ヲ得ラレ、即チ同氏ヲシテ定年法
ノ違憲デナイコトヲ論セシメラレタノデアリマス、中島氏ガ慥
ニ其議論ヲ公ケニセラレマシタノハ、此法曹界ノ記事一一十
一月三十日法曹界ノ記事ニ載テ居リマス、中島氏ノ論ヲ
讀ンデ見マスルト、如何ニモ結論ニ至ラテハ、定年法ハ憲法
テ私ハ問ヒタイト云フノハ此點ニアリマス、判事定年法ガ憲
法ニ違反ヲスルト云フノハ、同法ノ本質ニハ決シテ關係セズ
ルマデノ間ノ此道程ニ於テハ、定年法ハ確ニ憲法違反デ
致シテ、規定ノ方法ガ不完全デアルカラアルトスウ云フ論
アルト明確ニ斷論ヲセラレテ居ルノデアリマス、其結果トシ
テ私ハ問ヒタイト云フノハ此點ニアリマス、判事定年法ガ憲
非難ヲ免レシメント欲スルナラバ、此二箇ノ法案ノ中其一
ツヲ採用シナケレバ、憲法違反タルコトハ、ドウシテモ免ル、
コトハ出來ヌト結論セラレテ居ルノデアリマス、其言ウテ居
ラル、第一案ハ、本法公布後一定ノ期間其實施ヲ猶豫ス
ルコト、云フ事ガアル、ソレカラ第一案ト致シテハ、其實施當
時既ニ停年ニ達シテ居ル判事、其後一後ノ期間内ニ定年
ニ達スル判事ニ對シ、其定年退職ガ裁判所構成法ニ於ケ
ル、司法權ノ獨立ヲ害スルコトヲ理由トシテ、判事議會ニ向
テ、退職猶豫ノ決議ヲ請求スルノ權ヲ與ヘルコト、此一案
ヲ提供致シテ居ラル、ノデアリマスルガ、今回此提出ニナリ
マシタ裁判所構成法ノ附則ニ依リマスルト、斯様ナ事ガア

リマス「本法施行ノ際現ニ判事又ハ檢事ノ職ニ在ル者ニシテ本法施行ノ日ニ於テ第七十四條ノ二又ハ八十條ノ二規定スル年齢ヲ超ユル者及本法施行ノ日ヨリ二十日ヲ經テ退職スル者トス」アルノデアリマス、テ是ハ即チ只今ノ此引用致シマシタ中島氏ノ議論ヲ採用セラレタルモノニ非ラズヤト云フ疑ガアルノデアリマス若シ果シテサウデゴディマスルナラバ、中島氏ノ議論ノ憲法五十八條ノ第一項ノ準用論ヲ認ムルニ於テ、始メテ施行スル所ノ議論デアリマスルガ、サウ致シマスルト云フト、政府ハ此中島氏ノ議論ヲ採ンテ、矢張憲法五十八條一項ノ準用規定タラシメタト云フ意味デゴザイマスルカ、是モ序ニ伺テ置クノデアリマス、ソレカラ「簡単單ト呼フ者アリ」餘計遣リマセヌガ、モウ少シテス(「簡單ニト呼フ者アリ」)斯様ニ裁判官ノ資格任用規定ト云フコトニ致シマスルト、忽チ此爛頭焦眉ノ急ニ追テ居ルト司法省ガ仰シヤル所ノ、司法ノ改善ガ容易ニ舉ラナイト云フ憾ガアル、此疑問ガ出テ來ルノデアリマスケレドモ、「併ナガラ老齡ナル裁判官ノ此退職規定ノミガ、必ズシモ此司法部ノ刷新改善ヲ圖リニナルト云フ御考ハ無イカ、無暗ニ此老朽淘汰ノミガ、司法刷新改善ノ絶對的方法デハナイト私ハ思フ、他ニ幾ラモ此方法ガアルト思ヒマスルト同時ニ、若シ立法ノ必要ガアルトスレバ、他ノ立法ヲ企テ、モ、矢張此司法部ノ刷新改善ヲ御ネドウモ」(下呼フ者アリ)若シ此政府ハ憲法違反デナイト云フコトニ、確キ御自信ガアル譯アゴザイマスルナラバ、一體何ヲ苦シテ此延年規定デアルトカ、若クハ此退職ヲ致シタ者三五割ノ増額ノ恩給ヲ附與スルト云フガ如ク規定ヲ、御置キニナッカト云フコトニ就イテ疑ガアルノデアル、ドウモ公明正大ナル所ノ立法ニ伴フベキ規定デハ、是ハ斷ジテナイト私ハ思フ、政府ノ説明ニ依リマスト、裁判所構成法ノ七十四條ノ退職ト其精神ガ同ジモノデアルト政府ハ言ハレテ居ルガ、用ヲ嚴正ニスルコソ當リ前デアッテ、其間何等斟酌ヲナシトカ、若クハ保護ヲナサルト云フ必要ハ無イノデゴザイマセウガ、然ルニ却テ此延年規定デアルトカ、恩給ノ規定デアルト内ノ一種ノ弊害デアルト言ハレテ居ルノデアリマス、法ノ適用ヲ嚴正ニスルコソ當リ前デアッテ、其間何等斟酌ヲナサルハ、今將ニ此文化發展ノ渦中ニ在ル我が裁判官ノ能力ノ有無ヲ年齢ニ依テ定メントスルモノデアッテ、是ハ確ニ時代錯誤ノ甚ダシキモノデアル、政府ハ延年ノ規定ガアルト云フ故ニ於其年齢ニ達スル者本法施行ノ日ヨリ二十日ヲ經テ

ヲ以テ、有能力者ヲ逸スルか如キコトハナイト言ハレマスケレ
ドモ、「簡単」下呼フ者アリ)一定ノ年齢ニ達スレバ、法律ノ
擬制ニ依テ、一様ニ悉ク無能力者ニ推定ヲスルト云フコト
ニナシテ居ルノアリマス、年ヲ延ブル一延年ト云フコトハ、
司法大臣ノ發案ト裁判所ノ決議トニ依テ、實現ヲ可能ナ
ラシムルニ過ギナイ所ノ例外規定アルコトニ思フ及ボシ
マシタナラバ、曆ノ上ノ年齢ヲ標準ト致シテ、我國現在ノ裁判
官ノ能力ノ有無ヲ断ズルト云フ不當ニ陷イルコトハ、疑ガナ
イノデアリマス(「餘り長イ」「簡単ニ願ヒマス」「委員會デヤ
リ給ヘ」議長々々ト呼フ者アリ)勿論司法省ハ學者揃デ
アリマスケレドモ、法律的ニ専門デアッテ、生理學トカ醫學ト
カ云フ御方面ニハ確ニ門外漢アル、定年法ヲ提出セラル
ルニ當テ、此點ニ御考慮ヲ御費シニナシコトハ勿論デアリ
マセウケレドモ、進ンデ此専門家ノ意見ヲモ徵セラレ、考慮
ニ資セラレタノアリマスかトウカ、若シ左様モ譯アリマス、
ルナラバ、専門家ノ意見ナルモノ、要旨ヲ承リタイ、若又左
様ナ事が無イト致シマスレバ、其大膽ト不用意トニ驚カザル
ヲ得ナイノデアリマス、最後ニ御尋ラシタイノハ是デアリマス、
本案提出ノ動議ニ就キマシテハ、世間ニ種々噂サレテ居リ
マスか、其噂ノニ斯様ナ事ガアル、今回ノ定年法ハ司法闇
野心ノ發露アルト云フ噂デアリマス、其噂ノ内容ト致シマ
シテハ、定年法が通過實施ノ曉ニ於テハ、某大官が大審院長
ニ昇進ラシ、司法省ノ某大官が其檢事長ノ後ヲ襲ヒ、又司
法省ノ局長以下ノ方々ハ、退職裁判官ノ後任者トシテ
ソレト補任ヲセラル、斯様ニ噂ヲ致シテ居リマス
ル、是ハ固ヨリ私ハ齊東野人ノ言ト致シテ信ズルモノデハゾ
ザイマセヌ、噂ハ飽マデモ噂デアッテ、事實デハナイト思フノデ
アリマスケレドモ、(ソレナラ噂ナドヨシタガヨイ)ト呼フ者ア
リ)此構成法ノ七十一條ノ二ニハ斯様ナ規定ガアルノデア
リマス、前三條ノ規定ノ適用ニ就テハ、判事又ハ檢事タル資
格ヲ有スル司法省各局長、司法省參事官ノ在職ハ、之ヲ判
事ノ在職ト看做スト云フ規定ガアルノアリマス、申スマデ
モナク此現行ノ裁判所構成法ニハ、訴訟院ノ判事タルニハ
五年以上、大審院ノ判事タルニハ十年以上、官選辯護士
ノ職ニ在ラザレハ不可ナリト云フ趣旨ノ規定ガアルノアリ
マス、而シテ定年法が實施セラレテ(「簡単々々ト呼フ者ア
リ」)職ヲ退ク裁判官二十名餘ノ大部分ハ(「ソシナ質問ガ
アルカ」ト呼フ者アリ)控訴院若クハ大審院ノ職員中ニ在ル
モノ、如ク承テ居ルノアリマス、此三箇ノ形影ガ伴フ所
ノ狀態ハ、一體何事ヲ語テ居ルノアリマセウカ、自然今述
ベタ世間ノ噂ニ冊クト云フ(「噂ナドハヨシ給ヘ」ト呼フ者ア
リ)嫌ハアリマスマイカ、誤テ以上ノ噂ヲ信ズル者ガ若シア

タト致シマシタナラバ、折角ノ此司法ノ刷新改善ノ爲メノ提
案ガ、無權威無價値ノモノト墮スルノ虞ハアリマスマイカ、ソ
マシタナラバ、曆ノ上ノ年齢ヲ標準ト致シテ、我國現在ノ裁判
官ノ能力ノ有無ヲ断ズルト云フ不當ニ陷イルコトハ、疑ガナ
イノデアリマス(「餘り長イ」「簡単ニ願ヒマス」「委員會デヤ
リ給ヘ」議長々々ト呼フ者アリ)勿論司法省ハ學者揃デ
アリマスケレドモ、法律的ニ専門デアッテ、生理學トカ醫學ト
カ云フ御方面ニハ確ニ門外漢アル、定年法ヲ提出セラル
ルニ當テ、此點ニ御考慮ヲ御費シニナシコトハ勿論デアリ
マセウケレドモ、進ンデ此専門家ノ意見ヲモ徵セラレ、考慮
ニ資セラレタノアリマスかトウカ、若シ左様モ譯アリマス、
ルナラバ、専門家ノ意見ナルモノ、要旨ヲ承リタイ、若又左
様ナ事が無イト致シマスレバ、其大膽ト不用意トニ驚カザル
ヲ得ナイノデアリマス、最後ニ御尋ラシタイノハ是デアリマス、
本案提出ノ動議ニ就キマシテハ、世間ニ種々噂サレテ居リ
マスか、其噂ノニ斯様ナ事ガアル、今回ノ定年法ハ司法闇
野心ノ發露アルト云フ噂デアリマス、其噂ノ内容ト致シマ
シテハ、定年法が通過實施ノ曉ニ於テハ、某大官が大審院長
ニ昇進ラシ、司法省ノ某大官が其檢事長ノ後ヲ襲ヒ、又司
法省ノ局長以下ノ方々ハ、退職裁判官ノ後任者トシテ
ソレト補任ヲセラル、斯様ニ噂ヲ致シテ居リマス、
ル、是ハ固ヨリ私ハ齊東野人ノ言ト致シテ信ズルモノデハゾ
ザイマセヌ、噂ハ飽マデモ噂デアッテ、事實デハナイト思フノデ
アリマスケレドモ、(ソレナラ噂ナドヨシタガヨイ)ト呼フ者ア
リ)此構成法ノ七十一條ノ二ニハ斯様ナ規定ガアルノデア
リマス、前三條ノ規定ノ適用ニ就テハ、判事又ハ檢事タル資
格ヲ有スル司法省各局長、司法省參事官ノ在職ハ、之ヲ判
事ノ在職ト看做スト云フ規定ガアルノアリマス、申スマデ
モナク此現行ノ裁判所構成法ニハ、訴訟院ノ判事タルニハ
五年以上、大審院ノ判事タルニハ十年以上、官選辯護士
ノ職ニ在ラザレハ不可ナリト云フ趣旨ノ規定ガアルノアリ
マス、而シテ定年法が實施セラレテ(「簡単々々ト呼フ者ア
リ」)職ヲ退ク裁判官二十名餘ノ大部分ハ(「ソシナ質問ガ
アルカ」ト呼フ者アリ)控訴院若クハ大審院ノ職員中ニ在ル
モノ、如ク承テ居ルノアリマス、此三箇ノ形影ガ伴フ所
ノ狀態ハ、一體何事ヲ語テ居ルノアリマセウカ、自然今述
ベタ世間ノ噂ニ冊クト云フ(「噂ナドハヨシ給ヘ」ト呼フ者ア
リ)嫌ハアリマスマイカ、誤テ以上ノ噂ヲ信ズル者ガ若シア

○議長(鈴木喜三郎君)

(政府委員鈴木喜三郎君登壇、拍手起立)

○政府委員(鈴木喜三郎君) 横山君ノ御質問ニ御答ヲ
致シマスルガ、横山君ノ御質問中過半ハ御意見ト承リマシ
タノデゴザイマスルノデ、御質問ニ要領ニ向シテ、私ハ簡單ニ
御答ヲ申サウト思フデアリマス、横山君ガ言ハレルガ如ク裁
判官ハ公平ヲ尚バナケレバナラヌ、司法ノ職務ト云フモノハ
最モ重大ナルモノデアル、吾人ノ生活條件ヲ維持スル爲メ
ニ、最モ必要ナル所ノモノデアルカラシテ、左様ナ重大ナル職
務ヲ有シテ居ル所ノ司法官ニ臨ムニ此定年法ヲ以テセバ、所
謂司法權ノ獨立ヲ害スルコトナキカ、即チ憲法五十八條ノ
第二項ニ抵觸シテ居ルモノハナイカト云フ事柄ガ、御質問
ノ骨子ト承クタノアリマスル、政府ニ於キマシテハ憲法
ノ條章何レノ點ニ於キマシテモ、此定年法が憲法違反スル
ト云フ廉ナキヲ確信致シマシテ、提案ヲシタノゴザイマス、
御元ニナリマシタル五十八條ノ二項ニ於キマスル裁判官ハ
刑法ノ宣告又ハ懲戒ノ處分ニ由ルノ外ノ職ヲ免セラル、コ
トナシト云フ文字ハ、此憲法ノ發布セラル、當時ニ於キマ
シテハ、職ト官トノ言葉ニ於キマシテ、儼然タル所ノ今日ノ
如キ明白ナル分界ハ無カッタノデ、ソコデ憲法五十八條ノ第
二項ニ用井タル所ノ職トハ、即チ今日申シマスル所ノ官デア
リマス、前二條ノ規定ノ適用ニ就テハ、判事又ハ檢事タル資
格ヲ有スル司法省各局長、司法省參事官ノ在職ハ、之ヲ判
事ノ在職ト看做スト云フ規定ガアルノアリマス、申スマデ
モナク此現行ノ裁判所構成法ニハ、訴訟院ノ判事タルニハ
五年以上、大審院ノ判事タルニハ十年以上、官選辯護士
ノ職ニ在ラザレハ不可ナリト云フ趣旨ノ規定ガアルノアリ
マス、而シテ定年法が實施セラレテ(「簡単々々ト呼フ者ア
リ」)職ヲ退ク裁判官二十名餘ノ大部分ハ(「ソシナ質問ガ
アルカ」ト呼フ者アリ)控訴院若クハ大審院ノ職員中ニ在ル
モノ、如ク承テ居ルノアリマス、此三箇ノ形影ガ伴フ所
ノ狀態ハ、一體何事ヲ語テ居ルノアリマセウカ、自然今述
ベタ世間ノ噂ニ冊クト云フ(「噂ナドハヨシ給ヘ」ト呼フ者ア
リ)嫌ハアリマスマイカ、誤テ以上ノ噂ヲ信ズル者ガ若シア

就キマシテハ、司法省ノ裁判所構成法ヲ提出致シ、而シテ
樞密院ニ向シマシタルノ明治二十二三年頃ノ裁判所構成
法ノ起案ノ沿革ヲ申上げマスレバ、最モ明白ニナラウト思ヒ
マスケレドモ、ソレハ委員會等ニ於キマシテ申上ダルコトニ致
ス、以上十一點ニ對シマシテ、明快ナル御答辯ヲ煩シタイン
デアリマス、假令政府ノ御答ニ満足シナイモノガアリマシテ
モ、再質問ハ勿論之ヲ委員會ニ議リマシテ、此議場ニ於テ
重テ之ヲ爲スト云フコトハ致シマセヌケレドモ、幸ニ公開
セラレタ此議場ニ於テ御答ヲ得マシタナラバ、私感ヲ同ジ
ウスル他ノ多クノ國民モ亦疑ヲ解クコトヲ得マシテ、適從ス
ルコトガ出來ルト云フ便宜ガアリマス爲メニ、特ニ此一言ヲ
附加ヘテ置クノアリマス(拍手起立)

○議長(鈴木喜三郎君)

(政府委員鈴木喜三郎君登壇、拍手起立)

○政府委員(鈴木喜三郎君) 横山君ノ御質問ニ御答ヲ
致シマスルガ、横山君ノ御質問中過半ハ御意見ト承リマシ
タノデゴザイマスルノデ、御質問ニ要領ニ向シテ、私ハ簡單ニ
御答ヲ申サウト思フデアリマス、横山君ガ言ハレルガ如ク裁
判官ハ公平ヲ尚バナケレバナラヌ、司法ノ職務ト云フモノハ
最モ重大ナルモノデアル、吾人ノ生活條件ヲ維持スル爲メ
ニ、最モ必要ナル所ノモノデアルカラシテ、左様ナ重大ナル職
務ヲ有シテ居ル所ノ司法官ニ臨ムニ此定年法ヲ以テセバ、所
謂司法權ノ獨立ヲ害スルコトナキカ、即チ憲法五十八條ノ
第二項ニ抵觸シテ居ルモノハナイカト云フ事柄ガ、御質問
ノ骨子ト承クタノアリマスル、政府ニ於キマシテハ憲法
ノ條章何レノ點ニ於キマシテモ、此定年法が憲法違反スル
ト云フ廉ナキヲ確信致シマシテ、提案ヲシタノゴザイマス、
御元ニナリマシタル五十八條ノ二項ニ於キマスル裁判官ハ
刑法ノ宣告又ハ懲戒ノ處分ニ由ルノ外ノ職ヲ免セラル、コ
トナシト云フ文字ハ、此憲法ノ發布セラル、當時ニ於キマ
シテハ、職ト官トノ言葉ニ於キマシテ、儼然タル所ノ今日ノ
如キ明白ナル分界ハ無カッタノデ、ソコデ憲法五十八條ノ第
二項ニ用井タル所ノ職トハ、即チ今日申シマスル所ノ官デア
リマス、前二條ノ規定ノ適用ニ就テハ、判事又ハ檢事タル資
格ヲ有スル司法省各局長、司法省參事官ノ在職ハ、之ヲ判
事ノ在職ト看做スト云フ規定ガアルノアリマス、申スマデ
モナク此現行ノ裁判所構成法ニハ、訴訟院ノ判事タルニハ
五年以上、大審院ノ判事タルニハ十年以上、官選辯護士
ノ職ニ在ラザレハ不可ナリト云フ趣旨ノ規定ガアルノアリ
マス、而シテ定年法が實施セラレテ(「簡単々々ト呼フ者ア
リ」)職ヲ退ク裁判官二十名餘ノ大部分ハ(「ソシナ質問ガ
アルカ」ト呼フ者アリ)控訴院若クハ大審院ノ職員中ニ在ル
モノ、如ク承テ居ルノアリマス、此三箇ノ形影ガ伴フ所
ノ狀態ハ、一體何事ヲ語テ居ルノアリマセウカ、自然今述
ベタ世間ノ噂ニ冊クト云フ(「噂ナドハヨシ給ヘ」ト呼フ者ア
リ)嫌ハアリマスマイカ、誤テ以上ノ噂ヲ信ズル者ガ若シア

速記録第三十二號 右各案ノ審査ヲ付託スヘキ委員ノ選舉

ウモ或ル判事ノ退職ヲ決議スルトニ云フコトハ無イヤウニ察知セラレタカラシテ、其申出ヲ撤回シタヤウナ事實ガ昔アッタト云フヤウナコトデアルガ、スクテハ裁判官ト云フ者ハ實ニ私情ニカマケテ、大切ナル已ノ守ルベキ分ヲ忘レテ、公正ヲ缺クヤウナ司法官ガアツテハ由々シキ事デアル、左様ナ者ハ無イト思フガ、左様ナ者ガ有リトセバ、大變ナ事アレト云フ仰セテゴザイマスガ、ソレハ其通り成程裁判官モ人ニアリマスカラ、情ハ勿論アル譯デアル、情ハアルケレドモ、私情ニ驅ラレテ爲スベキ本分ヲ忘レ、爲スベキ職務ヲ外ニシテ、サウシテ正當ナル判断ヲ爲サヌト云フヤウナコトハ決シテアリマセヌ、司法省ニ於テ一タビ總會ノ決議ヲ求ムベク提出シタモノヲ、撤回シタト云フ事實ハ無イノデアリマス、ソレカラ次ニハ大正二年ノ法律ニハ色ニナ条件ガアル、今回ノトハ大ニ違フ、ソレカラ大正二年ノ法律ノ程度ニシテハ、ドウデアルカト云フヤウナ御議論モアリマシタガ、大正二年ニ於キマシテハ、成程裁判所ノ廢止ニ依テ、二百有餘名ノ判檢事ニ休職ヲ命スルト云フ規定デ、一時アルノモノアリマシタ、ソレハ裁判所ノ廢止ノ爲メニ穴員ヲ生ジマスカラ、一時のノ休職法律ヲ作ラヌモ、判檢事ニシテ行場所ガナケトテモ左様ナ法律ヲ作ラヌモ、判檢事ニシテ行場所ガナケ違反ヲシナイト云フコトハ、其時ニ於テ認メマシテ居ルカラバ、行場所ノ出來ルマデ待命ヲ仰付ケテモ宜イコトガケシムルト云フコトガ憲法違反デアルナラバ、大正二年ノ法律又違憲ナラザルヲ得ヌノアリマス、要スルニ違憲論トシマシテハ、私ハ左様ナ考ヲ持タナイ、政府ハ其意味ニ於テ、本法ハ違憲ニ非ヌト考ヘテ居ル次第アリマス、又大正二年ノ程度ニ止メテ置ク考ハ無イカ、或ハ構成法ノ資格條件トシテ之ヲ規定スル考ハ無イカ、斯ウ云フ御質問デゴザイマシタガ、大正二年ノ法律ハ横山君仰セノ如ク一時のノモノデアル、司法部ノ改善ハ、今年ヤ明年ニ止マル譯デハナイ、年ヲ取ル者ハ年々一ヶ宛年ヲ取テ行クモノアリマスカラ、年ヲ取ダト云フ故ヲ以テ、法律ノ擬制ニ依テ改革ヲ爲スモノデアルカ、今年ガ明年、明年ガ明後年ニ續クコトハ必然ノ結果デアリマス、ソレデアリマスカラ、一時のノ法律トスル譯ニシタルモノハ、資格上云フコトニハ致サヌノデゴザリマスソレカラ次ニハ司法省ハ皆川書記官若クハ中島判事等ヲ手先ニ使フテ、本法ハ違憲ニ非ザルト云フコトノ論說ヲ書カシマ

斯ウ云フヤウナ御質問ガゴザリマシタガ、左様ナ事ハ絶対ニゴザリマセヌ、成程皆川晉記官、中島判事ハ、法曹記事ニ已レノ信ズル所ノ論說ヲ掲ゲタコトハ是ハアリマスケレドモ、司法省ガ命ジテ之ヲ爲サシメタト云フコトハ無イ、若シ夫レ司法省ガ法曹記事ニ載セタト云フコトノ論說ガ、司法省ノ命令デアルト云フナラバ、廣島控訴院長志方判事が此案ニ對シマシテ、反対ノ意見ヲ表白シテ居ル、是亦司法省命ジタリト謂ハナケレバナラヌ、左様ナ事ヲ以テ司法省ガドウシタスウシタト云フコトハ到底ナイノアリマスカラ、各自己レノ信ズル所ノ意見ヲ法曹記事ニ載セルハ自由デアリマシテ、司法省ハソレヲ止メル理由ハ無イノアリマス、ソレニ依テ之ヲ載セタノアリマス、而シテ定年法ノ附則ニ於キマシテ、二十日ヲ延長スルト云フヤウナ規定ヲ設ケタガ、是ハ中島判事ノ意見ヲ採用シテソンナ事ヲシタノカト云フ、斯ウ云フ仰セデアリマスガ、サウ云フ事ハ無イノアリマス、勿論誰ノ說彼ノ說ト云フコトハ無イノデ、初カラサウ云フ事ニスルノヲ是ナリトシテ、提案シタ次第アルノデゴザイマスル、尙ホ最後ニ本案提出ノ動機トシテ、道路傳フル所ノ風說ニ依ルナラバ、其仰セデゴザリマスルカラ、更ニ之ニ答フルノ必要ハ無イト思ヒマスルガ、成程私モサウ云フ說ノアルコトハ間イテ居リマス、或ハ新聞ニサウ云フヤウナコトノアッタコトモ見マシタ、既ニ御質問者横山君ハ其疑ガ無イノデハアリマスルケレドモ、一旦新聞等ニモ載リマンシタカラ、此機會ニ於テ私ハ辯明シテ置クコトガ宜カラウト思フノデゴザイマスル、決シテ司法省ノ局ヲドウシヤウトカ、司法省ノ誰ヲドウスルトカ、誰ガドノ後釜ニナルトカ云フヤウナ事柄ハ、今カラシテ居ル話デハチイ、法ガ成立致シマシテ、實施期ニ至テ司法大臣之ヲ實施スルノアリマシテ、今カラ之ヲ豫測スベキ次第デハナイノアリマス、其中デ新聞ニ現ハレタ一節ニ、横山君蓋シソレヲ仰セダト思ヒマスカラ、私ハ進ンデ申上ケマスルガ、私ノ名前ガ掲ゲラレテ、何カ私が司法省ヲ出テ、検事總長ノ後任トナルトカト云フヤウナ忌ハシイ事柄ガ記載シテアッタノデゴザリマス、私司法界ニ入りマシテ茲ニ三十年、未ダ一黠ノ私心私慾ヲ挿シテ事ヲ爲シタコトハナイノアリマスモ、矢張私ハ此法律ヲ作ルニ就テ、最モ其立場カラ致シマシテモ、考ヘマシテ挿ヘタ法律デアルノデアル、此間ニ私が何カ一々ノ地位ヲ得ンガ爲メニソシナ汚イ根性ヲ以テ此法律ハ作ラヌノデアル(ヒヤー)拍手起ル私ハ天下國家ノ爲

第三 右各案ノ審査ヲ付託スヘキ委員ノ

○岩崎勳君、兩案ヲ一括シテ、委員ノ數ハ特ニ十八名トシ、議長ニ於テ指名アランコトヲ望ミマス
〔異議ナシ〕「異議ナシ」と呼フ者アリ

第四 度量衡法中改正法律案（政府提出）

貴族院送付) 第一讀會

卷之三

皮量衡法中改正法律案

度量衡法中左ノ通改正ス
第一條 度量ハメートル、衡ハキログラムヲ以テ基本トス

メートルハ融解シツツアル純粹ノ水ノ氷ノ溫度ニ於ケ
ル國祭メートル原器ノ。長トス
○元ス所ノ

キログラムハ國際キログラム原器ノ質量トス
第二條 メートルハメートル契約ニ依リ帝國ニ交付セラ

レタルメートル原器ニ依リ、キログラムハメートル契約ニ
依リ帝國ニ交付セラレタルキログラム原器ニ依リ之ヲ

第三條 現示ス 度量衡ノ名稱命位ヲ定ムルコト左ノ如シ

庶

クロン
ミリメートル
センチメートル
デシメートル
イートル
キロメートル
メートルノ百萬分之一
メートルノ千分ノ一
メートルノ百分ノ一
メートルノ十分ノ一

西 積	平 方 ミリメートル	平 方 センチメートル	平 方 デシメートル	平 方 メートル	平 方 キロメートル	百 萬 平 方 メートル
	一	一	一	一	一	一
	一	一	一	一	一	一
	一	一	一	一	一	一
	一	一	一	一	一	一

究シ以テ國策ヲ樹立スル爲養蠶業並絹絲工業調査會設置ニ關スル建議案
ヲ設置セラレムコトヲ望ム
右建議ス

〔飯塚春太郎君登壇、拍手起立〕

○飯塚春太郎君 諸君本案ハ我蠶絲業並絹織物工業ニ關スル問題アリマシテ、本業ニ對シテ根本的發達政策ヲ樹立シタイト云フノガ本案ノ目的アリマス(「分りマシタ」ト呼フ者アリ)サウ致シマシテ此ノ建議案ニ建議ノ理由ヲ明記致シマセヌ爲メニ、此場合甚ダ恐縮ニ存ジマスルガ、我此絹工業ノ發達が甚私共ノ責任上其大要ヲ演説ヲ以テ爰ニ申述ヘタイト存ジマスレバ、是非共此眞面目ナル案ニ就テ、暫ク御清聽フ願ヒタイト思ヒマス(「謹聽」「簡単」ト呼フ者アリ)我ガ此蠶絲並ニ絹織物ハ輸出貿易品ノ大宗ニ致シマシテ、國家經濟ニ對シテ重大ナル關係ノ有ルト云フコトハ、諸君ノ篤卜御承知ノコトデアリマスルガ、我蠶絲業が現在政府ノ保護獎勵ト又當業者ノ不斷ノ努力ニ依リマシテ、近時大ニ發達ヲ致シマシテ、其生産額ハ全世界ノ七割ヲ占ムルト云フヤウナ場合ニナリマシタ、洵ニ盛ナリト稱スベキデアリマスガ、此輸出生額ノ約八割ト云フモノガ輸出致サレマシテ、又其輸出額ノ八割ト云フモノガ、米國ニ輸出セラル、ノ實狀アリマス、此輸出偏重ノ事實ガ、絲價激變ノ主ナル原因ノ一ツナカニテ居リマシテ、此我ガ輸出貿易ノ之ガ一大弱點デアリマス(「成ベク簡単ニ願ヒマス」是非簡単ニ願ヒマス)ト呼フ者アリ)之ヲ除去調節スルニ非ザレバ、此我蠶絲業ハ未ダ以テ基礎確實ノ產業ト云フコトガ出來ナカニテアリマス、又支那ノ蠶絲業ハ、銀塊相場ノ低落、世界的ノ絹織物ノ需用ノ增加、日本生絲ノ生産費ノ暴騰、並ニ近來歐米資本家ノ支那蠶絲業ニ對スル啓發運動其諸種ナル影響ニ依リマシテ、近キ將來ニ必ズ大ニ勃興スルト云フコトハ明カデアリマス、我蠶絲業ハ、茲許數年間ハ今日ノ盛況ヲ持続シ得ルモ、之ヲ今日ノ儘ニ放任致シマスルナラバ、今後一二十年ヲ出デズシテ、心ズヤ内ハ生産費ノ増加ニ苦ミ、外ハ支那生絲ノ競争ヲ受ケマシテ、頗ル困難ノ位置ニ陥ルト云フコトモ、是亦明カナル事ダラウト存ジマス、又翻テ我ガ輸出絹織物ノ狀況ヲ察シマスルニ、其販路ハ殆ド全世界ニ及リ、其品種漸ク増加致シマシテ、輸出年額約二億圓ニ達シマシタ、之ニ生絲ニ比シマスレバ、未ダ其半バニ達セズト雖モ、其輸出增加ノ年率ハ蠶絲ニ優リ、生絲ノ需要カ近々數箇國ニ限定セラル、ニ反シマシテ、絹織物ハ世界各方面ニ持続的ニ交互通ニ需要セラレ、洵ニ前途洋々タルノ觀ガアリマス(「演説ヲ願ヒマス」ト呼フ者アリ)然レドモ我ガ絹工業ハ

未ダ幼稚ニ致シマシテ、歐米ノソレニ比シマシテ大ニ遜色アルハ、頗ル遺憾トスル所デアリマス、我國ガ夙ニ絹業國トシテ名ヲ歐米ニ博シタルニ拘ラズ、我ガ此絹工業ノ發達が甚ダ遲々タルハ、其原因種々アルト云ヒマスルガ、我國古來ノ絹織物ハ著尺又ハ、帶類ト云フモノニ致シマシテ、其形狀ガ或ハ著尺ナラバ、九寸幅、三丈、帶デアルナラバ、一尺八寸一丈ト云フヤウナ話テ(「朗讀ヲ禁ジマス」ト呼フ者アリ)日本ノ服裝ニ特定專用セラレマシテ、國際的商品タルコトガ出来ナイカ爲メニ、其生産ト其販賣ニ於キマシテ、國際的發展ノ機會ヲ失シタルト云フコトガ主ナル原因ト存ジマスルガ、又我ガ從來官民ノ注意モ、絹工業ト云フモノノ開却シタル結果ニ外ナラスト信ジマス、惟フニ支那ノ蠶絲業ハ、近キ將來ニ於テ、必ズ我ガ蠶絲業ノ動敵トナリマセウシ、又米國絹業ノ發達ハ、今ヤ方ニ自國自給ノ域ヲ脱シマシテ、輸出絹業國トシテ、我ガ輸出絹業ノ競爭者トナルノ形勢デアリマス、洵ニ我ガ蠶絲業並ニ絹工業ノ前途ニ對シテ、憂慮ニ堪ヘザル次第アリマス、是ニ於テ吾ニハ斯業ニ對シ根本的ノ發展策ヲ講ジ、斯業ノ基礎ヲ堅實ニ致サナケレバナラスト存ジマスル次第アリマス(「マダ何枚アリマスカ」)「速記者ニ委セテシ給ヘ(「ト呼フ者アリ)」而シテ蠶絲並ニ絹工業ハ密接ノ關係ヲ有スモノアリマスカラ、蠶絲業政策ノ根本方針ト絹業政策ノ根本方針トニ於テ、一致點ヲ求メテ、ソニニ始メテ、國策ト云フモノヲ樹立致サネバナラヌト存ジマス、我蠶絲業ニシテ今日ノ盛況ヲ永遠ニ持続シ、進ンデ世界的蠶絲界ノ霸權ヲ掌握セントスルナラバ、勢ヒ原料勞銀ノ豊富低廉ナル天與ノ蠶業國タル支那ニ向テ、ノ发展ヲセバナルマイト思ヒマス、而シテ彼我ノ蠶絲業ヲシテ經濟的ニ同化スルノ道ヲ講ジ、以テ世界無限ノ需要ニ應ズルヤウニ致サネバナルマイト思ヒマス、然リ而シテ(笑聲)之ノ選定又ハ製絲ノ方法ヲシテ特殊的織物ニ適セシメ、又製絲操業ノ工程、並ニ中間手數ニ於ケル無用ノ費用ヲ節約スル等種々ノ施設ヲ實行セバ、我ガ輸出絹織物ノ品種數量益、增加シ、我ガ蠶絲生産額ノ過半ヲ我國內ニ於テ消費シ、以テ我ガ製絲貿易ノ弱點タル輸出偏重ノ弊ヲ調節緩和シ、又相互ニ生産費ヲ減ジ、斯業ヲシテ經濟的彈力アル産業タルシムルコトヲ得ルト信ジマス(「マダ長イデスカ」ト呼フ者アリ)モウ僅カデス(笑聲)而シテ我ガ官民ノ斯業ニ對スル対策ヲ見マスルニ、一定ノ方針ナク、施設區々ニシテ、更ニ見ルベキナク、徒ラニ諸種ノ保護又ハ救濟ノ拙策ヲ弄シ、時ニ或ハ大勢ニ逆行シ、斯業ノ進展ヲ阻礙スルコト之レ有ルコトハ、從來ノ事情ニ徴シテ明カデアリマス、之ヲ今日ノ儘ニ放任セバ、斯業ヲシテ前途或ハ危機ニ陥ラシムルノ虞ナキニ保スベカラズト信ジマス、故ニ吾ニハ我蠶絲並ニ絹工業ニ經ノ簡易ナルコト、我ガ婦女ノ労働ニ適シ、又製作技術ノ如キハ近時大ニ進歩シ、躍歐米ニ及ブベ、而シテ絹織物ノ需要ハ益、増加シ、販路世界方面ニ及リ、交互のニ需要ヲ持

續セラレルノ状況ニ在リマシテ、前途洵ニ有望ナル事業デアリマス、今ニシテ官民協力保護獎勵其宜シキヲ得、尙ホ一般ノ努力ヲ吝マズンバ、我國ノ眞ノ獨立的大工業トナシ得ルコトハ信ジテ疑ヒマセヌ、又我ガ蠶絲業ヲ直接間接ニ最も有力ニ助長シ、内ハ以テ勞働問題ヲ緩和シ、外ハ以テ世界各國民ヲ顧客トシテ、國利民福ノ増進ヲ圖リ得ル所ノ產業ハ、絹工業ヲ措イテ他ニ求ムベカラズト信ジマス、我國ノ蠶絲業工業ノ趨勢果シテ然リトセバ(「簡単々々」ト呼フ者アリ)斯業ニ對スル根本政策ハ我國ニ於テ大ニ絹工業ヲ振興シ、絹工業ト蠶絲業トヲ統一的ニ連絡シ、又國內ニ於テ我ガ生產生絲ノ消費額ヲ益、增加シ、斯業ヲシテ相互ニ經濟的彈力アル産業トナラシムルコトヲ必要ト信ジマス(「判シタ」)「委員會デヤリ給ヘ(「謹聽々々」ト呼フ者アリ)故ニ斯業ニ對シ、品位品質ノ向上、廉價供給ノ實行、取引、安全保護等ニ關スル一般的改良施設ハ勿論ナルモ殊ニ絹工業中心主義ニ則リ、之ニ順應スル諸種ノ施設ヲ實行セネバナリマセヌ、例へバ我國古來ノ業國トシテ、我ガ輸出絹業ノ競爭者トナルノ形勢デアリマス、洵ニ我ガ蠶絲業並ニ絹工業ノ前途ニ對シテ、憂慮ニ堪ヘザル次第アリマスカラ、蠶絲業政策ニ對シ根本的ノ發展策ヲ講ジ、斯業ノ基礎ヲ堅實ニ致サナケレバナラスト存ジマスル次第アリマス(「マダ何枚アリマスカ」)「速記者ニ委セテシ給ヘ(「ト呼フ者アリ)」而シテ蠶絲並ニ絹工業ハ密接ノ關係ヲ有スモノアリマスカラ、蠶絲業政策ノ根本方針ト絹業政策ノ根本方針トニ於テ、一致點ヲ求メテ、ソニニ始メテ、國策ト云フモノヲ樹立致サネバナラヌト存ジマス、我蠶絲業ニシテ今日ノ盛況ヲ永遠ニ持続シ、進ンデ世界的蠶絲界ノ霸權ヲ掌握セントスルナラバ、勢ヒ原料勞銀ノ豊富低廉ナル天與ノ蠶業國タル支那ニ向テ、ノ发展ヲセバナルマイト思ヒマス、而シテ彼我ノ蠶絲業ヲシテ經濟的ニ同化スルノ道ヲ講ジ、以テ世界無限ノ需要ニ應ズルヤウニ致サネバナルマイト思ヒマス、然リ而シテ(笑聲)之ノ選定又ハ製絲ノ方法ヲシテ特殊的織物ニ適セシメ、又製絲操業ノ工程、並ニ中間手數ニ於ケル無用ノ費用ヲ節約スル等種々ノ施設ヲ實行セバ、我ガ輸出絹織物ノ品種數量益、增加シ、我ガ蠶絲生産額ノ過半ヲ我國內ニ於テ消費シ、以テ我ガ製絲貿易ノ弱點タル輸出偏重ノ弊ヲ調節緩和シ、又相互ニ生産費ヲ減ジ、斯業ヲシテ經濟的彈力アル産業タルシムルコトヲ得ルト信ジマス(「マダ長イデスカ」ト呼フ者アリ)モウ僅カデス(笑聲)而シテ我ガ官民ノ斯業ニ對スル対策ヲ見マスルニ、一定ノ方針ナク、施設區々ニシテ、更ニ見ルベキナク、徒ラニ諸種ノ保護又ハ救濟ノ拙策ヲ弄シ、時ニ或ハ大勢ニ逆行シ、斯業ノ進展ヲ阻礙スルコト之レ有ルコトハ、從來ノ事情ニ徴シテ明カデアリマス、之ヲ今日ノ儘ニ放任セバ、斯業ヲシテ前途或ハ危機ニ陥ラシムルノ虞ナキニ保スベカラズト信ジマス、故ニ吾ニハ我蠶絲並ニ絹工業ニ經ノ簡易ナルコト、我ガ婦女ノ労働ニ適シ、又製作技術ノ如キハ近時大ニ進歩シ、躍歐米ニ及ブベ、而シテ絹織物ノ需要ハ益、増加シ、販路世界方面ニ及リ、交互のニ需要ヲ持

○岩崎勳君 本案ハ奥村安太郎君外二名提出、發明獎勵ニ關スル建議案外三件ノ委員ニ併セテ付託セラレンコトヲ希望シマス

○議長(奥繁三郎君) 岩崎君ノ動議ニ御異議ナシト認メマス、仍テ動議ノ如ク決シマシタ——日程第八、水産銀行設置ニ關スル建議案ヲ議題ト致シマス、鵜澤宇八君

第八 水産銀行設置ニ關スル建議案(鵜澤宇八君外四名提出)

水産銀行設置ニ關スル建議案

水産銀行設置ニ關スル建議案

水産業ノ發展ハ資金ニ在リ故ニ水産特殊銀行ヲ設ケ水産家ニ金融ノ道ヲ計ルヲ以テ最急務ナリト認ム

○鵜澤宇八君 此水産銀行設置ノ事ハ多年ノ宿題デアリマス、而モ國家トシテハ極メテ重要ナル案件デアリマスカラシテ、十分ニ私ノ意見ノ在リマスル所ヲ披露致シマシテ、諸君ノ御批判ヲ乞ハント欲シタノデアリマスガ、會期切迫、而モ定期ニ近ヅキマシタ場合デアリマスカラ、簡單ニ其趣旨ヲ申上ダルコトニ致シマス、諸君、凡ソ事業ト金融トハ、恰モ車ノ兩輪鳥ノ雙翼ノ如キモノ、決シテ離ルベカラザルモノデアリマス、如何ナル有望ナ事業デモ、資金カ之ニ伴ハナケレバ、其發展其成功ハ決シテ出來ナインデアリマス(拍手)四面環海、我國ハ、此沿岸ニ居住シテ居リマスル多くノ住民ハ、漁業ニ從事シテ居ル者ぞ極メテ多イノデアリマス、然ルニ多數國民ノ從事シテ居リマスニ拘ラズ此漁業者不條理ナ事ハ決シテアル可ラザル事デアルト私ハ信ズルノデアリマス(拍手)諸君、此漁業ノ極メテ古イ歴史ヲ有シテ居ルノデアリマス往古ヨリ漁業ヲシテ來ッテ居ルノデアリマス、然ルニ此古キ所ノ漁業が今ニ遅シトシテ進マナイノデアリマス、隨シテ漁業が進マナイ結果ト致シマシテ、國民ノ副食食物アル所ノ魚類ハ、十分ニ國民ノ需要ヲ充タスコトガ出來ナイノデアリマス、是ハ社會政策ノ上ニ於キハナケレバナラナイノデアリマス、是ハ社會政策ノ上ニ於キマシテモ、大ニ考慮ヲ要サナケレバナラヌ所ノ問題デアリマス、諸君此意味ニ於キマシテ吾々ハ成ベク早ク政府ハ此特殊ノ水産銀行ヲ起シテ、漁業者ニ資金ノ融通ヲ圆ルト云フコトヲ切望シテ止マヌノデアリマス、而シテ單リ對内策ノミデアリマセヌ、漁業が盛シニナリマスレバ、進ンデハ海外輸出ヲ致シマシテ、國ノ富ヲ増スコトガ出來ルノデアリマス、銀行ヲ設立セラレント要望スル次第アリマス、簡單ニ意見ヲ申上ダマス(拍手起ル)

○岩崎動君 本案ハ岩本平藏君外九名提出、所得稅法中改正法律案外六件ノ委員ニ併セテ付託セラレントコトヲメマス、仍テ動議ノ如ク決シマシタ——日程第九、縣社乃木神社昇格ニ關スル建議案ヲ議題ト致シマス

〔贊成々々ト呼フ者アリ〕

○議長(奥繁三郎君) 岩崎君ノ動議ニ御異議ナシト認メマス、仍テ動議ノ如ク決シマシタ——日程第九、縣社乃木神社昇格ニ關スル建議案ヲ議題ト致シマス

第九 縣社乃木神社昇格ニ關スル建議案(横田千之助君外二名提出)

縣社乃木神社昇格ニ關スル建議案

○議長(奥繁三郎君) 説明ハ省略デスカ
○原夫次郎君 省略ニ願ヒタウゴザイマス

長崎五島佐世保間交通運輸ノ設備ニ關スル建議案

備ニ關スル建議案(牧山耕藏君外三名提出)

長崎五島佐世保間交通運輸ノ設備ニ關スル建議案

道敷設ニ關スル建議案外十一件ノ委員ニ併セテ付託セラ
レンコトヲ望ミマス

〔賛成々々〕ト呼フ者アリ

○議長(奥繁三郎君) 岩崎君ノ動議ニ御異議ナイト認メ
マス、仍テ動議ノ如ク決シマシタ——日程第十四、兵庫
内敷地無償下附ニ關スル建議案ヲ議題ト致シマス、木下
啓三郎君

第十三 社寺境内敷地無償下付ニ關スル

建議案(鴨澤總明君外四名提出)

社寺境内敷地無償下付ニ關スル建議案

社寺境内敷地無償下付ニ關スル建議案

政府ハ速ニ社寺境内敷地ヲ無償ニテ當該社寺ニ下付ス

ヘキ法律案ヲ制定シ之ヲ帝國議會ニ提出スヘシ

右建議ス

○宮古啓三郎君 簡單ニ此席カラ提案ノ理由ヲ申シマ
ス、此案ハ社寺ノ境内敷地ハ、當該社寺ニ無償ニテ下付
スル所ノ法律ヲ作ツテ貴ヒタイト云フ 趣意デアリマス、其理
由如何ト申シマスレバ、社寺上地處分ニ際ニ、社寺ノ所有
地ガ誤ニテ官林ニナシテ居ルモノガ多クテアル、而シテ行政裁
判所ノ判決ニ於テモ、朱印地並ニ除地ナルモノハ、其社寺
ノ所有デアルト云フコトニ判決サレテ居ル、其性質ニ至ラテ
ハ……

○議長(奥繁三郎君) 長サウデアリマスカラ登壇ヲ願ヒマ

ス

○宮古啓三郎君(續) 是デ終リマス

○議長(奥繁三郎君) 登壇

〔宮古啓三郎君登壇、拍手起ル〕

○宮古啓三郎君 只今申シマシ通リ社寺ノ所有デアル

ト云フコトノ、行政裁判所ノ判決ヲ幾ツモ受ケテ居ルノデ
アリマス、其性質ニ至テハ他ノ社寺ノ境内地ニ就テモ變ル

コトハ無イ、ソレデアリマスカラ之ヲ國有ニシテ置クト云フコ

トハ宜シクナイ、穩カデナナイ事デアルカラ、之ヲ其當該社寺

ノ所有ト云フコトニシテ下付サレタイト云フ 次第アリマ
ス、此種ノ事ニ就キマシテハ、當院ニ於テ幾ツモ通過ヲ致シ

テ居ルノデアリマスカラ、ドウカ此案ニ御賛成アランコトヲ
切望致シマス(拍手起ル)

○岩崎勤君 本案ハ深見寅之助君外五名提出、大山祇

神社昇格ニ關スル建議案外三件ノ委員ニ併セ付託セ
ラレンコトヲ希望致シマス

○議長(奥繁三郎君) 岩崎君ノ動議ニ御異議ナシト認
〔賛成々々〕ト呼フ者アリ

メマス、仍テ動議ノ如ク決シマシタ——日程第十四、兵庫
福崎間鐵道敷設ニ關スル建議案
甚三郎君

第十四 兵庫福崎間鐵道敷設ニ關スル建議案

建議案(木下甚三郎君提出)

兵庫福崎間鐵道敷設ニ關スル建議案

政府ハ速ニ兵庫福崎間ニ鐵道ヲ敷設セラレムコトヲ望ム

右建議ス

〔木下甚三郎君發壇、拍手起ル〕

○木下甚三郎君 私ノ提案ハ、神戸港ノ兵庫驛ヨリ但

線神崎郡ニ在リマス福崎摩間、一市五郡ノ間ヲ縱貫スル

鐵道アゴサイマス、(拍手起リ「謹聽」シツカリヤレ)ト呼フ
者アリ)此鐵道ノ線路ニ於キマシテハ、神戸港ガ其起點ニ

ナツテ居リマス、此神戸ハ我が東洋ノ第一市場タルコトハ諸

君ノ御承知ノ通リデアリマス、又殊ニ我國ノ咽喉ト致シマ

シテ、彼所ノ鐵道ノ交通ニ就テハ、最モ大切所デアリマス、
其一番大事チ神戸港ヲ見マスルニ、神戸ノ東西ノ交通ハ

甚ダ地點ガ惡イノデアリマス、極メテ樞要ノ地デアリナガラ、
附近ノ地勢ソ見マスレバ六甲山脈ガアテ、一ノ谷ト云フ大

キナ山ガアリマシテ、交通上非常ナ要地デアル、若シ一ノ谷

ヲ占メラレマシタラバ、日本交通ハ東京カラ四國ニ行クコ
トモ、馬關ニ行クコトモ出來ナクナルノデアリマス、而モ此所

ハ始終水害ニ罹ル、山陽線ノ不通ニナルノハ彼所ガ一番

多イノデアリマス、(ヒヤー)若シモノ時ニ彼所ニ故障ガ出
來タナラバ、國家ノ爲メ大ナル憂ガアルノデゴザイマス、爲ニ

此線ガ非常ニ有要ニナシテ來ルノデアリマス、ソレデ是ハ軍事
上モ極メテ重要ナ線路アリマス、ソコデ彼嶮ヲ避ケマシ

テ、山ノ中ニ引張、テ行キマスト、攝州ノ東カラ播州ノ中央

マデノ沃野ニナル、此間ニハ人口モ澤山アリマス、町ノ數ガ

五ツアリマス、ソレカラ播州米ト云フ良イ米モ澤山出マス、
播州木綿ト云フ織物モ澤山東京ニ來マス、三木ノ金物、

斯ウ云フ風ニ生産物ノ豊富ノ所デアル、人モ澤山居リマ
ス、ソレガ只今ノ所デハ北ノ方ノ山陰線ニ出ルカ、山陽線ニ

出ルカラアルカ、其間ハ十四五アルノデス、一寸汽車ニ乘
ルト云フテモ、五里七里ノ道ヲ歩カナレバ、サウ云フ結構ノ
土地デアリナガラ汽車ニ乗ルコトガ出來ヌ、若シ此鐵道ガ

敷ケマスト、其所カラ乗テ直グニ神戸ノ町マデモ行ケル、又

之ヲ拵ヘマスト、福知山カラ神戸ニ出ルマデニ、二十哩モ近ク

ナルノデアリマス、何ノ事ハナイ山カラ西ノ方ヲ向イテ進ン

スレハ政府カ特別保護ヲ與ヘ宜シク之ヲ指導獎勵スルコ

二十哩近ウナルノデアリマス、交通上サウ云フ便利ヲ得、廣
島ノ師團ヘデモ、姫路ノ師團ヘデモ、何ノ危險モ無ク行ケル
ノデアリマス、ソレカラ産業的ニ便利ガアル、斯ウ三ツノ利
益ガアルノデアリマシテ、是ハ是非造ラナケレバナラヌ線路
デアルト私ハ思フノデアリマス、ソレカラナケレバナラヌ、何故
ノハ、皆様ハ此演壇ア御土産案ナド、云フヤウナコトヲ仰シ
ヤイマスガ、私ノ此案ハ決シテ御土産案ナドハナインデゴザイ
マス、今日之ヲ出シタノハ、洵ニ適切ノ事デアリマスカラ政
府ニ於テモ、此時ニ大ニ奮勵シテヤラナケレバナラヌ、何故
カト云ヘバ、都會ニハ銀行ニ金ガ庫ノ中ニ有リ餘テ泣イテ
居ルノデアリマス、又地方ヘ行キマスト、倉ノ中ニ米ガ呻シテ
居リマス、米ト金トガ澤山アツテ人ハドウカト云フト仕事ガ
ナクテ遊シテ居リマス、此廢イ米、澤山ノ金ガアツテ遊シテ居
ル人が多イト云フ、此時ニ此鐵道ヲ造リマスト云フコトハ、
ソレ程結構ノ事ハ無イ、今日ヤリマシタナラバ、三年後ニ拵
ヘルヨリハ半分カ三分ノ一テ出来ル、人ハ澤山アル、米ハ廉
イ、金ハ澤山アル、此機會ニ澤山鐵道ヲ拵ヘテ、今度景氣
ノ恢復シタ時、皆ナガ力ハレテ拵ヘタ產物ガドシテ出ル
コトニナルノデアリマスカラ、ドウカ御賛成アランコトヲ
マス(拍手)

○岩崎勤君 本案ハ井上角五郎君外三名提出、三原吳
間鐵道敷設速成ニ關スル建議案外四件ノ委員ニ併セ付
託セラレンコトヲ望ミマス
○議長(奥繁三郎君) 岩崎君ノ動議ニ御異議ガ無イト
認メマス、仍テ動議ノ如ク決シマシタ——日程第十五、航空
業保護獎勵ニ關スル建議案
航空業保護獎勵ニ關スル建議案
航空業保護獎勵ニ關スル建議案
飛行機ノ進歩航空業ノ發達ハ國防上又ハ國家文化ノ
進運上絶大ノ關係ヲ有スルコトハ今更喋々ト要セサルト
コロナリ是レ歐米諸國ハ勿論隣邦支那ニ至ルマテ競フ
テ之カ發達進歩ヲ企圖シ、アル所以ナリ然ルニ本邦ノ
現狀ヲ見ルニ飛行機ノ製作ハ遅々トシテ振ハス航空業
ニ至リテハ未タ全ク之カ開始ノ議スラ耳ニスルヲ得ス
ノ如クムハ國防ニ充ツルニ巨額ナル國家歲計ノ大半ヲ以
テスルモ尙龍ヲ畫キテ晴ヲ點セサルノ憾アルヘシ
航空業ハ本邦最初ノ試ミニ屬シ我カ經濟界ノ事情ヨリ
スレハ政府カ特別保護ヲ與ヘ宜シク之ヲ指導獎勵スルコ

ト由來船舶航路補助法ヲ設ケテ海運業ノ隆盛ヲ企圖
セル如クスルニ非スムハ其ノ成立發達ヲ見ルコト至難ナ
ルハ周知ノ事實ナリ顧フニ國際競争ノ激甚ナル今日斯
ル業務開始ノ一日後ルハ即チ國家一日ノ損失ナルヲ
以テ政府ハ宜シク適當ノ法案ヲ設ケ速ニ斯業開始ノ氣
運ヲ進メ以テ国防ト國家文化ノ進運ニ遺漏ナキカ如ク
努メラレムコトヲ望ム

右建議ス

○津野田是重君 當席ヨリ述ベマス、此建議案ハ飛行機
ヲ以テ旅客貨物、及郵便物等ヲ敏速ニ輸送セントスル
ノデアリマス、英米佛等ノ諸國ニ於キマシテハ大ニ發達シテ
居リマスガ、我日本ニ於キマシテハ、全ク見ルベキモノガアリ
マセヌ、故ニ此案ヲ提出シタ次第アリマス、詳細ハ委員會
ニ於テ述ベマス、何卒御賛成アランコトヲ望ミマス

○岩崎勤君 本案ハ荒川五郎君外三名提出、非役壯丁

認メマス、仍テ動議ノ如ク決シマシタ、日程第十六、平和
記念東京博覽會費國庫補助二關スル建議案ヲ議付シマス
前田米藏君——山崎猛君

第十六 平和記念東京博覽會費國庫補助

二關スル建議案(前田米藏君外十
四名提出)

平和記念東京博覽會費國庫補助二關スル建議案

〔山崎猛君登壇、拍手〕
東京府開催平和記念東京博覽會ノ爲政府ハ同會費ニ
對シ相當補助ヲ與ヘラレントコトヲ望ム
右建議ス

○山崎猛君 諸君本案提出ノ主意ハ東京府ノ主催ニ依
リマシテ、明年三月上野公園ニ開催セラレル平和記念東
京博覽會ニ對シマシテ、同博覽會が既定計畫ヲ擴張シナ
ケレバナラヌ必要ヲ感ズルニ至リマシクノデ、此必要ナル經
費ニ對シテ、國庫ノ補助ヲ要求シタ伊云フノガ此案ノ主
意デアリマス、簡單ニ其理由ヲ申述べタイト思フノデゴザイ
マス、此博覽會ノ目的ガドウ云フモノデアルカ、其效果ガド
ウデアルカト云フヤウナ事ハ、今更茲ニ申上ゲルマテモナイト
考ヘマスガ、唯一ツ申上ダイト思ヒマスノハ、同博覽會ノ
特殊ノ目的アリマス、ソレハ此博覽會ハ如何ナルモノヲ
目的トシ、如何ナル計畫ニ依テ進ンデ居ルカト申シマスト、

戰時中ニ於ケル我國力ノ伸張ノ有様並ニ戰時中ニ於ケル我
國ノ殖產興業ノ發達シタル其眞相、其等ノモノヲ世界ノ表
ニ公表致シマシテ之ニ依テ内外ノ注意ヲ喚起シ、平和的
經濟戰ノ對策ニシタ伊云フノガ主意デアルノデアリマス、博
覽會ハ度々我國ニモ計畫サレテ居リマスガ、併ナカラ此博
覽會ハ、其規模ニ於テ、其計畫ニ於テ、餘程大ナルモノト
相成シテ居ルノデアリマス、而シテ此計畫ガ一タビ發表ニナ
リマスト、國內ハ勿論、海外ヨリモ非常ナ人氣ヲ以テ迎ヘラ
レテ居ルテ、早ク既ニ其中込ガ陸續トシテ到來スルヤウナ狀
態ニ在ルノデアリマス、例ヘバ米國ノ如キハ十万坪ノ敷地ヲ
要求シテ來テ居ルノデアリマス、全體ノ計畫ガ十一萬坪ニ
過ナインニ對シテ、十万坪ノ要求ヲシテ居ルト云フ有様デ
アリマス、若シ十万坪ガ出來ナケレケレバ、セメテハ、三万坪
デモヤシテ吳レナイカト云フヤウナ要求ヲシテ居リマス、其他
英國、加奈陀、支那、安南、智利ト云フヤウナ各國カラモ、ソ
レド出来ルダケ大キイ面積ヲ分ダテ吳レト云フ要求ガ來
テ居ル、然ルニ外國ニ對スル陳列品ノ場所ハ、現在ノ計畫
ニ於テ、ドレ位取ツテアルカト云ヒマスト、僅ニ一千坪ニ過
ギナノデアル、一千坪ノ面積ヲ以テ上述ノ如キ外國ノ非
常ニ多イ要求ニ應ゼバナラヌト云フ現狀ニ在ルノデアリ
マス、今日ノ狀態ニ於テハ、唯タ之ニ應ズルノ方法ハ、此既
定ノ計畫ヲ擴張スル、是ヨリ外ニ方法ハ無イヤウナ狀態ニ
相成シテ居ル、外國パカリデハナイノデアリマス、拓殖方面
ニ於テモ非常二人氣ヲ煽ツテ居ル、臺灣ノ如キ、朝鮮ノ如
キ、韓太ノ如キ及北海道ノ如キモ、現ニ非常ナル意氣込ヲ
以テ、此博覽會ヲ迎ヘテ居ルヤウナ状態ニ在ルノデアリ
ス、外國拓殖方面ノ狀態ガ斯様ナ風デアリマスカラシテ、之
ニ相成シ、國內ノ出品者モ非常ナ人氣ヲ呈シテ居ルノデア
リマス、一體外國ニ於テ斯様ナル人氣ヲ博シタ云フノハ、
東京博覽會トハ申スケレドモ、日本ノ主要ナル代表的ノ都
會ノ東京博覽會デアルト云フコトハ、直チニ日本博覽會會
アルト云フヤウナ考ヲ特シテ爲メテアラウト考ヘラレマス、免
子ヲ起點ト致シマシテ、埼玉縣ノ飯野、越生、小川、寄居、
兒玉、群馬縣ノ藤岡、高崎ト參リマス線路デゴザイマス、此
線路ハ既ニ政府ニ於キマシテ御決定ニナリマシタ、鐵道敷
設法案ニ載ツテ居リマス所ノ線路デアリマス、此線路ハ秩
父ノ連山ヲ一方ニ望ミマシテ、一方ニハ武藏野ノ平野ヘ連
續シテ居リマシテ、重要ナ線路デゴザイマス、殊ニ其間ニ於
キマシテハ、私設鐵道ヲ武藏野鐵道、若クハ東上鐵道、秩
父鐵道等ノ三線ガ連絡ヲスルコトニ相成リマスル次第ア
リマス、是ハ上武地方ノ產業ノ開發ハ勿論、遠クハ信越地
方ヨリ横濱港ヘ直接ニ通ズル所ノ路線デアリマシテ、產業
上及軍事上ニ、非常ノ利便ガアリマスル線路デアリマス
ガ故ニ、速ニ是ガ工事ニ著手セラレンコトヲ望ム次第デアリ
マス、ドウソ満場ノ諸君ノ御賛成ヲ願ヒマス

憾ナ事ト考ヘルノデアリマス、然ルニ既定計畫ノ六百万圓
ノ豫算ノ範圍内ニ於キマシテハ、逆モ此要求ニ應ズルコト
ガ出來ナインデアル、東京博覽會ハ固ヨリ一地方ノ計畫ニハ
相違ナインデアリマスルケレドモ、目的ト云ヒ、其景況ト云
ヒ、今日ノ如キ状態デアル以上ハ、是ハ國家的ノ使命ヲ
持テ居ルモノト斷ジテ差支ナイト思フノデアリマス、果シテ
國家的使命ヲ持テ居ルモノト致シマスルナラバ、國庫ヨリ
リマスト、國內ハ勿論、海外ヨリモ非常ナ人氣ヲ以テ迎ヘラ
レテ居ルテ、早ク既ニ其中込ガ陸續トシテ到來スルヤウナ狀
態ニ在ルノデアリマス、例ヘバ米國ノ如キハ十万坪ノ敷地ヲ
要求シテ來テ居ルノデアリマス、全體ノ計畫ガ十一萬坪ニ
過ナインニ對シテ、十万坪ノ要求ヲシテ居ルト云フ有様デ
アリマス、若シ十万坪ガ出來ナケレケレバ、セメテハ、三万坪
デモヤシテ吳レナイカト云フヤウナ要求ヲシテ居リマス、其他
英國、加奈陀、支那、安南、智利ト云フヤウナ各國カラモ、ソ
レド出来ルダケ大キイ面積ヲ分ダテ吳レト云フ要求ガ來
テ居ル、然ルニ外國ニ對スル陳列品ノ場所ハ、現在ノ計畫
ニ於テ、ドレ位取ツテアルカト云ヒマスト、僅ニ一千坪ニ過
ギナノデアル、一千坪ノ面積ヲ以テ上述ノ如キ外國ノ非
常ニ多イ要求ニ應ゼバナラヌト云フ現狀ニ在ルノデアリ
マス、今日ノ狀態ニ於テハ、唯タ之ニ應ズルノ方法ハ、此既
定ノ計畫ヲ擴張スル、是ヨリ外ニ方法ハ無イヤウナ状態ニ
相成シテ居ル、外國パカリデハナイノデアリマス、拓殖方面
ニ於テモ非常二人氣ヲ煽ツテ居ル、臺灣ノ如キ、朝鮮ノ如
キ、韓太ノ如キ及北海道ノ如キモ、現ニ非常ナル意氣込ヲ
以テ、此博覽會ヲ迎ヘテ居ルヤウナ状態ニ在ルノデアリ
ス、外國拓殖方面ノ狀態ガ斯様ナ風デアリマスカラシテ、之
ニ相成シ、國內ノ出品者モ非常ナ人氣ヲ呈シテ居ルノデア
リマス、一體外國ニ於テ斯様ナル人氣ヲ博シタ云フノハ、
東京博覽會トハ申スケレドモ、日本ノ主要ナル代表的ノ都
會ノ東京博覽會デアルト云フコトハ、直チニ日本博覽會會
アルト云フヤウナ考ヲ特シテ爲メテアラウト考ヘラレマス、免
子ヲ起點ト致シマシテ、埼玉縣ノ飯野、越生、小川、寄居、
兒玉、群馬縣ノ藤岡、高崎ト參リマス線路デゴザイマス、此
線路ハ既ニ政府ニ於キマシテ御決定ニナリマシタ、鐵道敷
設法案ニ載ツテ居リマス所ノ線路デアリマス、此線路ハ秩
父ノ連山ヲ一方ニ望ミマシテ、一方ニハ武藏野ノ平野ヘ連
續シテ居リマシテ、重要ナ線路デゴザイマス、殊ニ其間ニ於
キマシテハ、私設鐵道ヲ武藏野鐵道、若クハ東上鐵道、秩
父鐵道等ノ三線ガ連絡ヲスルコトニ相成リマスル次第ア
リマス、是ハ上武地方ノ產業ノ開發ハ勿論、遠クハ信越地
方ヨリ横濱港ヘ直接ニ通ズル所ノ路線デアリマシテ、產業
上及軍事上ニ、非常ノ利便ガアリマスル線路デアリマス
ガ故ニ、速ニ是ガ工事ニ著手セラレンコトヲ望ム次第デアリ
マス、ドウソ満場ノ諸君ノ御賛成ヲ願ヒマス

○岩崎勳君　本案ハ植竹龍三郎君外五名提出ノ、宇岩
鐵道敷設ニ關スル建議案外十二件ノ委員ニ併セテ付託
セラレントヲ望ミマス

○議長(奥繁三郎君)　岩崎君ノ動議ニ御異議ナイト認
メマス、仍テ動議ノ如ク決シマシタ、日程第十八、東京大
阪間高速度交通機關ノ設備ニ關スル建議案ヲ議題ニ供
シマス、久下豊忠君

第十八 東京大阪間高速度交通機関ノ設

卷之三

東京大阪間高速度交通機関ノ設備三監スル建議案

時間ノ經濟ハ國運ノ消長ト產業ノ盛衰ニ至大ノ關係ヲ
有スル大問題トシテ攻究セラレ交通機關ノ如キ歐米ニ
於テハ既ニ高速度ノ設備ヲ見タルノミナラス今正ニ航空
事業ノ完成ニ熱中シツツアリ此ノ時ニ方リ我カ鐵道ノ現
狀ヲ見レハ其ノ高速度ヲ有スル特急列車スラ一時間僅
ニ三十哩ヲ出テ斯彼我ノ懸隔實ニ甚シキモノアリ是レ國
民ノ常ニ最遺憾トスルトコロナリ於是乎先ツ我國ノ幹
線ノ一部東京大阪間ニ高速度ノ交通機關ヲ設備シ時
勢ニ順應スルハ刻下ノ急務ナリト信ス政府ハ宜シク速ニ
之ニ關シ適當ノ處置ヲ採ラレムコトヲ望ム

〔久下豊忠君登壇、拍手起ル〕

○久下豊忠君　本案ハ我國ノ交通政策上ニ少カラヌ
系ヲ及ボヌ是案デアリマスルカラ、暫ク御辛抱御清聽アラ

民ノ常ニ最遺憾トスルトコロナリ於是乎先ツ我カ國ノ幹線ノ一部東京大阪間ニ高速度ノ交通機關ヲ設備シ時勢ニ順應スルハ刻下ノ急務ナリト信ス政府ハ宜シク速ニ之ニ關シ適當ノ處置ヲ採ラレムコトヲ望ム

イノニ相成リマスルト、一時間七十哩ノ高速力ヲ出シテ居ルノデアリマス、然ルニ顧ミマスレバ、我國ニ於ケル鐵道ハ今日一時間二十哩、特急ト稱スル所謂特別急行列車ニ於テ走、南ト一時間三十哩ヲ出デナシニアリマス、之ヲ彼我比

〔賛成〕ト呼フ者アリ

○岩崎勳君　本案ハ杉浦五兵衛君外五名提出、遠美鐵道速成ニ關スル建議案外五件ノ委員ニ併セテ付託セラレントコトヲ望ミマス

八適當ナル考慮ヲ拂ヒ、適當ナル施設ノ下ニ、定期航空事業ノ開始ノ出來ルヤウニ、是ガ官設ト民營タルヲ問ハズ、政府ハ此點ニモ努力セラレンコトヲ希望致スノデアリマス。是ハ提案ノ理由デアリマス、ドウカ滿場ノ御賛成ヲ仰ギ

イノデゴザイマス、啻ニ鐵道ノミナラズ、航空事業ニ於テモ
今日前ニ申上ゲル通り、歐米各國ニ比較ヲ致シマシタナラ
バ、我國ノ遅ル、事遠イノニアリマスカラ、是ニ向テモ政府
ハ適當ナル考視ヲ第二、適當ナル施設ノ下ニ、定期航空事

トハ頗ル無理ナル注文デゴザイマシテ、是ハ至難ナ事トハ存ジマスガ、只今申上ゲル通り、特別三便法ヲ設ケマシテ、特別ニ條件ヲ附シテ、之ヲ民間ニ許可サレレバ、民業トシマシハタナラ、必ズ是ハ成功スベキモノト私、固ク信ジテ疑ハズ

ノ長キニ達シテ居リマスガ、尙ホ今後敷設スベキモノガ六千餘哩モゴザイマシテ、到底容易ナコトデ此鐵道ノ全普及ヨウノヨリコトハ出來ナイノデアリマス、今日政府ニ向テ此我國ノ幹線ニ高速度ノ鐵道ヲ敷設スルコトヲ要求スルト云フ

モ、特ニ條件ヲ附ケテ民間ニ許可ヲ致シマスレバ、此高速度ノ電氣鐵道ノ如キハ、確ニ架設シ得ラレルモノト私共ハ信ジテ居リバズ、今日デハ我が國ノ鐵道モ既ニ八千三百哩

治三郎君

第十九 三戸千曳間鐵道速成ニ關スル建

議案（野村治一郎君外七名提出）

三戸千曳間鐵道速成ニ關スル建議

經テ千曳ニ至ル鐵道

法案別表中ニモ編入セラレ居リ其ノ敷設ハ產業發

以來、今日ニ於キマニテハ、一日モ缺クベカラザル重要ナル交通機關ト相成ニテ居ルノデアリマス、英佛兩國間ハ今日定期航空路ガ四線ゴザイマスルガ、其他各國トモ殆ド空中ノ

第十

議案（野村治三郎君外七名提出）

三戸千曳間鐵道速成ニ關スル建議

經テ千曳ニ至ル鐵道

法案別表中ニモ編入セラレ居リ其ノ敷設ハ產業發

以來、今日二於キマニテハ、一日モ缺クベカラザル重要ナル交通機關ト相成ニテ居ルノデアリマス、英佛兩國間ハ今日定期航空路ガ四線ゴザイマスルガ、其他各國トモ殆ド空中ノ

○阿部武智雄君 私が代アシテ二
○議長(奥繁三郎君) 阿部君が代アシテ説明サレマス
〔阿部武智雄君登壇、拍手起る〕

○阿部武智雄君 本鐵道ハ東北本線ノ青森縣三戸驛カラ千曳驛ニ至ル三十六哩ノ鐵道アリマスガ、一度諸君が東北本線ヲ通テ青森縣ニ御通りナルト、廣漠タル原野ヲ御通りナリマスガ、此鐵道ハサウデハナイノアリマス、マス、地方ニ對シテハ大ナル關係ノ線アリマスカラ、ドウゾ御賛成アルヤウニ願ヒマス、委細ハ議長ノ許可ヲ得テ、此説明ハ速記ニ載セテ載クヤウニ致シマス、ドウゾ宜シク御願ヒ致シマス

〔参照〕

三戸千曳間鐵道速成ニ關スル建議案説明

一、東北本線三戸ヨリ五戸町及三本町七戸町ヲ經テ千曳驛ニ至ル三十六哩輕便鐵道線ハ現在ノ線路ヨリ五哩九分近ク古來ヨリ國道ニシテ沿道又ハ直接關係町村ハ三戸町人口七千附近、部落向村及猴邊村、其人口二萬以上五戸町人口八千五百附近、戸來村、及淺田、川内、倉石、野澤、豊崎ノ各村ニシテ其人口貳萬五千以上ニ達ス三本木町人口約八千五百其附近ハ法奧澤、六戸、藤坂、四和ノ各村ニシテ其人口貳萬六千七百以上七戸町ハ九千以上ノ人口ニシテ其附近ハ天間林舎ノ館、大深内ノ各村貳萬六千以上ノ人口ヲ有シ野邊地町又最モ近ク甲地村其沿通トナリ人口壹萬六千以上ナレハ五町拾六箇村拾萬ノ人口ヲ有スル大區域ノ關係アリ

二、此沿道各村ハ物資豊富ニシテ盛岡以北青森以南ニ於ケル第一ノ米產地ニシテ他ニ輸出スル穀類年額數十萬俵ニ達シ隨テ肥料ノ購入又數十萬吸ハ何レモ人馬ノ背ニ依リ輸送ヲラ一大不便ニ遭遇シツアルト共ニ道路運送ニ年數萬圓ヲ授シアリ、土地廣ク人少キ新ニ壹萬町歩以上水田開墾ノ原野アリ鐵道三、此ノ地方ハ所謂我國ノ驥北ノ野ニシテ乃チ、池月、開通ニ伴ヒ是等ノ事業隨テ興ルヘキハ期シテ待ツ可キナリ

摺墨、ノ駿馬ヲ出シタリト傳フ畜產事業極メテ殷盛ニシテ馬政局統計表ニ依ル大正八年度ニ才幼馬七戸

組合ハ千二百六十五頭、此代金參拾五万六千餘圓、三本木ハ千三百九十六頭、四拾貳万五千餘圓、

五戸ハ七百五拾六頭、八万八千餘圓三戸ハ五百三拾七頭、拾四万三千餘圓、野邊地ハ三百八十九頭八千五百餘圓、此ノ五組合幼馬、四千三百四拾三頭

此代金百拾九万九千四百八拾五圓、此他三才以上ノ壯馬四五千頭、牛、貳千五百餘頭、故ニ毎年產出

販賣牛馬一萬數千餘頭約參百万圓ニ下拉斯春秋二箇月間ニ涉リ牛馬市場ヲ開始シ南ハ、九州、四國、中國北國、關東西ヨリ、北ハ北海道ニ至ル全國ノ賈客謂集シ鐵道敷設ナキ故ニ往來ノ難儀牛馬運送等ノ深甚ナル不便ヲ感ツ、アリ

四、政府事業トシテハ現ニ三本木七戸ニ於ケル各軍馬補充部支部アリテ(大正七年度)貳拾八萬六千餘圓ノ經費ヲ支出シアリ又七戸町ニ奥羽種馬牧場及種馬所アリテ年額拾七萬五千餘圓ノ經費ヲ支出スアリ

馬及幼馬壯馬ノ出入秋草馬糧ノ運送其不便ト不經済ナルハ一度當地へ入リタル人々ハ鐵道敷設ヲ感ツ、アリ

今上陛下明治四十二年東宮殿下ハ奥羽牧場へ御見學トシテ御二泊遊ハセラレ

各宮殿下寺内秋山兩大將始メトシテ朝野ノ名士多ク牧場へ御出張アリ、昨年馬政調査トシテ委員一行七戸へ視察セラレ其他元田鐵道大臣大岡前衆議院議長等親シク此地方ノ不便ヲ感セラレ何レモ深キ御同情ヲ以テ鐵道急設ヲ御援助セラレ地方關係民ノ努力ヲ獎勵セラレシ程ナリ

五、政府事業ノ軍馬補充部支部及牧場其他七戸町六上北郡役所七戸警察署縣立種馬所、縣立蠶種製造所、銀行、三本木ニハ縣立畜產學校、警察分所、五戸町ニハ警察分署、三戸同上諸官公署ハ多ク此鐵道沿線ニアリ從テ是等ノ不便ニ層大ナルヲ覺ユ

六、沿道地方ニハ山岳重疊深山幽谷多ク國有林野ノ面積極メテ廣大ニシテ無盡藏ノ樹木蓄蒼スルモノアリ殊三十和田ノ大深林ノ如キ千古斧鉄ヲ加ヘサル良材巨木數万町歩ニ亘ルモノアリ薪炭用材ノ今日國家經濟上鐵道ノ敷設ハ富源開發ノ基礎ナリ

○岩崎勤君 本案ハ伊藤廣幾君外四名提出北海道、本州、連絡完成ニ關スル建議案外二件ノ委員ニ併セア付託

セラレントヲ望ミマス

〔「贊成」ト呼フ者アリ〕

○議長(奥繁三郎君) 岩崎君ノ動議ニ御異議ナイト認メマス、仍テ動議ノ如ク決シマシタ——日程第二十五條新

君

金銀銅鐵及石灰等ノ礦物ニ富ム鐵道敷設ニ依リ土中ニ埋没シアル寶物ノ發掘ハ數設ノ費用ヲ償フテ餘アルハ現在試掘シアルモ搬出ノ不便ニテ收支立タサル數十箇所ノ鑛區アルハ明ナル事實ナリ又十和田電力計畫ハ縣會調查ノ結果五万キロワットノ發電力ヲ有スル一大會社ノ畫策中ニアリ近キ將來ニ事實トナリテ設立セラル、ヨ見ルニ至ラントス

八、十和田湖ハ海拔貳千尺ノ山頂ニアリテ周圍十六里

風光明媚ニシテ世界的ノ觀賞地タリ本多博士ハ世界ノ景勝地ナリト激賞セラレ博士ノ名命セル新赤壁ノ如キ寶神祕ナリ追良瀬川ノ溪流ハ奇巖怪石間ニ配置セラレ雄大ニシテ千古ノ神木枝ヲ交ヘ日光爲メニ暗ク一種ノ壯嚴ヲ爲セリ此ノ鐵道ニシテ開通セハ最モ便宜ノ地ニ近ク今ヤ天然の大公園設定ノ議論アル場合此ノ鐵道ハ十和田觀光ノ一大福音トナル

如斯帝國ノ一大富源東北振興ノ策源地タル地方ニシテ未タ鐵道ノ敷設ナキヲ以テ其物資ヲ運搬スルニハ人肩馬背ニ依ラサルヘカラサルカ故ニ其勞力ト時間トヲ要スルコト多大ナル結果萬事不經濟ニ陥リ起ス可キ事業モ起ス能ハス顧フニ東北ノ不振ハ識者ノ憂フル所ニシテ今ヤ東北振興ノ聲朝野ニ満チ其實行ニ汲々タルモノアリ而モ之ヲ實行セムント欲セハ本鐵道則チ三戸千曳間ノ鐵道ヲ速成スルヨリ急且切ナルモノナシ苟モ之ヲ速成セムカ政府事業タル軍馬補充部支部及奥羽種馬牧場ノ如キ多大ノ利益タルハ勿論民業ニ於テモ電氣事業及鑛山業ノ如キ農工業ノ如キ駿々乎トシテ振興進歩ノ域ニ達スヘシ是獨リ地方ノ富源開發ニ於テ得策ナルノミナラス戰後ノ經濟戰ニ於ケル帝國ノ一大國富ヲ増進スルニ必要欠クヘカラサルモノト云ハサルヲ得ス是本案ヲ提出スル所以ナリ

第二十 五條新宮間鐵道速成ニ關スル建

議案(玉置良直君外五名提出)

五條新宮間鐵道速成ニ關スル建議案

本鐵道ハ奈良縣下五條ヨリ十津川ヲ經テ和歌山縣下

新宮ニ至リ紀勢線ニ連絡セシメムトスル線路ニシテ沿線各

地ハ農產林產鑄物等天與ノ物資豊富ニシテ殊ニ吉野、

熊野ノ山林ニ至リテハ既ニ定評アリ熊野浦ノ海產物ト

併セテ國家ノ一大寶庫ナリ而シテ附近ニハ幾多光輝ア

ル歴史ヲ有スル史蹟在リ且奇勝絶景天下ニ誇ルヘキモノ多シ然ルニ未タ運輸交通ノ利便ナク爲ニ富源ハ開發セラレシテ地方文化ノ進歩害セラル斯ノ如キハ國家

經濟上將夕文化普及上決シテ開拓スヘキニ非サルナリ

依テ政府ハ速ニ本鐵道ノ敷設ニ著手シ其ノ速成ヲ期セムコトヲ望ム

右建議ス

〔玉置良直君登壇〕

○玉置良直君 提案ノ趣旨ヲ簡單ニ申シマス、本案ハ奈良縣五條ヲ起點トシテ、十津川村ヲ經テ和歌山縣新宮ニ達スル鐵道デアリマス、此沿道ハ所謂吉野熊野ノ森林地帶デ、古來合理的施行方法ノ下ニ植林ノ經營ヲナシテ居リマスケレドモ、區域廣大ノ爲メニ未ダ大部分ハ原生林ナ

良縣五條ヲ起點トシテ、十津川村ヲ經テ和歌山縣新宮ニ達スル鐵道デアリマス、此沿道ハ所謂吉野熊野ノ森林地帶デ、古來合理的施行方法ノ下ニ植林ノ經營ヲナシテ居

リマスケレドモ、區域廣大ノ爲メニ未ダ大部分ハ原生林ナ

○岩崎動君 本案ハ山口義一君外一名提出、大阪和歌山間鐵道敷設ニ關スル建議案外五件ノ委員ニ併セテ付託セラレンコトヲ望ミマス

〔異議ナシ〕〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○議長(奥繁三郎君) 岩崎君ノ動議ニ御異議ナイト認メマス、仍テ動議ノ如ク決シマシタ、日程第二十一土器川外四川改修ニ關スル建議案ヲ議題ニ致シマス、大林森次郎君

斯大正元年ノ如キハ三十名ニ垂ントスル人命多數ノ家畜ヲ損シ家屋ノ流失倒壊大破浸水數千戸ニ及ヒ田畠ノ荒蕪作物ノ流腐資財ノ汚滅等其損害實ニ驚クヘキ巨額ニシテ酸鼻ヲ極メタリ沿岸住民ハ日夜安キ心ナク認セルモ地方費ノ負擔ニ顧ニ僅ニ堤塘ノ嵩置工事決済箇所ノ復舊工事不徹底ナル砂防工事ヲ施スニ過キス而シテ水害史ヲ見ルニ水害ノ度ハ回一回劇甚ヲ加工ス其ノ改修工事ヲ遂行シ以テ被害地方人民ノ救護ニ努メラレムコトヲ望ム

右建議ス

〔大林森次郎君登壇、拍手起ル〕

○大林森次郎君登壇、拍手起ル

○大林森次郎君 只今上程サレマシタ所ノ土器川外四川四工申シマスノハ、香東川、財田川、綾川、鴨部川デアリマシテ、最早定期ニ迫テ居リマスカラ、議長ノ御許ヲ得マテ十津川村ハ歷史上今更申上ゲルマデモナク、古來朝廷ニ奉仕シテ忠勤ヲ擢シテ爲メニ、光輝アル幾多ノ歴史ヲ有シテ居ルコトハ、茲ニ喋々申上ゲルマデモアリマセヌ、隨テ史蹟ニ富ミ、尙ホ此外ニ此沿道ニ於キマシテハ、天下ノ勝地タル所ノ那智瀧ガアルノアリマス、滯八丁ガアルノアリマス、其他名所舊蹟、是亦枚舉ニ違ナインデアリマス、斯ノ如ク幾多ノ史蹟、幾多豊富ナル所ノ富源アルニモ拘ラズ、未ダ交通ノ便ノナイ爲メニ、此富源ハ開發サレズ、此史蹟名勝ノ土地普ク天下ニ紹介サレナイ、洵ニ國家トシテ遺憾トスル第ゴザイマス、故ニ政府ニ於テハ、適當ナル案ヲ立て、國家經濟上且ソ文化普及促成ノ上ヨリシテ、本案鐵道ノ一日モ速カニ達成セラレントラバ、茲ニ建議スル次第ゴザイマス、ドウカ御贊成ヲ願ヒマス(拍手起ル)

○岩崎動君 本鐵道ハ山口義一君外一名提出、大阪和歌山間鐵道敷設ニ關スル建議案外五件ノ委員ニ併セテ付託セラレンコトヲ望ミマス

〔異議ナシ〕〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○議長(奥繁三郎君) 岩崎君ノ動議ニ御異議ナイト認メマス、仍テ動議ノ如ク決シマシタ、本日ハ是デ散會

午後五時五十四分散會

衆議院議事速記録第二十八號正誤

六九二 中 三 加ノ野溝傳一郎君ノ下ニ「熊谷直太君」ヲ

土器川ハ香川縣綾歌郡仲多度郡丸龜市ヲ貫流シ流域ノ地勢ハ勾配強ク從テ其流レハ最急ニシテ然モ其水源地方ノ地質山林ノ情勢上土砂崩潰シ易ク降兩每三砂礫流下堆積シ河床ハ沿岸地ヨリ高キコト十數尺恰モ

(衆議院議事速記録第三十一號衆議院議員仙波太郎君
提出西伯利派遣軍並薩哈連洲占領軍ニ關スル質問ニ對
スル答辯書別冊)

浦湖及薩哈連洲派遣軍ノ情況

第一 民舍若クハ兵舍ニ於ケル駐屯ノ情況

一、兵營ノ情況

イ、浦湖派遣軍

大正八年四月我派遣軍改編ノ當初ハ列國軍ノ駐屯ト避難民ノ集合等トニヨリ一般家屋ノ不足ヲ訴

ヘツツアリシモ大正九年四月露軍ノ武裝解除實施以來露國官憲ノ建築物ハ我軍ノ任意使用ヲ許ス

ニ至リシヲ以テ部隊ノ收容ハ大ニ寛裕ナラシムルヲ得目下殆ント皆完全ナル露國煉瓦造兵營ヲ使用シ唯高等司令部及之ニ伴フ職員宿舎ノ一部ノミ

位置ノ關係其ノ他ノ爲メ民有家屋ヲ借入レ使用シツツアリ而シテ建物内部ノ設備ハ實用ヲ主トシ

且過去冬營ノ經驗ニ依リ其ノ改善ヲ計リタルヲ以テ冬營上何等ノ支障ナシ

ロ、薩哈連洲派遣軍

兵營其ノ他ノ建築ハ昨年八月上旬其ノ工ヲ起シ

同年十月中旬之ヲ完成セリ其ノ新築建物ハ約八千七百餘坪ニシテ露國官有建物ヲ修繕應用セルモノ約一万一千六百餘坪ナリ兵室ノ幅員ハ一人當リ約一坪二合ニシテ其ノ割合ハ内地兵營ト異ナルコトナシ而シテ今回新築セシ建物ハ全部木造ニシテ各部ヲ防寒構造トナシ以テ冬營上遺憾ナキヲ期セリ即チ一部ハ校倉式丸太組、大部ハ基礎ヲ丸太組トシ建物脚部周圍ニ盛土ヲ爲シ壁ハ厚板ニ重張内部ニ建築紙ヲ張リ乾土ヲ填充シ床及天井モ亦二重厚板張其ノ間ニ乾土ヲ填充シ以テ防寒効力ヲ完全ナラシメタリ又露國在來ノ建物ハ總て根及内部ノ補修ニ止メタリ

二、駐屯ノ情況

以上述ヘタルカ如ク兩派遣軍ノ兵營ハ比較的完全ナルモニシテ其ノ駐屯ノ情況ハ別紙要圖ノ如シ

第二 防寒ノ設備、防寒具ノ支給

一、防寒ノ設備

派遣軍ノ營舍ニハ全部採暖用トシテ露式燒爐若クハ置燒爐等ヲ備付ク其ノ燃料ハ石炭及薪ヲ用ヒ不足ナク給與露式燒爐一箇ニ付一日石炭十三貫若クハ薪二十五貫、置燒爐一箇ニ付石炭十貫若クハ薪二十貫内外シツツアルヲ以テ極寒時ト雖何等支障ナキノ情況ニアリ而シテ其ノ燃料ハ西伯利及亞港附近ニ在リテハ現地ニテ購買シ需用ヲ充足シ得ヘク又之カ調辨困難ナル北樺太東海岸所在部隊ニ對シテハ此ノ水前冬季間所要量ノ追送ヲ了シアルヲ以テ何等懸

念スヘキコトナシ

二、防寒具ノ支給

通常冬季用被服一揃(第八參照)及寢具用毛布四枚宛(薩哈連洲派遣軍ニハ木綿蒲團一枚宛ヲ加フ)

ヲ給スルノ外防寒被服トシテハ從來ノ實驗ニ基キ制

定シタル毛皮製ノ帽、胴著及羊毛製ノ襦袢、袴下、手

套、靴下等將校下士卒總て同様ノモノヲ各人ニ支給

シアリ其ノ防寒被服ノ品目員數左ノ如シ

防寒帽(兔形毛皮裏附)

一箇 同 橋(表地綿布、毛皮裏附)

一箇 同 半 檻(袴ノ上ニ繫用ス)

一箇 同 靴(止メノ爲メ底部「エルト」張)

一組 同 大手套(手套ノ上ニ繫用ス)

一組 同 腕着(表地綿布、毛皮裏附)

一箇 同 襟(表地絨、毛皮裏附)

一箇 同 手套(手套ノ上ニ繫用ス)

一箇 同 鞍(表地防水綿布毛皮裏附)

一箇 同 鞍(表地防水綿布毛皮裏附)

一箇 同 鞍(表地綿布毛皮裏附)

二、練兵

守備勤務ノ性質上部隊ヲ各所ニ分駐スル已ムヲ得サルモノアルカ爲メ又其勤務ハ内在屯在ノ部隊ニ比シ若シ繁多ナルカ爲メ充分ナル練兵ヲ實施スルコトハ不可能ナル狀態ニアリ然レトモ教育ハ軍ノ任務遂行上須臾モ忽ニスルヲ得サルカ故競意之カ實施ニ努メ教練、射撃、陣中勤務等ハ勿論特ニ比較的大部隊ノ集團駐屯セル地方ニ於テハ稍、大規模ノ行軍並野外演習等ヲ實行シツツアリ

三、娛樂

浦鹽ニハ慰問俱樂部アリテ屢々各種ノ興業ヲ實施シ下士卒ヲ無料入場セシメ又日本基督青年會ノ娛樂シ得シムル等ノ設備アリ其ノ他ノ地方ニ註屯スル部隊ニ在リテハ時ニ渡航シ來ル演藝者ヲシテ若干各隊ヲ巡回演奏セシムルコトアルモ概不勤務演習ノ餘暇ニ於テ蓄音機、琵琶等ヲ行フコトアルニ過キス

尙將卒ノ犒勞慰安ノ爲メ清酒、煙草、甘味品等ノ給品ヲ給與シ(第八給與参照)又各隊ニ酒保ヲ設ケテ廉價ニ各人ノ需要嗜好ニ應セシメ併セテ其慰安ニ資シツツアリ

又大正七年八月二十一日陸軍省告示ヲ以テ恤兵事務開始ニ關シ公示シ爾來陸軍大臣官房ニ於テ其事務ヲ取扱ヒツツアルカ出征者ニ對スル國民ノ同情厚ク金品寄贈ノ情況左ノ如シ

又大正七年八月二十一日陸軍省告示ヲ以テ恤兵事務開始ニ關シ公示シ爾來陸軍大臣官房ニ於テ其事務ヲ取扱ヒツツアルカ出征者ニ對スル國民ノ同情厚ク金品寄贈ノ情況左ノ如シ

右ノ内薩哈連洲派遣軍カ黒龍、貝加爾地方迄モ作戰セシ當時ニ於テハ兵力ニ比シ行動ノ範圍甚大ニシテ而モ情況暗澹隨所戰鬪行動ヲ必要トセシ爲メ我將卒ノ努力ハ實ニ絶大ニシテ克ク筆舌ヲ以テ盡其能ハサル

嘗テ浦湖派遣軍カ黑龍、貝加爾地方迄モ作戰セシ當時ニ於テハ兵力ニ比シ行動ノ範圍甚大ニシテ而モ情況暗澹隨所戰鬪行動ヲ必要トセシ爲メ我將卒ノ努力ハ實ニ絶大ニシテ克ク筆舌ヲ以テ盡其能ハサル

所ナリシカ皇軍ノ威力ニ依リ極東露領ノ情況遂次安定期セリ即チ一部ハ貝加爾地方ノ撤兵ヲ行ヒ引續キ

ハ府方面ノ駐兵ヲ撤シテ浦湖附近沿海州南部ノ小池域ニ其ノ守備線ヲ縮小シタルカ故其ノ勤務ハ漸次定シ之ト共ニ昨後貝加爾地方ノ撤兵ヲ行ヒ引續キ

第四 軍紀、風紀

兩派遣軍ノ軍紀、風紀ハ確實ニ保持セラレ軍隊内ノ思想ニ動搖ヲ生スルカ如キ傾向ハ之ヲ認メス而シテ駐屯長キニ至ルモノ等ノ内ニハ間々軍人ノ本分ニ背キ不法行爲ヲ敢テシ或ハ凱旋後不平ノ口吻ヲ漏ス等若干ノ不心得者アルカ爲メ世上西伯利駐屯軍隊ノ思想惡化ヲ云爲スルモノアルカ如キモ是レ多クハ故ラニ事實ヲ誇張シテ爲ニセントシ若クハ特ニ過激主義者等カ帝國軍隊ヲ攪亂シ其ノ主義ヲ宣傳セントスル奸策ニ過キシテ事實軍隊ハ健全ニ服務シ何等憂慮スヘキ情況ニアラサルノミナラス一面ニ於テハ却テ忌ムヘキ過激主義ノ慘劇ヲ目撃シテ深ク其ノ覆轍ヲ戒メツツアルモノアリ然レトモ近代思潮ノ傾向ニ就テハ深甚ノ注意ヲ拂フヲ要スルヲ以テ各部隊長ハ嚴ニ部下ノ非違ヲ戒飭スルト共ニ其ノ誘掖指導ヲ適切ニシ益、於テ遺憾ナキヲ期シツツアリ

第五 交通

一、西伯利方面

西伯利出兵ノ當初日、英、米、佛、支等ノ聯合各國ニ於テ協定セシ西伯利鐵道管理ニ關スル取極ハ目下尙依然存續セラレ我委員ハ東支南線尼市以北ニ烏蘇里鐵道及黑龍鐵道ヲ管理シ米國委員ハ「オムスク」鐵道、後貝加爾鐵道、東支本線及烏蘇里鐵道ノ一部ヲ管理スヘキコトナリアルモ米國ハ昨年六月哈市及浦潮ニ少數ノ委員ヲ殘置シ其ノ他ヲ總て歸還セシメ我國亦哈府ノ撤兵ト共ニ同地ニ在リシ管理委員ヲ引上ケシメシカ故ニ目下事實上聯合國管理ノ行ハレツツアルハ東支鐵道及烏蘇里鐵道ノ一部ニ過キサル狀態ナリ

又別ニ陸軍ハ其ノ駐屯地域内ニ於ケル鐵道交通又通信業務處理ノ爲ノ目下野戰交通部、臨時鐵道隊及臨時通信隊ヲ派遣シ且エフダガネフカ「浦潮間」、「ボクニーチナヤ」浦潮間、蘇城支線及哈市以東並以南ノ東支鐵道ニ於ケル重要ナル停車場ニハ我停車場司令部及所要ノ機關ヲ配置ス

尙昨年四月上旬沿海州ニ於ケル露軍ノ武装解除事件ト共ニ烏蘇里鐵道沿線ノ過激派軍ハ殆ドト全線ニ亘リ鐵道電線ノ破壊ヲ行ヒ且總テ勞働者及鐵道從業員罷業シ交通機關全ク停止スルニ至リシヲ以テ我派遣軍ハ自ラ之ヲ修理ヲ爲シ多大ノ苦心ト勞來リシヲ以テ第十四師團ノ哈府撤退ト共ニ之ヲ還付セリ尙現在ニ於ケル鐵道交通ノ狀態ヲ述フレハ左ノ如シ

イ、東支線

東支本線ノ昨年十二月中ニ於ケル一般交通列車運行數ノ平均一日概シテ五列車ニ達シアルモ最近舊ノ「セメノフ」軍及「カッペリ」軍ニ屬セシ避難者輸送ノ不規則ナル運行ト互寒ト影響ヲ受ケテ列車運行ノ遲延減少多ク又一般經濟上ノ不況ニ關聯シ鐵道ノ經濟狀態ハ益々不良トナレリ

ロ、浦潮附近及烏蘇里線

我軍行動地域内一般ノ運行狀態ハ概シテ良好ニシテ一般交通列車ノ一日平均運行回數ハ浦潮尼市及浦潮「ボクラニーナヤ」間約五列車、尼市「エフグネフカ」間約二列車、蘇城支線約三列車ナリ然レトモ其ノ經濟狀態ハ甚々不良ニシテ燃料ノ支拂ニモ窮シ動モスレハ之カ供給ヲ謝絶セラレントスル情況ニアリ

ハ、日本軍守備地域外ノ交通情況

烏蘇里線中「イマン」以北ハ日々定期列車一往復ノ運行アルモ線路ノ衰損、輪轉材料ノ不足甚シク其ノ運行頗ル不規則ナリ黑龍線モ亦線路及材料ノ衰損著シク其ノ交通狀態依然良好ナラヌシテ普通列車ノ運行、一週概ニ二回ニ過キ後更加爾線ハ知多満洲里間ノ運行ヲ持續シアルノミ

又西伯利方面ノ我通信ハ臨時電信隊之ニ任シ主トシテ哈市ヨリ尼市ヲ經テ浦潮ニ至ル間及浦潮ヨリ朝鮮國境慶興附近ニ至ル間ノ有線電信電話ノ通信並哈市、尼市、「ルスキ」島其ノ他ニ於ケル無線電信所ノ通信ヲ擔任ス而シテ其ノ内地ニ至ル軍用通信經路ハルスキ島、金澤兩無線電信所ニ依ルモノトハ市、浦潮ヨリ夫々京城ニ至ル有線電信トノ二線アルヲ以テ通信ノ甚シク澁滯スルコトナシ

二、薩哈哩州方面

北樺太ニ配置シタル軍隊ノ後方連絡ヲ確保スル爲メ冬季海上交通斷絕ノ已ムナキヲ考慮シ陸路交通ノ方法ヲ講セリ即チ道路ハ亞港ヨリ概ニ樺太ノ中央ヲ縱貫シ國境ニ於テ樺太廳ニ委託修築セシ道路ニ連接スルモノト中途ヨリ分歧シテ石油坑ノ所在地タル

第六 運輸

一、一般ノ情況
浦潮派遣軍並薩哈哩州派遺軍兩方面各別ニ交通船ヲ運行シ浦潮方面ニ對シテハ目下筑前丸、新高丸、東鄉丸及色丹丸ノ四隻總計約一萬噸ヲ使用シ宇品浦潮間ニ新高丸及東鄉丸ノ二隻ヲ、敦賀浦潮間ニ筑前丸ヲ充當シ色丹丸ハ之ヲ豫備船トシテ臨時ノ公衆電報ノ取扱ヲ開始セリ

二、薩哈哩州方面

薩哈哩方面ニ對シテハ中華丸及三國丸ノ二隻總計約三千噸ヲ充當シ亞港方面結冰期間(十二月上旬乃至四月上旬)浦潮ヨリ碎氷船貝加爾號ヲ借上ケ碎氷ニ仕セシム尙ホ交通船ニ耐氷裝置ヲ施シ概ね一句回小樽ヲ基點トシ途中大泊ニ寄港シ亞港ニ運行セシメツツアリシカ般貝加爾號ノ故障以來暫ク大泊若クハ情況ニ依リテハ内路ニ運行セシムルコトセリ

二、港灣ノ情況

時局ニ關係シテ使用シアル港灣ハ浦潮方面ニ對シテハ宇品(途中門司寄港)敷賀ヲ起點トシ薩哈哩方面ニ對シテハ主トシテ小樽港ヲ起點トシ大泊、亞港、「デカストリー」、尼港及内路等ノ各港灣ヲ終點トス而シテ内地港灣ノ情況ハ特ニ説明ヲ要スルモノノ外之ヲ略シ外地港灣中二、三ニ關シ述ヘントス

イ、浦潮
浦潮港ハ毎年十二月中旬ヨリ四月ニ至ル間水結シ船舶ノ出入不可能ナルヲ以テ此ノ期間ニ構築スル計畫ナリシモ實施ノ結果ニ於テハ多少變更シタルモノアリ而シテ冬季北樺太ヘノ交通ハ南樺太大泊ヲ起點トシ鐵路榮濱ヲ經由シ若クハ内路ヨリハ概不内地ノ縣道程度、後者ハ概ニ輕車輶道ノ程度ニ亘リ鐵道電線ノ破壞ヲ行ヒ且總テ勞働者及鐵道從業員罷業シ交通機關全ク停止スルニ至リシヲ以テ我派遣軍ハ自ラ之ヲ修理ヲ爲シ多大ノ苦心ト勞來リシヲ以テ五月末浦潮ヨリ哈府ニ至ル間ヲ完成セリ而シテ「イマン」以南ハ全ク我軍ニ於テ復舊セシモノナルカ故ニ此ノ區間大部ノ鐵道運行ハ爾來引續キ軍ニ於テ實施セシカ露國當局ヨリ頻ニ其ノ還付ヲ請願シテ來リシヲ以テ第十四師團ノ哈府撤退ト共ニ之ヲ還付セリ尙現在ニ於ケル鐵道交通ノ狀態ヲ述フレハ左ノ如シ

ヲ間シテ此ノ種交通ニ必須ノ驛舍ヲ設ケ宿營給養ニ便ス又薩哈哩方面ノ通信ハ薩哈哩電信隊之ニ任シ亞港ヨリ國境ニ至ル間並ニ亞港ヨリ「チヤイオ」ニ至ル間ノ有線電信電話ノ通信ヲ擔任ス而シテ其ノ内地ニ至ル無線通信所ノ通信ヲ擔任ス而シテ其ノ内地ニ至ル軍用通信經路ハ亞港ヨリ豐原及真岡ヲ經由スル各有線電信ト亞港金澤間ノ無線電信トノ三線アルヲ以テ通信ノ甚シク澁滯スルコトナシ

尚昨年十二月ヨリ野戰郵便局ノ所在地タル亞港、「ルイヨフ」及「チヤイオ」等ニハ公衆郵便、爲替貯金及公衆電報ノ取扱ヲ開始セリ

モノ、商港務局専用ノモノ、一般商船用ノモノ及舊軍港所屬ノモノ等アリテ目下我陸軍ニ於て使用中ノモノハ東支鐵道所屬ノ一部ニ屬シ揚搭及海陸連絡共ニ至便ニシテ且碎氷作業最モ容易ナリ

口、亞港、亞港ハ殆ント一直線ノ海岸ニシテ而モ毎年十二月上旬乃至四月上旬ノ間結氷スルカ故ニ港灣タルノ價值ニ乏シ然レトモ他ニ良好ナルモノナキヲ以テ北極太ノ開發ハ本港ノ築港ニ俟タサルヘ

カラス

ハ、「デカストリ」、亞港ノ對岸ニ在リ良好ナル港湾ヲ成形ス結氷ノ關係ハ亞港ト略同ナリ、尼港ハ黒龍江口ニ位置シ水深淺ク而モ航路狹隘ナル間宮海峡ヲ控フルヲ以テ該地ヘノ航行ハ五月下旬乃至六月上旬ヨリ九月下旬ニ瓦ル期間ノミ之ヲ許ス

オ、大泊及内路 大泊ハ一月ノ交僅ニ四、五日間結氷スルノミ内路ハ十二月下旬乃至一月下旬ノ間結氷ス
ヘ、敦賀 敦賀ハ浦潮及内地トノ交通上至便ノ位置ニ在リ宇品ヲ基點トスルニ比シ航行日數一航海二日ヲ減シ出征部隊ノ交代等ニ際シテモ其ノ衛戍地ノ關係ニヨリテハ交通頻繁ナル山陽線及東海道線ノ鐵道輸送ヲ省略シ得ル等利益ヲ有スルヲ以テ夙ニ之カ利用ヲ企テタリト雖歸還部隊ハ上陸ノ際検疫ヲ爲スノ要アリ從來敦賀ニ此ノ設備ナカリシカ爲メ前述ノ利益ヲ收ムコト能ハサリシカ今回検疫所ノ設備完成セルヲ以テ今後ノ輸送上至大ノ便宜ヲ收メ得ルコトトナレリ

三、輸送ノ情況

大正九年一月ヨリ同十二月三至ル浦潮方面輸送ノ情況ハ第十三及第十一兩師團ノ派遣、第五及第十

四師團ノ歸還輸送ヲ主ナルモノトシ軍隊ノ外同地ニ輸送セシ軍需品ノ總計約六萬噸ニ達ス亞港方面ニ於テハ北部沿海州派遣隊並薩哈哩州派遣軍ノ輸送

ヲ主トシ尚ホ道路、建築及鐵道人夫等合計約七千人ノ派遣及歸還一部人員ノ輸送ヲ實施シ軍隊ノ外糧秣建築材料並鐵道材料等ノ數量約四萬五千噸

ニ達ス而シテ之カ爲メ使用シタル船舶ハ定期交通船ヲ合シ浦潮方面九隻月延使用總噸數一〇七、九五四噸、薩哈哩方面二十一隻月延使用總噸數九三、五五五噸ナリ

四、碎氷船ノ情況

冬期薩哈哩方面ノ海上交通ヲ成ルヘク長ク持続スルノ必要上露國海軍部所屬ノ碎氷船貝加爾號ヲ借上使用中ナリ本船ハ一千九百十七年上海ニ於テ建造シタルモノニシテ總噸數約一〇〇〇、實馬力約二、二〇〇、速力一二浬ヲ有シ速力約二浬ヲ以テ厚サ約二尺ノ氷ヲ碎破シ得ヘク氷ノ厚サ五寸以下ナラハ普通

速力ノ儘碎氷シツツ航行シ得ヘシト雖元來浦潮灣内ニ使用スルノ目的ヲ以テ建造シタルモノナルカ故ニ水ノ最大搭載量ハ約一週間ノ航海ニ堪フルニ過キス又船體ノ構造モ外海ノ航海ニ適セザルヲ以テ之ヲ亞港方面ニ使用スル爲メ特ニ我海軍將校ヲ監督官任テ乘組マシメ船長以下同官、指導ノ下ニ困難ナル任務ニ服シツツアリ而シテ本年一月中旬ノ遭難ハ前述ノ如ク炭水ノ携行量多カラサリシニ途中舵機ニ故障ヲ生シ且亞港ニ於テ水上ヨリ炭水補給中突然氷ニ大龜裂ヲ生シタル爲メ冲合ニ漂流スルノ已ムナキニ至リタルモノナリ

第七衛生

西伯利及薩哈哩州派遺部隊ノ内地港灣出發以降ノ患者數別表ノ如シ

流行性感冒ハ内地諸部隊ニ發生セシト殆ント期ヲ同ウシ派遺部隊ニモ發生シ來リシヲ以テ各隊ハ極力其ノ防遏ニ勉メ有熱者ノ發見ニ努力シ輕微ノ有熱者セ

咽頭其ノ他ノ氣道ニ炎症ヲ有スル者ハ總テ之ヲ重キニ從ヒ流行性感冒患者トシテ取扱ヒ隔離療養ヲ加

ヘ以テ隊内流行ヲ防止セリ從テ左表ノ如ク感冒患者トシテ計上セラル者ハ内務省ノ地方患者統計ニ比シ其ノ數多キカ如キ觀アルモ其ノ死亡率ニ至リテハ著シク少數ナリ即チ内務省ノ統計ニ依ル本年度流行性感冒患者百人ニ對スル死亡者ノ割合ハ二一九

(一月第二旬末迄ノ累計 患者三、九三ナルニ派遺部隊ノ同割合ハ〇、五六%ニ過キス

一月第二旬末迄ノ累計 八、死亡六、九〇)ナルニ派遺部隊ノ同割合ハ〇、五六%ニ過キス

大正九年十月 初發以降累計 同死亡

浦潮派遣軍直屬 部隊 第十一師團 第十三師團 薩哈哩州派遣軍

計 二 七 六 三五六 一七二 一

一 一二 三三 三一〇 八九九 五

虎列刺ハ昨年夏季西伯利各地ニ散發シ危険状態ニ陷リシカ時機ヲ失セス豫防接種ヲ施行シ露國官憲ト協力シテ其ノ防遏ニ力メタル結果幸ニ大ナル慘害ヲ見スシテ終熄セリ

「ベスト」ハ目下北滿地方ニ於テ露人及支那人間ニ流行擴大シ一月二十一日調ニ依ルニ初發以來二百七十六名發生セリト云フ病症ハ最モ危険ナル肺「ベスト」ニシテ最近更ニ南滿地方ニ侵入セシ形跡アリ浦潮派遣軍ニ於テモ專門ノ軍醫ヲ派シ極力其ノ防遏ニ努メソツアリ幸ニ未タ其ノ侵入ヲ見ス

尙從來陸軍ノ檢疫所ハ似島ノ一所ニ限ラレ爲ニ衛戍地ノ關係ニ依リテハ歸還輸送ニ迂回ヲ要シ不利不

便鮮カラス乃大正九年五月末敦賀檢疫所設置ノ議決定シ六月以降設計ニ著手シ十月下旬起工十二月末竣工ヲ告タルヲ以テ爾後内部ノ諸設備ヲ整へ本年一月二十日該檢疫所ヲ開設スルニ至レリ而シテ一月二十四日既ニ西伯利歸還者並船員約三百名及還送被服類約千四百相ニ對シ檢疫消毒ヲ實施ジ爾後同地ニ上陸スハ揚陸スヘキ人馬物件ニ對シテハ悉ク檢疫及消毒ヲ實施スルモノナリ

第八給與

浦潮及薩哈哩州派遺軍ニ屬スル軍人軍屬ノ給與ハ派遣ノ當初ニ於テハ一般ノ戰時給與ニ依リタルモ派遣地方ニ於ケル特殊ノ氣候、交通及物資ノ情況等ニ鑑ミ現時ニ於テハ概々之ヲ左記ノ如クニ改メ沢寒僻陬ノ地ニ在リテ勤務上其ノ遺憾ナキヲ期シタリ

一、戰時增給

一般俸給料ノ外下級者ニ厚クスルノ趣旨ヲ以テ左ノ戰時增給ヲ爲ス

准士官以上及軍屬ニハ 下士以下 (營外居住者) 給料ノ四割

即チ下士以下ノ給額ハ左ノ如クニシテ衣食住及日用品ヲ總テ官給セラルカ故ニ日常ノ費用ヲ措辨セシムルニ足ル

下士以下戰時給料增給額

階級	區分	營外居住者	營內居住者
曹長	一等 二等	大正九年 六〇〇〇〇 五〇〇〇〇 四〇〇〇〇 三〇〇〇〇 二〇〇〇〇 一〇〇〇〇	大正九年 六〇〇〇〇 五〇〇〇〇 四〇〇〇〇 三〇〇〇〇 二〇〇〇〇 一〇〇〇〇
軍曹	二等 三等 四等	大正九年 五〇〇〇〇 四〇〇〇〇 三〇〇〇〇 二〇〇〇〇 一〇〇〇〇	大正九年 五〇〇〇〇 四〇〇〇〇 三〇〇〇〇 二〇〇〇〇 一〇〇〇〇
伍長	一等 二等	大正九年 四〇〇〇〇 三〇〇〇〇 二〇〇〇〇 一〇〇〇〇	大正九年 四〇〇〇〇 三〇〇〇〇 二〇〇〇〇 一〇〇〇〇
下士勤務上等兵	一等 二等	大正九年 三〇〇〇〇 二〇〇〇〇 一〇〇〇〇	大正九年 三〇〇〇〇 二〇〇〇〇 一〇〇〇〇
上等兵	一等 二等	大正九年 二〇〇〇〇 一〇〇〇〇	大正九年 二〇〇〇〇 一〇〇〇〇

二、糧食

派遺軍ノ糧食給與ハ將校下士卒總テ同様ニシテ其分量ハ戰時定量ヲ基準トシ約三千六百乃至三千八百カロリーノ營養量ヲ給シ保健上ノ必要ヲ充足スルノミナラス紅茶砂糖等ノ防寒飲料ヲ給シ以テ酷寒地給養ニ適應セシメ又慰安ヲ顧慮シテ菓子類酒煙草等ヲ加給シ全般ニ夏リ概シテ良好ノ給養狀態ヲ保持シアリ其給與ノ品種分量ノ詳細左表ノ如シ

病 傷 染 痘												病	
傳 染 痘												病	
流行性腦脊髓膜炎												痘	
(四〇)												(一九〇)	
實	扶	程	發	疹	瘡	瘡	瘡	瘡	瘡	瘡	瘡	痘	痘
程	紅	熱	發	疹	瘡	瘡	瘡	瘡	瘡	瘡	瘡	痘	痘
扶	利	亞	チ	フ	ス	瘡	瘡	瘡	瘡	瘡	瘡	痘	痘
程	紅	熱	發	疹	瘡	瘡	瘡	瘡	瘡	瘡	瘡	痘	痘
雪	夜	盲	盲	傷	傷	病	病	病	病	病	病	回	回
六	六	四九	四八	七〇九	七〇九	二六四	二六四	二二	二二	二二	二二	一〇二	一〇二
一	一	二七四	二七九	五九	五九	三四	三四	一四	一四	一三	一三	七三九	七三九
二	二	三四	一四七	三	一七〇	一七〇	三	一四	一九	一九	一九	九八	九八
一六	一六	一六	一三	三	一五	一五	一	一	一	一	一	二二九	二二九
一六	一六	三四	一四七	三	一五	一五	一	一	七	七	一	一九九	一九九
七	七	二六五	二三七	五〇	二四九	二四五	六七	五	一一一	一一一	一	三〇五三	三〇五三
二	二	五八	一三七	一七	一六三	一六三	三三	二	五八	五八	一	二〇三七	二〇三七
六〇	四六	三八	一二四	一四〇	二六八	二六八	八	一	二	二	一	一〇四〇	一〇四〇
六八	一〇五	一六三	一六一	一九五	一九五	一三	一三	一	一	一	一	一〇七〇三	一〇七〇三
六八	一〇五	一六	二三	一七〇四	一七〇四	二三	二三	一	一	一	一	五八	五八
六八	一〇五	一六	二三	一七〇四	一七〇四	二三	二三	一	一	一	一	二	二

薩哈連州派遣軍患者數

一、本表中括弧ヲ附シアルハ菌保有者ヲ示ス
一、本調ハ大正九年十二月迄トス(第十一師團ハ十一月迄トス)

考 備

患者總數 五三〇五

內傳染病全身病 三二三

胸膜炎 三一

花柳病 六一

戰死 二

戰傷 三

大正九年自十一月一日至十一月七日獻立表

區分		朝	食	名稱	品目	人分量	朝	食	名稱	品目	人分量
三 日		二 日		一 日		汁 味		汁 粉		汁 味	
汁 味		胡味人豆馬酒		味豆玉		味豆玉		味豆白		胡味人豆馬酒	
巴味白		鈴		味豆白		味豆白		巴味白		胡味人豆馬酒	
夕增菜		椒增參腐薯柏		增腐菜		增腐菜		夕增菜		椒增參腐薯柏	
二五 二〇匁		一五〇 二〇匁		一五〇 二〇匁		一五〇 二〇匁		一五〇 二〇匁		一五〇 二〇匁	
汁 貝 寄 北		魚 烧		汁 詰 罐 豚		魚 烧		汁 詰 罐 豚		魚 烧	
醬 砂 生 荷 切 胡 千 大 貝 魚 物		漬 子 菓		カ 醬 砂 荷 大 豚		漬 子 菓		カ 醬 砂 荷 大 豚		漬 子 菓	
油 糖 姜 莖 根 椒 詰		物 引		粉 油 糖 莖 根 肉		物 引		粉 油 糖 莖 根 肉		物 引	
一一〇 五一〇 一匁		一〇 一匁		一一〇 二〇匁		一一〇 二〇匁		一一〇 二〇匁		一一〇 二〇匁	
魚 煮		汁 肉 牛		魚 煮		魚 煮		魚 煮		魚 煮	
醬 砂 生 馬 人 生 鈴		砂 醬 午 大 馬 牛 鈴		醬 砂 粉 馬 生 條 鈴		醬 砂 生 馬 人 生 鈴		醬 砂 粉 馬 生 條 鈴		醬 砂 生 馬 人 生 鈴	
油 糖 姜 莖 根 芥 魚		糖 油 莖 根 肉		油 糖 絲 莖 魚		糖 油 莖 根 肉		油 糖 絲 莖 魚		糖 油 莖 根 肉	
一一〇 四五〇 二匁		一一〇 二〇匁		一一〇 二〇匁		一一〇 二〇匁		一一〇 二〇匁		一一〇 二〇匁	

〔衆議院議事速記録第三十一號思想問題審議機關設置二關スル建議案星島二郎君演説ノ参照〕

先づ最初ニ御了解ヲ願ヒタキタイト思フ事ハ、私が設置ヲ顧ヒタイト思フ審議機關ヲ以テ現在動搖セル思想界ヲ統一シ取締ノ具ニ供シタイト云フ意味デハナインデアリマス何モ思想ヲ統一シヨウトカ、或ハ何カ決ツタ取締方針ヲ決メテ大イニ取締ラナケレバナラストカ、斯ウ云フコトニ考ヘラレマスト、甚ダ迷惑致スノデアリマス。實際、現在日本ノ思想界ハ非常ニ動搖致シテ居リマス、非常ニ混亂致シテ居リマス。併シナガラ私ハ此動搖混亂ハ方針ヲ決メテ大イニ取締ラナケレバナラストカ、斯ウ云フコトニ考ヘラレマスト、甚ダ迷惑致スノデアリマス。實際、現在日本ノ思想界ハ非常ニ動搖致シテ居ルモノ、實際活動シテ居ルモノハ始終動イテ居ル。私共ハ死シタル平和ト云フモノハ望ミタクナイ。何處マデモ動搖シ活動スル平和ノ中ニ生キタル生活ヲシテキテ居ル所ノモノ、動モスレバ多クノ人ハ眠ツタヤウナ、只スル其根本ノ精神ガ若シ意義アルモノデアリマス。動搖モ宜イ。混亂モ宜イ其動搖ト、混亂ノ後ニハ必ズ吾身ノ希望スル或ルモノガヤツテ來ル。即チ動搖スル混亂

スル其根本ノ精神ガ若シ吾ノ意義アル人間ノ生活ニ觸レタモノノデアルナラバ、吾ニハ決シテ之ヲ忌避シナイ、斯ウ思フノデアリマス。

最近我日本ノ思想界ハ非常ニ動搖致シマシタ。非常ナル混亂ヲ致シテ居リマス。種々ナル所謂危險思想ガ現レテ、或ル意味ニ於キマシテ政府當局者モ、一般ノ人民モ一種ノ不安ニ驅ラレテ居ルノデアリマスガ、併シナガラ私ハ此現在ノ日本ノ思想界ノ動搖、或ハ混亂ハ幸ニモ其根本精神ニ於キマシテ非常ニ意義アルモノデアリマス。故ニ悲觀シナイ。何故ナラバ、或ハ勞働問題ニシマシテモ或ハ普通選舉問題ニシマシテモ其他ノ問題ニシマシテモ、之ヲ一言ニ盡セバ要スルニオ互ガモツト人間ラシイ生活ヲシタイ、オ互ヲ人間トシテ扱へ、モソトオ互ハ人格者トシテ生活シタイ、最モ高尚ナル人間トシテ、本來アーベキ希望ノ下ニ生活シタイト藻搖イテ居ルノデアリマス。斯フ云フノデアリマスカラ、私ハ現在ノ思想界ノ混亂動搖ハ將來ニ於キマシテヨリ善キ人間生活ヲ持來スモノトシテ、勿論歡迎ハシナイケレドモ、餘り絶望ハシナインデアリマス。然ラバ是ハ自由ニ放任シテ置ケハソレデ宣モナデアラウカ、若シ之ヲ一步誤リマシテ無暗ニ之ヲ壓迫スルト云フヤウナ政府當局ガアルナラバ、此社會ハ段々滅亡ニ向ツテ來ルニ違ヒナイ。若シ之ヲ巧ク樹ヲ執リマシテ、サウシテヨク指導致シマスレバ、其國ハ非常ニ發展ヲナ

備		七 日	六 日	五 日	四 日
本週間	一日一人給與平均分量概數左ノ如シ	汁 味	汁 粉	汁 味	汁 澄
本表○匁 外漬物 一入	約四匁 砂糖 約四匁 四十五匁乃至二十五匁トス	味豆玉 增腐菜	味豆白 夕增菜相	味豆玉 增腐菜	味豆玉 增腐菜
	一五〇 二〇匁	一一〇 二〇匁	一一〇 二〇匁	一一〇 二〇匁	一一〇 二〇匁
	煮 鮭 鹽	煮 和 大	汁 子 亂	汁 肉 魚	汁 肉 魚
	カ砂 大粉鹽 條 粉糖根絲鮭	醬砂生馬大牛 鈴	醬砂生白鶏 鈴	醬砂馬燒鶏 鈴	醬砂馬燒鶏 鈴
	野菜 約二二〇匁	油糖姜薯根肉	油糖飼菜卵肉	油糖飼菜卵肉	油糖飼菜卵肉
	一一〇 二五匁	一一〇 二五匁	一一〇 二五匁	一一〇 二五匁	一一〇 二五匁
	汁 增 味 肉 豚 鈴	魚 煮	汁 厚 薩	汁 肉 牛	汁 肉 牛
	胡砂味馬芋豚 鈴	醬砂生大馬生 鈴	胡味砂牛白豚 鈴	砂醬人大牛 鈴	砂醬人大牛 鈴
	椒糖增腐薯殼肉	油糖姜薯根肉	椒糖增腐薯殼肉	油糖參根肉	油糖參根肉
	一一〇 二五匁	一一〇 二五匁	一一〇 二五匁	一一〇 二五匁	一一〇 二五匁

スノデアリマス。日本ハ此岐路ニ立ツテ居ルノデアリマシテ、是ガ吾ニドウシテモ黙視スルコトノ出來ナイ所デアリマス。今日日本ニ於ケル古イ頭ノ人達ハ非常ニ心配致シマシテ、何ゾト云ハベ、壓迫ズル、直グニ差止メルト云フニ堪ヘナインノアリマスガ、只無暗ニ壓迫致シテハ將來決シテヨリ善キ生活ヲ持來スコトハ出來ナインノデアリマス。ソニテモ、之ヲ一言ニ盡セバ要スルニオ互ガモツト人間ラシイ生活ヲシタイ、オ互ヲ人間トシテ扱へ、モソトオ互ハ人格者トシテ生活シタイ、最モ高尚ナル人間トシテ、本來アーベキ希望ノ下ニ生活シタイト藻搖イテ居ルノデアリマスカラ、私ハ現在ノ思想界ノ混亂動搖ハ將來ニ於キマシテヨリ善キ人間生活ヲ持來スモノトシテ、勿論歡迎ハシナイケレドモ、餘り絶望ハシナインデアリマス。然ラバ是ハ自由ニ放任シテ置ケハソレデ宣モナデアラウカ、若シ之ヲ一步誤リマシテ無暗ニ之ヲ壓迫スルト云フヤウナ政府當局ガアルナラバ、此社會ハ段々滅亡ニ向ツテ來ルニ違ヒナイ。若シ之ヲ巧ク樹ヲ執リマシテ、サウシテヨク指導致シマスレバ、其國ハ非常ニ發展ヲナ

ヌ

於ケル非常ナ参考ニモナルト考ヘルノアリマス。一體歐米先進國ガ執ツタ方針デドウイフ方法ガ成功シテドウイフ遣リ方ガ失敗シテ居ルグラウカト云フコトヲ考ヘタノデアリマス。是ハ一々批評シマスレバ甚ダ長キ時間ヲ要シマスカラ、今日ハ極メテ雜駁ニ極クヒントダケヲ批評シテ見タイト思フノデアリマス。

先ソ今度ノ戰亂ノ戰敗國ニアリマス所ノ獨逸、或ハ今日大動搖致シテ居ル所ノ露西亞、此二ノ國ハ或意味ニ於テ亡ンダノデアリマス。此亡ンダル獨逸竝ニ露西亞ガ、戰前非常ニ極端ナル言論文章ノ取締ヲヤツテ居ソタ。而シテ或意味ニ於キマシテ非常ニ寛大テアリ自由デアツタ所ノ英國若クハ米國之ニ次グ露獨ト英米ノ間ナル佛蘭西是等ノモノガ案外國ガ亡ビズシテ寧口將來ノ大ヲナサントシテ居ル。斯ウイフ狀態ヲ見マシテ私ハ非常ニ興味深ク思シタノデアリマス。御承知ノ如ク獨逸ハ勿論獨逸ノ國情ヨリ察シマスレバ無理カラヌ點モ多クアツタノデアリマスカ、ナボレオンノ戦争ノ波動ヲ受ケマシテ獨逸ハ中歐ニ於テ實ニ轉軸不遇ノ位置ニ居ソタ。斯ウイフ時代ニ於キマシテ彼ノビスマルクノ執リマシタ政策ハ何モ獨逸ガ世界的ニ霸ヲ唱ヘヤウト云フノデハナク、所謂多クノ獨逸聯邦ヲ統一シマシテ、中歐ニ霸ヲ唱ヘサウシテ自己ノ安全ヲ期セント欲シタ爲メニ、澤山ナ獨逸ノ小聯邦ヲ纏メル爲メニ非常ナル苦心ヲ致シタノデアリマス。丁度日本が明治維新ノ際ニ統一ヲ圖ランガ爲メニ各藩ニ對シテ有ラユル壓迫ヤ統一的ナ仕事ヲヤリマシタヤウニ、ビスマルクハ隨分思切ツタ政策ヲヤリマシタ、ソレガ成功致シマシテ戰前ノ所謂獨逸トナツタ。所ガ其跡ヲ受ケマシタル所ノカイゼルハ餘リニビスマルクノ成功ニ誇リマシテ、自己ノ有ツテ居リマシタ所ノ有ラユル智識ト武力ヲ用井、獨逸聯邦ノ統一ノミナクジテ、一層進ンデ歐羅巴全體、否全世界ニ霸ヲ唱ヘヤウトイフ大野心ヲ起スニ至シタノデアリマス。即チビスマルクガアノ獨逸聯邦ヲ形成センガ爲メニ消極的ニ納テノ統一政策ヲ行ヒ、夫ガ成功スルト今度ハカイゼルガ積極的ニ、一般ノ思想界ハ申スニ及バズ有ラユル方面ノ統一所謂獨逸主義、或ハ帝國主義、或ハ汎獨主義普魯西主義トイフモノヲ作ツタノデアリマス、是レガ爲メニ大學ニ於テハ御用學者、獨逸程御用學者ノ多イ國ハナイ。日本デモ隨分御用學者ナルモノガアリマシテ、自分ノ腹ニ無イコトヲ書イタリ言ツタリスル人モアリマスカ獨逸ハ中々御用學者ガ多カツタノデアリマス。サウシテカイゼルノ氣ニ入ルヤウニ、大獨逸帝國ヲ樹立セシガ爲メニ積極的所謂思想政策ト云フモノヲヤッタ。是ガ餘リニ度ガ過ギマシテ世界ノ總テノ國民ガ之ヲ

呪ヒ、其獨逸主義ノ反抗ト云フセノガ今回ノ大戰撓起シタノデアリマス。ビスマルクハ中歐ニ獨逸ノ國ヲ確立セシカ爲メニ奮闘努力シタ。其結果ヲ漸ク得タ時ニカイゼルガ起ツテ其カイゼルノ野心ノ爲メニ、積極的統一大動搖致シテ居ル所ノ露西亞、此二ノ國ハ或意味ニ於テ亡ンダノデアリマス。此亡ンダル獨逸竝ニ露西亞ガ、戰前非常ニ興味深ク思ズルト同時ニ、又シテ或意味ニ於キマシテ非常ニ寛大テアリ自由デアツタ所ノ英國若クハ米國之ニ次グ露獨ト英米ノ間ナル佛蘭西是等ノモノガ案外國ガ亡ビズシテ寧口將來ノ大ヲナサントシテ居ル。斯ウイフ狀態ヲ見マシテ私ハ非常ニ興味深ク思シタノデアリマス。御承知ノ如ク獨逸ハ勿論獨逸ノ國情ヨリ察シマスレバ無理カラヌ點モ多クアツタノデアリマスカ、ナボレオンノ戦争ノ波動ヲ受ケマシテ獨逸ハ中歐ニ於テ實ニ轉軸不遇ノ位置ニ居ソタ。斯ウイフ時代ニ於キマシテ彼ノビスマルクノ執リマシタ政策ハ何モ獨逸ガ世界的ニ霸ヲ唱ヘヤウト云フノデハナク、所謂多クノ獨逸聯邦ヲ統一シマシテ、中歐ニ霸ヲ唱ヘサウシテ自己ノ安全ヲ期セント欲シタ爲メニ、澤山ナ獨逸ノ小聯邦ヲ纏メル爲メニ非常ナル苦心ヲ致シタノデアリマス。丁度日本が明治維新ノ際ニ統一ヲ圖ランガ爲メニ各藩ニ對シテ有ラユル壓迫ヤ統一的ナ仕事ヲヤリマシタヤウニ、ビスマルクハ隨分思切ツタ政策ヲヤリマシタ、ソレガ成功致シマシテ戰前ノ所謂獨逸トナツタ。所ガ其跡ヲ受ケマシタル所ノカイゼルハ餘リニビスマルクノ成功ニ誇リマシテ、自己ノ有ツテ居リマシタ所ノ有ラユル智識ト武力ヲ用井、獨逸聯邦ノ統一ノミナクジテ、一層進ンデ歐羅巴全體、否全世界ニ霸ヲ唱ヘヤウトイフ大野心ヲ起スニ至シタノデアリマス。即チビスマルクガアノ獨逸聯邦ヲ形成センガ爲メニ消極的ニ納テノ統一政策ヲ行ヒ、夫ガ成功スルト今度ハカイゼルガ積極的ニ、一般ノ思想界ハ申スニ及バズ有ラユル方面ノ統一所謂獨逸主義、或ハ帝國主義、或ハ汎獨主義普魯西主義トイフモノヲ作ツタノデアリマス、是レガ爲メニ大學ニ於テハ御用學者、獨逸程御用學者ノ多イ國ハナイ。日本デモ隨分御用學者ナルモノガアリマシテ、自分ノ腹ニ無イコトヲ書イタリ言ツタリスル人モアリマスカ獨逸ハ中々御用學者ガ多カツタノデアリマス。サウシテカイゼルノ氣ニ入ルヤウニ、大獨逸帝國ヲ樹立セシガ爲メニ積極的所謂思想政策ト云フモノヲヤッタ。是ガ餘リニ度ガ過ギマシテ世界ノ總テノ國民ガ之ヲ

呪ヒ、其獨逸主義ノ反抗ト云フセノガ今回ノ大戰撓起シタノデアリマス。私ハ日本ガ露西亞ノ思想家ノ影響ヲ受ケタコトハ、非常ニ大アルト思ヒマスカ、ソレハ或意士イハ思フノデアリマス。或ハベルンバー、クライセル等ノ思想ハ隨分日本ニモ入ツテ參リマシタガ、是等ハ戰前ニ於ケル所謂御用學者ノ本領ヲ發揮シタモノデアリマス。私ハ獨逸ノ例ヲ色々ナ意味ニ考ヘマシテ之ヲ日本ノ現在ニ比ベマスト、非常ニ興味深ク感ズルト同時ニ、又非常ニ恐ロシサヲ感ズルノデアリマス。何故ナレバ多クノ點ニ於キマシテ戰前ノ獨逸ト、現在ノ日本ノヤリ振ガ能ク似テ居リハセスカト心配スルノデアリマス。若シ斯ウイントシテ居ル。斯ウイフ狀態ヲ見マシテ私ハ非常ニ興味深ク思シタノデアリマス。御承知ノ如ク獨逸ハ勿論獨逸ノ國情ヨリ察シマスレバ無理カラヌ點モ多クアツタノデアリマスカ、ナボレオンノ戦争ノ波動ヲ受ケマシテ獨逸ハ中歐ニ於テ實ニ轉軸不遇ノ位置ニ居ソタ。斯ウイフ時代ニ於キマシテ彼ノビスマルクノ執リマシタ政策ハ何モ獨逸ガ世界的ニ霸ヲ唱ヘヤウト云フノデハナク、所謂多クノ獨逸聯邦ヲ統一シマシテ、中歐ニ霸ヲ唱ヘサウシテ自己ノ安全ヲ期セント欲シタ爲メニ、澤山ナ獨逸ノ小聯邦ヲ纏メル爲メニ非常ナル苦心ヲ致シタノデアリマス。丁度日本が明治維新ノ際ニ統一ヲ圖ランガ爲メニ各藩ニ對シテ有ラユル壓迫ヤ統一的ナ仕事ヲヤリマシタヤウニ、ビスマルクハ隨分思切ツタ政策ヲヤリマシタ、ソレガ成功致シマシテ戰前ノ所謂獨逸トナツタ。所ガ其跡ヲ受ケマシタル所ノカイゼルハ餘リニビスマルクノ成功ニ誇リマシテ、自己ノ有ツテ居リマシタ所ノ有ラユル智識ト武力ヲ用井、獨逸聯邦ノ統一ノミナクジテ、一層進ンデ歐羅巴全體、否全世界ニ霸ヲ唱ヘヤウトイフ大野心ヲ起スニ至シタノデアリマス。即チビスマルクガアノ獨逸聯邦ヲ形成センガ爲メニ消極的ニ納テノ統一政策ヲ行ヒ、夫ガ成功スルト今度ハカイゼルガ積極的ニ、一般ノ思想界ハ申スニ及バズ有ラユル方面ノ統一所謂獨逸主義、或ハ帝國主義、或ハ汎獨主義普魯西主義トイフモノヲ作ツタノデアリマス、是レガ爲メニ大學ニ於テハ御用學者、獨逸程御用學者ノ多イ國ハナイ。日本デモ隨分御用學者ナルモノガアリマシテ、自分ノ腹ニ無イコトヲ書イタリ言ツタリスル人モアリマスカ獨逸ハ中々御用學者ガ多カツタノデアリマス。サウシテカイゼルノ氣ニ入ルヤウニ、大獨逸帝國ヲ樹立セシガ爲メニ積極的所謂思想政策ト云フモノヲヤッタ。是ガ餘リニ度ガ過ギマシテ世界ノ總テノ國民ガ之ヲ

呪ヒ、其獨逸主義ノ反抗ト云フセノガ今回ノ大戰撓起シタノデアリマス。私ハ日本ガ露西亞ノ思想家ノ影響ヲ受ケタコトハ、非常ニ大アルト思ヒマスカ、ソレハ或意士イハ思フノデアリマス。或ハベルンバー、クライセル等ノ思想ハ露西亞ノ感化ヲ受ケタ。小説ガ露西亞ニ盛ナル思想政策ヲ行シテ居ツカト云フコトガ立證出來ルヤウニ思フ。論文トシテ書ケバ直グヤラレテシマフカラ、其辭勃タル自分ノ精神ヲ小説ニ現ハシテ皆ニ讀マセタ、彼ノ有名ナルトルストエフスキ一、ツルゲーネフ等ノ大小説家ノ露西亞ニ輩出シタノハ故アリト云ハネバナラス。若シ日本ガ餘リニ總テニ窮窟デアリマスレバ、矢張リフ風ニ行キマスレバ、日本ハ維新前ニ各藩ニ分レテ居ツタ勢力ヲ經メテ、所謂新日本ガ出來タ、サウシテ夫ガ勢ヒ餘ツテ東洋ニ霸ヲ唱ヘルヤウニナツタ、之ニ驕りガ長ジテ今度積極的ニ日本イズムト云フモノワ世界ニ霸ヲ唱ヘシメント致シタナラバ、サウニ云フ思想ヲ若シ當局ナリ國民全體ガ持ツバカリデナク、御用學者ガ祖述スルト致シマスレバ、所謂第二ノ獨逸ニナリハセスカトイフ心配ヲ持ツテ居ル、サウシテ日本ハ世界全體カラ呪ハレ、孤立ノ狀態ニナツテ來ルトイフ結果ニナリハセスカト、ツクト獨逸戰前ノ狀態ト日本ノ現在ヲ比ベマシテ心配致シテ居ルノデアリマス。

第二番目ニ私ハ露西亞ノ事ヲ考ヘテ見タイト思フノデアリマス。露西亞ハ或意味ニ於キマシテ獨逸ヲ學ビマシテ、先ヅカザリンヲ初メニコラス時代、殊ニコラス時代ニ於キマシテハ殆ド極端ニナリマシテ、非常ナル檢閱政策ヲ行シタ。文章ノ檢閱、新聞ノ檢閱、書籍ノ檢閱、其他凡ユル物ノ檢閱ト云フモノガ實ニ完全ニ行ハレマシテ、其嚴格ナル事驚ク程デアツタノデアリマス。夫デアリマスカラ勿論戰前ノ露西亞ト云フモノハ、彼ノロマノフ王朝が數多ノ官僚富者ノ間ニ在リマシテ其權力を擅ニテ獨逸ヲ逐ハレ露西亞ヲ逐ハレタ者ハ皆英國ニ脱レタ、左程ニ英國ハ自由思想ニ於キマシテハ思切ツテ寛大アルノデアリマス。勿論何レノ國ト雖モ、絕對的ニ自由トハ云ハナイ。英國ニ於キマシテモノ所謂國教トイフモノヲ作ラシテ英國ハドウダルカ、英國ハ諸君御承知ノヤウニ實ニ自由ナル國デアル。歐羅巴ノ所謂新進思想家ニシテ獨逸ヲ逐ハレ露西亞ヲ逐ハレタ者ハ皆英國ニ脱レタ、左程ニ英國ハ自由思想ニ於キマシテハ思切ツテ寛大アルノデアリマス。勿論何レノ國ト雖モ、絕對的ニ自由トハ云ハナイ。英國ニ於キマシテモノ所謂國教トイフモノヲ作ラシテ英國人ハ御承知ノ如ク非常ニ形式ヲ重ンブル國民デアリマスカラ、ソノ實例モアリマスケレドモ大體ニ於キマシテ英國ハ有ラユル點ニ於キマシテ自由デアツタ。サウシテ英國人ハ御承知ノ如ク非常ニ形式ヲ重ンブル國民デアリマスカラ、ソノ自由ナル思想ノ行爲トイフモノハ嚴格ニ分ケマシテ、今日マテ所謂實利本位ニヤツテ來タ隨分極端ナ議論ニ對シテモ、理論トシ研究トシテハ絶對自由デアル。歐洲大戰中ハ一時或程度ノ思想政策ヲヤリマシタケレドモ、併シ學者ノ理論研究ト云フモノニ就キマシテハ指一

本染メナイノデアリ。彼ノアダムスミスノ議論ハ今日ニ於テハ或ハ陳腐カモ知レナイ。ケレドモアノ時代ニ於キマシテハ——當時英國ハ立憲政治ヲ布イテ居リマシタケレドモ實際ハ貴族富豪ノ支配ニ在ツタ——スミスノ議論ハ今日ノ危險思想ト同程度ノモノデアル。或ハコブデン、ブライト、サウイフ人達ノ思想ニ依ツテ段々動カサレテ、グラツドストンニシマシテモ皆考ヘ來レバ中々思切ツタ自由ノ政治ヲヤツテ來タノデアリマス。

英國ハ勿論サウデアリマスルガ、モウ一ツ近ク米國ハ何ウデアルカ、是ハ健國ノ精神トシテ自由ハ即チ彼等ノ精神デアル。斯ウ云フ意味ニ於キマシテ米國ハ或意味ニ於テ思想研究ハ勿論凡ユル事ニ於キマシテモ絕對自由デアル。或時ニ於テハ大統領自ラ無政府主義者ノ大統領ヲ出シタ時代モアツタ。斯ウ云フ自由ナル亞米利加ハ其後ニ於キマシテモ益々自由ナル精神ノ發揮ニ依シテ亞米利加ハ今日ノ大ヲ成シタノデアリマス。尤モ戰爭中ニ於キマシテ或種ノ人々ヲ捕縛シタト云フコトヲ聞イテ居リマスガ、ソレモ少シク研究シマスレバ、所謂研究家ヤ、思想家ハ決シテ捕縛シテ居ナイグラウト思フ。實際ノ行動ヲ見セ付ケテソレガ現在社會ノ安寧ヲ防害スルト云フナラバ、ソレハ已ム得ズ捕縛シナケレバナラズ。ケレドモ如何ニ戰爭中デアリマシテモ、米國ノ大學ノ教授が研究室ニ於テ發表シタル議論ニ對シ、之ヲ拘束シタト云フコトハ絶對ニ私ハナカツタラウト思フノデアリマス。佛蘭西ハ何ウカト云ヒマスト、御水知ノ通リ佛蘭西ハ歷史上ヨリ觀テモナボレオン時代アリ、帝政時代アリ、遼ニ革命ガ勃發シテ今日ノ自由國トナツタノデアリマシテ、丁度佛蘭西ハ獨逸露西亞ト英米ノ間ニ位スルモノト思フノアリマス。或時ハ帝王主義ニナルカト思ヘバ、或時ハ非常ナル自由ヲ要求スルト云フヤウナ點カラ考ヘマスルト餘程スウ云フ極ク雜馭ナル觀察デアリマスケレドモ、此歐米ノ今日マデ執り來ツタ、所謂思想政策ナルモノヲ見マシテ、若シ現在ノ日本カ如何ナル點ヲ此歐米ノ國々ニ學バナケレバナラヌカ、日本ハ或ハ戰前ノ獨逸ガナシタルガ如キ政策ヲ施サナケレバナラヌカ、日本ノ軍閥ヤ、官僚ナドハマダレ、今日デモ戰前ノ獨逸ノ政策ヲ金科玉條ノ如ク心得テ居ル者ガ隨分アルヤウデアリマス。或ハ露西亞ノロマノワ王朝時代ノヤウナ心持ヲ有ツテ居ル者モアルヤウデアリマスガ、是ハ大ナル誤リデアツテ若シ左様ナル者ガ日本ノ國民ノ多數ヲ占ムルナラバ、日本ノ運命ハ非常ニ危イノデアリマス。然ラバ日本ハ實際現在何ウ云フ風ニ取扱シテ居ラレルカ、其實際ノ結果ヨリ見て、

暫ク日本ノ現在ヲ觀察シテ見ダイト思フノデアリマス。諸君、壓迫アレバ必ズ之ニ對シテ反抗ガアリ、アクシヨンガアレバ、其後ニアクシヨンガアルコトハ、是ハ物理學ノ原則デアリマス。現在日本ガ此非自由政策ノ爲メニ如何ニ多くノ犠牲者ヲ出シテ居ルカ、一體政府當局ハ如何ト思フンデアリマス。先づ近頃デ有名ナ彼ノ森戸君ノ事件ニツキマシテモ、一體森戸君ノ説カムトシタノハ何デアル。或時ニ於テハ大統領自ラ無政府主義者ノ大統領ヲ出シタ時代モアツタ。斯ウ云フコトヲ暫ラクノ間考ヘテ見タイ

居ルガ、實際ハサウデハナイ。木村君ドウモ日本ノ思想界ハ露西亞ノ過激派ト云フモノヲ非常ニ危險ナルモノヤウニ思フテビク——シテ居ルカ、一體過激派トハ何イン只本當ノ政治ハ權力ヲ中心ニセナイデ、ト云フモノデ、統率スヘキデアル、即チ德ノ政治ヲ以テ理想トシテ、君ハ決シテ、日本ノ政體ヲ破壊シヨウトノ意思ハ毛頭ナ

1

ナガテ、三ヶ月牢屋ノ中に入ラナケレバナラナカタノデアリマス。所ガ之ニ就テ政府ガ若シ森戸君ノ文書ヲ發賣禁止ヲシテ、而モ之ヲ法廷ニマデ争ツタカラ取締シタ、トスウ云フ事ガ非常ナ問題ニナリマシテ、有爲ナル才ヲ懷カレナガテ、居ラレルナラバ、是ハ大キナ間違ヒデアル。若シ本當ニ政府當局者ガ思想政策ヲ樹テナケレバナラズ、此儘ナラバ、何故ソットシテ置イテ之ヲ問題ニセズシテ葬ツテシ思ウテ居ラレルナラバ、是ハ大キナ間違ヒデアル。若シ本當ニ政府當局者ガ思想政策ヲ樹テナケレバナラズ、此儘ナラバ、何故ソットシテ置イテ之ヲ問題ニセズシテ葬ツテシ

2

3

4

5

6

7

8

9

10

11

12

13

14

15

16

17

18

19

20

21

22

23

24

25

26

27

28

29

30

31

32

33

34

35

36

37

38

39

40

41

42

43

44

45

46

47

48

49

50

51

52

53

54

55

56

57

58

59

60

61

62

63

64

65

66

67

68

69

70

71

72

73

74

75

76

77

78

79

80

81

82

83

84

85

86

87

88

89

90

91

92

93

94

95

96

97

98

99

100

101

102

103

104

105

106

107

108

109

110

111

112

113

114

115

116

117

118

119

120

121

122

123

124

125

126

127

128

129

130

131

132

133

134

135

136

137

138

139

140

141

142

143

144

145

146

147

148

149

150

151

152

153

154

155

156

157

158

159

160

161

162

163

164

165

166

167

168

169

170

171

172

173

174

175

176

177

178

179

180

181

182

183

184

185

186

187

188

189

190

191

192

193

194

195

196

197

198

199

200

201

202

203

204

205

206

207

208

209

210

211

212

213

214

215

216

217

218

219

220

221

222

223

224

225

226

227

228

229

230

231

232

233

234

235

236

237

238

239

240

241

242

243

244

245

246

247

248

249

250

251

252

253</p

驚異タ。日本ノ政府ノ中心人物ハ現在ニ於キマシテ原總理大臣デアル。總理原大臣ハ一體ドノ程度ニ現代思想ヲ了解シテ居ラレルカ、コレハ明カナ證據ヲ以テ批評シテ見タイ。此前ノ議會ノ豫算本會議ニ於キマシテ國民黨ノ鈴木梅四郎君ガ原總理大臣ニ質問ヲシタ。即チ危險思想トハ何デアルカ、政府ハ如何ナル程度ニ危險思想トイフモノヲ諒解シテ居ルカトイフノア、ソノ實例トシマシテ今日貴族院ヲ廢スベシトイコトハ危險思想ト思召サルルカドウカ、斯ワイフ質問ヲサレタ、所ガ原總理大臣ハ答ヘテ曰ク、サウイフ議論ハ自分ハ危險思想ナリト思ヒマスト、コレハ速記録ニモ出テ居リマスガ、一體貴族院ヲ廢止スペシ、或ハ進シニ樞密院ヲ廢スベシ、現在内閣ノ制度ヲ變更スベシ、斯ワイフコトガ危險思想デアツタナラバ、一體憲法論ハ出來ナイ、憲法ノ講義スラ出來ナイ譯ニアル。御承知ノ如ク憲法ハ議員ノ三分ノ二以上ノ賛成ヲ以テ、ソウシテ相當ノ手續ヲ踏ミマスレバ改正スルコトモ出來レバ、樞密院ノ制度ヲ廢スルコトモ出來ル。憲法ハ絕對ニ、變更スペカラズトイフ條文ハ憲法ニハ無イノデアリマス。憲法ハ何時カハ改正サレルヤウニ、チャント憲法ノ條文ノ中ニ憲法ハコレダケノ手續ヲ踏メバ改正出來ル上書イテアル。ソノ憲法ノ一條ダニ了解出來ナイ總理大臣ガ中央ニ居ルノアリマスカラ普通選舉ハ危險ナモノデアルトリト考ヘルノモ無理カラヌ事デアリマス、原總理大臣ハ普通選舉ハ尙早ダト云ツテコレダケ危険思想ナリトハ斷言シナイケレドモ、一般國民ニ普通選舉ハ危險ナモノデアルト宣傳ヲヤツタ事ハ事實デアル。斯ワイフ次第デアリマシテ其レ以下ノ内務省ニ色ニナ學者モアリマスケレドモ、免モ角只單ニ共產主義トカ過激思想トカイフ言葉ヲ云ヘバ直グニ危險ダ怪シカラヌ、トスウ簡單ニ考ヘテ居ラレルノアハイカト自分ハ思フノデアリマス。私ハコノ點ニ就テ若シ今晚森戸君ガオ出ニナラナカッタラ大イニ過激思想トハ何ウイフモノデアルカ、共產主義或ハ無政府主義トハ斯ウ云フモノデアルト云フコトヲ詳シク申シタインデアリマスガ、専門家ヲ前ニ置イテ彼は申スノ權のニ、現代ノ所謂官僚資本家階級ニ何處マデモ對ヒマス。

現シタラ宜カラウトイフ説ガアツテ、非常ナ議論トナリ、遂ニ採決ノ結果前者ノ説ガ多數トナツタ、ソレガ即チ多數デ、今日ノボルセヴィキニアリ、敗ケタ方ノ少數派ガメンセヴィキニアル、コノボルセヴィキヲ日本デ過激派ナド、譯シタカラ大變恐ロシイモノ、ヤウニ考ヘラレルヤウニナツタノデアル、詰リ譯ガ惡カツタ思フ。或ハ無政府主義ノ如キモ、單ニ政府ヲ無クスルトサウイフ風ニ解釋スルカラ怪シカラヌトイフ事ニナルカモ、知レマセヌケレドモ、コレハ少シク専門的ニ研究致シマスレバ、決シテ危険ナモノデハナ。理論ヲ其通り實行スレバ、當然極端ナモノデアルカモ。シテ大變面白イコトヲ云ハレタ。無政府主義ノ無トイフ字ハ無イト云フ意味デナイ、無トイフ字ノ下ニ上ノ字ヲ知レスケレドモ。隨分採ヌテ以テオ互ヒ學バナケレバナラヌ點ガ澤山アル。コノ間三宅雪嶺博士ガ森戸君ノ辯護ヲシテ大變面白イコトヲ云ハレタ。無政府主義ノ無トイフ字ハ無イト云フ意味デアルトサウ云フ風ニ解釋シテ宜カロウト、斯ウ云フ巧妙ナル辯護ヲサレタガ大イニ私ハ面白ク感ジタデアリマス。サウ云フ譯デ理想的無政府ノハ今ノ政府ヨリモヨリ良キ政府、今日ヨリモモツト良い政府、トスウ云フ意味デアルトサウ云フ風ニ解釋シテ産主義ニシテモ、單ニ共產ト云ヘバ、普通恐ロシイコトノヤウニ考ヘラレテ居ルが能ク考ヘテ見ルト、日本ノ家庭モ共產主義デアルト思フ。日本ノ家庭ハ親ノモノモ子供ノモノモニースベキモノデアルト云フカラ共產主義デアル。而シテ日本ハ家庭本意ノ國デアルトスレバ、日本ハ共產主義ノ國デアルト云ハナケレバナラヌ。

・ザウ云フコトデアリマシテ、無暗ニ字ヲ解釋シテ、之ヲ壓迫スルト云フコトハ怪シカラヌ詰デアル。要スルニ現在ノ日本ノ政府當局者ガ果シテ是ハ危險ナリト云フ、所謂危險思想ヲ以テ任ズルモノ、中ニサヘ、決シテ危險ナリモノハナイノデアリマス。是ハ大イニ現在ノ學者ガ共產主義トハ此ンナモノデアル、ボルシエヴィキヲ此ンナモノデアル、無政府主義トハ此ンナモノデアル、クロボトキンノ相互扶助トハ斯ウ云フモノデアルト云フコトヲ國民ニ知ラセ、國民ニ研究セシメ、サウシテ其粹ヲ取シテ、而シテ之ヲ日本ノ發展ニ資スル所ガナケレバナラスト思フノデアリマス。殊ニ日本ガ今日ノ文明トナルニ就テ與シテ力アル所ノ佛教ノ眞理ノ中ニハ隨分今日カラ申セバ危險思想ガアル。或ハ儒教ノ中ニモ隨分アル。殊ニ孟子ノ中ニハ之ヲ赤

標々ニ説明スレバ、直グニ發賣禁止ヲ食フダケノ材料ガ澤山アル。君々タラズンバ、臣々タラズト云フコトナドハ一例アル。或ハ基督教ニシテモ——基督教ト云フモノハ或

意味ニ於キマシテ、厄介視サレテ居ルヤウナ傾キガアリマスケレドモ、日本ノ現在ノ文明ハ基督教ニ大ナル恩恵ガアルト思フノアリマス——此基督教サヘモ充分消化致シマスレバ、隨分危險思想ガアル、即チ基督教ノ天國ノ中ニハ皇室モナケレバ、天皇モナイ、併シナカラ天國ヲ尊ブカラト云ツテ、日本ノ皇室ヲ尊バナイト云フコトハ考ヘラレナイ。益々皇室ノ繁榮ヲ希ウテ居ル所ノ精神ガアレバ、斷ジテ危險ガナイト思フノアリマス。日本ノ此國體ト云フモノハ基督教ヲ入レマシテモ、儒教ヲ入レマシテモ、佛教ヲ入レマシテモ、益々日本ノ國體ノ精華ヲ發揮シ、オ互ヒ民族ノ幸福ヲ増進スルコトガ出來、コレガ爲メニ決シテ國ヲ危ウスル事ハナイノアリマス。

斯ウイフ意味合ニ於キマシテ若シ日本ノ思想政策トイフモノヲ樹立セント致シマスルナラバ、獨逸露西亞ノ例ニ學バズシテ、英米ヲ範ト致シマシテ、サウシテモト新シイ進ンダル自由ナル思想政策トイフモノヲ樹立スルガ宜シ。唯、研究トイフモノト事實ノ行爲トイフモノヲ明確ニ分ケマシテ、若シ政府當局者ガ或思想政策ヲ行ハントスルナルハ、其行爲ノミニ及ブヘシ、或ハ森戸君ノ書イタモノヲ履キ違ヘテ極端ナ行爲ヲスルナラバ、ソレハ取締ラナケレバナラヌ、即チ思想ソノモノト具體的行爲トイフモノヲ明確ニ分ケテ、サウシテ政策ノ根本方針ヲ樹テクラ先般佐々安五郎君ガ床次内相ニ對スル決議案證明ノ折申述ベラレタ通り澤山ノ矛盾壓迫セル事實ガアルニアリマス、私ハ此様ナ際ニ於ル當局大臣ハ實ニ種々ノ事ガ起り御心配デアリ、ソシテ色々ノ計画ヲサレテ居ル御熱心御努力ニ對シテハ實ニ敬意ヲ拂フモノアリマス然シ少シウロタヘラレテカ、奈良丸ヲ御伴ヒニナツタリ、國粹會ヲ御勵マシニタリムヤミニ新聞雜誌ヲ禁止ナサレテ居ルコトハ、ドウ見テモ、ロシヤ流カ、獨逸流ノ政策ヲ學ペテ居ルモノトシカ思ハレヌノアリマスコレコン真ニ日本ニ取リマシテ危險千萬ナ事ト思フノアリマス私ハ床次内務メテ訓示サレタ一節ニ思想ハ決シテ私力ヲ以テ壓迫出來ルモノアリ思想ハ思想ヲ以テ對セシマナケレバナラヌト云ハレタ事ヲ問イテ、非常ニ歎ンダ次第テアッタノアリマス

然シ其欲ハ裏切ラレテ、其後社會主義同盟ノ發會式ノ時デモ、此度ノ宮中重大事件ノ折デアッテモ、ドウモ、アマリニ權力ヲ亂用サレタ様ニ思フ、ソシテ其反對ニ却テ

ソコデ私ハ考ヘタ、コレハ此様ナ重大時期ニ、内務當局トシテハ事勿レト色ミ心配サレ其結果ツイ取締リガ嚴ニナル、常規ヲ失スル事ハ多少無理カラヌ事トハ思フ又司法當局ニシテモ、單ニ法律ノ適用ニ腐心サレ居ル間ニ時代ハヅシニ變化シテ行ク、コレヲ充分ニ諒解スル事ハ中ニ困難ナ事アルトハ思フソシテ内務當局ト司法當局トハ見解ガマタ違テ來ル、又陸軍當局モ中ニ關係ガアル、其他各方面ニ色ミナ關係ガ湧イテ來ル、文部省ニシテモ先般モ水戸デ菊地問題が起ツタ、アレデモ、ナンデモナイ事ナノアリ、否現在ノ教育家ノ中ニ稀ニ見ル見識アル人デアル、職ヲ去ラシテハ惜シイ人デアル、ソコデ此アル人デアル、職ヲ去ラシテハ惜シイ人デアル、ソコデ此ヤ又民間ノ評論家ヲ以テ、一ツ思想問題審議機關ヲ作リ互ニ理解シ、互ニ研究シ、一ツ根本方針ヲ大體キメテハドウカ、コレハ必ズ互ニ集テ審議スレバ必ズ好イ結果ガ生ル、モノト思フノアリマス、尤モ當局者ニ加フルニ所謂古イ人バカリ集メタ日ニハ却ツテ惡ルクナリマスガ、思ハドウカ、コレハ必ズ互ニ集テ審議スレバ必ズ好イ結果ガニアルモノヲ生ミ出ス事デアラウト思フノアリマス、願クバ此建議ニ賛成セラレシテ、當局者モ此建議ヲ採用サレテ斯ノ如キ審議機關ヲ速カニ設ケラレム事ヲ願フノデアリマス

〔衆議院議事速記録第三十一號米穀貯藏方法調査研究ニ關スル建議案山口嘉藏君演説ノ参照〕

米穀貯藏方法ノ説明

貯藏米變質ノ原因ハ其主要成分ナル澱粉、蛋白質、脂肪が自然ノ溫度ト空氣中ノ水分及ビ細菌トノ影響ヲ受ケテ其實質中ニ包藏セル種々ナル酵素ガ各成分ノ自然分解ヲ起スニ由ル故ニ此原因ヲ刈除セザル由來倉庫ノ貯藏米ガ短年月間ニ著シク變質スルハ理ノ當然ナリトス本方法ノ主眼點ハ別圖ノ如ク真空壁ニ依リテ包圍サタル貯藏室中ニ眞空狀態ニ置ク操作ト其貯藏室中ニ逆出奔入セシメ瓦斯温潤塔(10)ヲ經テ貯藏室(1)中ニ炭酸瓦斯ヲ充満セシメ各弁ヲ閉テ一定時日經過ノ後更ニ前記順序ニテ貯藏室(1)中ニ新シキ炭酸瓦斯ヲ充满セシム此間周圍ノ壁間ト眞空室ハ常ニ眞空ヲ保タシム

貯藏米ヲ取出スニハ先ツ眞空ポンプヲ運轉シテ貯藏室(1)中ニ炭酸瓦斯ヲ排出回收シタル後弁(18.20.)ヲ開キテ眞空ヲ破り蓋(4.5.)ヲ開キ出入口(2又ハ3)ヨリ搬出ス最初ニ貯藏室及ヒ眞空壁ヨリ排泄セル空氣ハ回収瓦斯精製器(16)ヘノ導管中途ニ設ケタル放出枝管(35)ヲ作トヲ交互間歇的ニ連續操作スル方法ニシテ其操作時

間ノ長短ハ本倉庫建設地方ノ氣温、濕度等種々ナル條件ニ依リテ一定セズト雖モ一ヶ月間八千七百六十時間ヲ通シテ平均

真空狀態ニ置ク總計時間 二八八時間

炭酸瓦斯充滿狀態ニ置ク總計時間 八、四七二時間

ヲ標準トシテ適宜按排ス

圍繞セル真空壁ニ依リテ外氣ノ溫度、水分、細菌ノ侵入ヲ遮断シタル貯藏室中ハ時々ノ真空操作ニ依リテ貯米時代ハヅシニ變化シテ行ク、コレヲ充分ニ諒解スル事ハ中ニ困難ナ事アルトハ思フソシテ内務當局ト司法當局トハ見解ガマタ違テ來ル、又陸軍當局モ中ニ關係ガアル、其他各方面ニ色ミナ關係ガ湧イテ來ル、文部省ニシテモ先般モ水戸デ菊地問題が起ツタ、アレデモ、ナンデモナイ事ナノアリ、否現在ノ教育家ノ中ニ稀ニ見ル見識アル人デアル、職ヲ去ラシテハ惜シイ人デアル、ソコデ此アル人デアル、職ヲ去ラシテハ惜シイ人デアル、ソコデ此ヤ又民間ノ評論家ヲ以テ、一ツ思想問題審議機關ヲ作リ互ニ理解シ、互ニ研究シ、一ツ根本方針ヲ大體キメテハドウカ、コレハ必ズ互ニ集テ審議スレバ必ズ好イ結果ガ生ル、モノト思フノアリマス、尤モ當局者ニ加フルニ所謂古イ人バカリ集メタ日ニハ却ツテ惡ルクナリマスガ、思ハドウカ、コレハ必ズ互ニ集テ審議スレバ必ズ好イ結果ガニアルモノヲ生ミ出ス事デアラウト思フノアリマス、願クバ此建議ニ賛成セラレシテ、當局者モ此建議ヲ採用サレテ斯ノ如キ審議機關ヲ速カニ設ケラレム事ヲ願フノデアリマス

又炭酸瓦斯ハ最モ廉價ニ生產供給シ得ラルベキ瓦斯ナルノミナラズ一度使用セル不純ノ排泄瓦斯ヲ更ニ回収精製シテ幾回モ使用スルガ故ニ操作中ニ消失スル少量瓦斯ヲ補充スルノミナルヲ以テ經常費ハ頗ル少額ニテ足ル

圓面ノ説明 (一部分ヲ切斷シテ内部ヲ顯出ス)

貯藏室(1)ニ米(38)ヲ積込ミレバ出入口(2及3)ヲ蓋(4及5)ニテ緊密ニ密閉シ弁(17.18.19)ヲ閉チ弁(20.21.22.23.24.25.26.)ヲ開キ眞空ポンプ(15)ヲ運轉セシメテ内外壁間ノ眞空室(7)及貯藏室(1)ヲ眞空ナラシメタル後ニ弁(21.22.23.24.)ヲ閉チ眞空ポンプ(15)ノ運轉ヲ止メテ弁(25.26.)ヲ閉チ弁(17.20.)ヲ開テ壓縮瓦斯容器(9)ヨリ炭酸瓦斯ヲ逆出奔入セシメ瓦斯温潤塔(10)ヲ經テ貯藏室(1)中ニ炭酸瓦斯ヲ充満セシメ各弁ヲ閉テ一定時日經過ノ後更ニ前記順序ニテ貯藏室(1)中ニ新シキ炭酸瓦斯ヲ充满セシム此間周圍ノ壁間ト眞空室ハ常ニ眞空ヲ保タシム

開テ大氣中ニ放散セシム
眞空ポンプ及回収瓦斯精製器ハ各々一臺ニテ倉庫數棟分ヲ負擔セシム

要スルニ貯藏米變質ノ真原因ヲ探究闡明シテ完全ニ之レタ刈除シ得タル本方法ノ顯著ナル效果ハ漆付セル標本ニ明確ナリトス殊ニ本倉庫ノ建築及附屬設備並ニ之レガ操作運用ノ技術ニ至ツテハ極メテ熟達完全ノ域ニ到着セル事ヲ聲明ス、

◎舊來ノ普通方法ニ
テ貯藏セル玄米ノ年々分析表

但シ此玄米ハ越後產ニシテ收穫後

○原米ノ各成分數字ヨリ各年度各成分ノ數字ヲ
減シタル殘數カ其年度迄ノ減損成分ナリ

水分及 濑粉 蛋白質 脂肪 計 減損計

原米	一四、二二	七二、一四	九、二二	二、三〇	九七、九一
一ヶ年目	一五、一五	六七、〇〇	八、九〇	二、二一	九三、一六
二ヶ年目	一、七三	六二、一	八、〇〇	一八一	八三、四
三ヶ年目	八、〇六	五四、八四	大、一	一、六〇	七〇、六一
四ヶ年目	八、二〇	五三、六〇	五、五〇	一、六〇	六七、九〇
五ヶ年目	七、三〇	四八、一〇	五、〇〇	一、五〇	六一、九二
七ヶ年目	七、〇〇	三六、一八	四、七〇	一、四〇	四九、二五
十ヶ年目	六〇〇	一七、五二	二、〇一	一、三一	二五、七一〇六
十二ヶ年目	四、〇〇	二、〇六	一、〇二	一、三一	八、二九
十三ヶ年目	一四、二〇	七二、一〇	八、九六	二、三	九七、五〇

◎同一ノ玄米ヲ新式ニテ貯藏セル十二ヶ年貯藏米ノ分析表

水分及 濑粉 蛋白質 脂肪 計 減損計

原米
一四、二二
七二、一四
九、二二
二、三〇
九七、九一

一ヶ年目
一五、一五
六七、〇〇
八、九〇
二、二一
九三、一六

二ヶ年目
一、七三
六二、一
八、〇〇
一八一
八三、四

三ヶ年目
八、〇六
五四、八四
大、一
一、六〇
七〇、六一

四ヶ年目
八、二〇
五三、六〇
五、五〇
一、六〇
六七、九〇

五ヶ年目
七、三〇
四八、一〇
五、〇〇
一、五〇
六一、九二

七ヶ年目
七、〇〇
三六、一八
四、七〇
一、四〇
四九、二五

十ヶ年目
六〇〇
一七、五二
二、〇一
一、三一
二五、七一〇六

十二ヶ年目
四、〇〇
二、〇六
一、〇二
一、三一
八、二九

十三ヶ年目
一四、二〇
七二、一〇
八、九六
二、三
九七、五〇

ト企圖セラル、カ如シ蓋シ其措置 宜シキヲ得タルモノト
謂フ可シデアル

此意味ニ於テ此際實力アル自治ノ發達セル大都市ヲシテ
テ此貯蓄銀行事業ヲ營ムコトヲ得セシメ専ラ公益的見

地ニ立チ市民ノ利便ヲ計リ適切ナル取扱ヲ爲サシメ努
メテ貯蓄ヲ獎勵シ之レカ啓發指導ニ任セシメナハ其効
果ノ著シキモノアルハ疑ヲ容レサルモノト信ズルノデアリ
マス

貯蓄事業ノ振ハザル原因ハ種々アル可シトモ就中
民衆ニ對スル利便ノ充分ナラサルコト

貯蓄機關ノ基礎信用共ニ確實ナラサルコト
其重ナル原因ニアロート思ヒマス

由來私立貯蓄銀行ハ其信用動搖シ易ク預金者ニ慘害
ヲ蒙ラシメ多年養ヒ來タル貯蓄思想ヲ一朝ニシテ破壊
シ去ル例渺ナカラズ

風聲鶴唳一片無根ノ風説ヲ以テスルモ直ニ潮ノ如ク預
金取付ヲ惹起シ意外ノ慘禍ヲ齎ラセルコトハ多々アルノ
デ御座イマス

先年大阪市ニ於テ貯金銀行解散ノ際ニ於ケル取付近
クハ東京ニ於ケル貯蓄銀行其他各地ノ取付ノ如キ多ク
ハ之レ預金者ノ無智トル搔擾ニ因ルモノナリトハ言ヘ之

レカ影響ハ結局彼等ノ貯蓄思想ノ發達ニ少ナカラサル
障害ヲ與ヘタルハ言フ迄モナイ事デアル

斯ノ如キハ畢竟私立貯蓄銀行ノ信用ガ未ダ一般ノ信
賴ヲ繋グニ足ラザルモノデアル

預金者ハ内心常ニ疑惧警戒ノ念ヲ解カズ不安ナカラモ
免モ角一日ノ安キニヨリ預金セルモノデアル

尙ホ私立貯蓄銀行ハ其性質トシテ固ヨリ株主ノ利益ヲ
本意トシ預金者ノ利便ヲ次トセザル可カラザルガ故ニ其
營業タルヤ全ク打算的ニシテ貯蓄政策ノ本義ニ基キ其
見地ニ立チ市民ノ利便ヲ計リ之レカ啓發指導ニ任ズル
モノ少ナキヲ沟ニ遺憾トスルモノナリマス

又一方郵便貯金ハ國營ニシテ信用確實全國各所ニ取
扱所ヲ有シ民衆の貯蓄機關トシテ便利此上ナキガ如シ
ト雖トモ之レ只極メテ皮相ノ見ニシテ一步其内容ニ入
リテ之レヲ觀察スレバ是レ又諸種ノ缺點ヲ有シ少クトモ
都市ノ貯蓄機關トシテ適當ナラズ且ツ果效甚ダ薄キモ
アルヲ見ル蓋シ

郵便貯金ハ固ト郵便事務ノ副業ニシテ取扱者ハ主
都市政事トシテ貯蓄機關ノ不備ノ如キハ決シテ輕々ノ
問題ニアラズ

國營ノ郵便貯金アリト雖トモ都市ノ貯金機關トシテハ
未タ甚夕遺憾ノ點カ多々アルノデアル

都市ノ政策トシテ貯蓄機關ノ不備ノ如キハ決シテ輕々ノ
問題ニアラズ

國營ノ郵便貯金アリト雖トモ都市ノ貯金機關トシテハ
未タ甚夕遺憾ノ點カ多々アルノデアル

國營ノ現狀ヲ見ルニ私立貯蓄銀行ハ稍モスレバ信用動
搖シ易ク且ツ營利的ニシテ公益的ノモノハ少ナインデ
アル

此事業ニ關係ノ深キモノアルハ言ヲ俟サルモノノデアリ
マス

〔衆議院議事速記録第三十一號自治體ノ貯蓄銀行經營
ニ關スル建議案赤田瑳一君演說ノ參照〕

貯蓄事業が社會政策上必要ノ事業ニシテ自治團體が
此事業ニ關係ノ深キモノアルハ言ヲ俟サルモノノデアリ
マス

郵便貯金ハ國營ニシテ信用確實全國各所ニ取
扱所ヲ有シ民衆の貯蓄機關トシテ便利此上ナキガ如シ
ト雖トモ之レ只極メテ皮相ノ見ニシテ一步其内容ニ入
リテ之レヲ觀察スレバ是レ又諸種ノ缺點ヲ有シ少クトモ
都市ノ貯蓄機關トシテ適當ナラズ且ツ果效甚ダ薄キモ
アルヲ見ル蓋シ

郵便貯金ハ固ト郵便事務ニ忙殺セラレ貯金事務ニ専ラナル能
都會ニ於テハ然ラズ一意專心之レニ從事シテ尙且ツ
の弊ヲ脱シ公益的主題ニヨリ之レカ經營ヲ爲シム

國營銀行ノ取締ヲ嚴ニシ専ラ之カ堅實ヲ計ルト共ニ營利
的ノ弊ヲ脱シ公益的主題ニヨリ之レカ經營ヲ爲シム

足ラサルヲ覺エ可キナリ
又之レカ取扱所タル郵便局ハ頗ル多數アリト雖トモ
此ハ只多數アリト云フ而已ニシテ其配置ハ主トシテ
郵便區域ノ適否ニ依リテ定メラレ

預金區域預金階級ノ便否ヲ本意トシテ決定セルモノ
ニアラサルナリ

又郵便貯金ノ取扱時間ハ夏季ハ單ニ午前中而已ナリ
此ハ貯蓄機關ノ取扱時間トシテハ適當ナルモノト言フ
ヲ得ズ

如何ニ郵便貯金ガ郵便局本位ニシテ預金本位ニアラサ
ルカラ察スルニ足ラム

次ニ其取扱方ニ於テ其取扱振ニ於テハ決シテ預金階級
ヲ誘導啓發シテ之レニ満足ヲ與フルラズ殊ニ最モ貯
蓄ノ良習慣ヲ養成スルノ必要アル幼者婦人及ヒ下層階
級ニ向ツテ果シテ懇切叮嚀ニ彼等ヲ指導激励スルニ足
ルモノアリヤ疑ナキハサルモノデアル

如斯キハ貯蓄ニ對スル積極的良機關ナリト言フヘカラサ
ル而已ナラズ 都市ノ貯蓄機關トシテ寧ロ不適當ノモノ
ト言ハサルヲ得ナインデアル

現今各都市ニ於ケル郵便貯金ハ其取扱所タル郵便局
ノ數ハ相當多數ナルニ拘ハラズ其成績ノ甚タ振ハサルモ
ノテアルハ又如何ニ郵便貯金カ貯蓄機關トシテノ效果
ノ薄弱ナルカラ察スルニ足ル可シ

昨年三月末現在ニ於テ大阪市内ニ於ケル郵便局ノ數
ハ實ニ百七箇所ニシテ此預金則チ郵便貯金總額ハ僅カ
ニ二千八百十二萬九千圓ナルニ拘ハラズ銀行貯蓄預金
ニ於テハ本支店數僅カニ約五十箇所ニシテ貯蓄預金
總額五千一百萬圓ニ達セリ以テ一例トシテ考察スルニ
足ラム

尙ホ郵便貯金ハ又實ニ左ノ缺點ヲ有ス則チ郵便貯金ハ
地方ノ預金ヲ以テ國庫ニ集中シ多クハ之レヲ地方的ニ
放資セズシテ寧ロ國家的ニ放資セリ

方今各地諸般施設ヲ要スヘキ事業多シ之レガ資金亦
實ニ渺カラズ殊ニ都市計畫ノ如キ國家的大事業ヲ遂行
スル衝ニ該レル都市ノ一層其資金ヲ要スルコト切ナルモ
ナリ而シテ是等ハ大抵公債ヲ發行シテ地方ノ資金ヲ
蒐集セサル可カラズ地方財源ノ移出サル、ト否トハ其影
響渺シトセズ

昨年十月末現在ニ於ケル大藏省預金部資金ノ狀況ヲ
見ルニ郵便貯金其他合計拾壹億圓ニシテ之レカ運用ノ
状況ハ直接地方ノ爲メニ放資セル金額僅カニ地方債證券
四千八百萬圓アル而已ニシテ他ハ凡テ國庫債券外國
債券社債及鐵道會計等ヘ放資セリ

即チ地方ヨリ集メラレタル資金ハ多ク地方ノ爲メ運用セ
テレズシテ大抵國庫又ハ海外方面ニ運用セラレアルヲ見
ルナリ此ノ如キハ地方資金ノ關係ヨリ言フモ地方財源
ノ涵養ヨリ見ルモ共ニ採ラサル所ナリ

是レヲ要スルニ郵便貯金ハ貯蓄機關トシテハ決シテ萬
能最善ナルモノニアラズ

但シ其取扱所力能ク山間僻地ニ迄行渡リ分布シ得
ル特長ハ慎ニ他ノ及フ能ハサル所ナリト雖モ都會ニ於
ケル貯蓄機關トシテハ不備ト言ハサルヲ得ス寧ロ無キニ
勝ルト云フヘキ而已

私立貯蓄銀行未ダ一般ノ信用ヲ繁クニ足ラズ又郵便
貯金ノ不備斯ノ如シ貯蓄事業ノ振ハサル又故ナキニア
ラズヤ

思フニ貯蓄事業ハ單純ノモノニ非ス時ト所ニヨリ各種
各様ノ特色アル幾多ノ機關ガ相綜錯シテ互ニ奮勵努力
シテ始メテ其發達ヲ期スヘキデアル

貯蓄機關ノ現狀ヲ觀レハ未タ甚夕振ヘリト言フ可カラズ
速ニ各種適應ノ機關ヲ設置シテ共ニ與ニ斯業發達ノ爲
メ盡サシメムコトヲ切望ス

此意味ニ於テ市營貯蓄銀行設立ノ如キハ最モ機宜ヲ
得タルモノト言ハサル可カラズ

貯蓄銀行本來ノ性質ガ營利的機關ニアラズシテ公益的
機關タルコト前述ノ如シ都市ガ進ンテ此事業ニ當リ專
ラ社會教育の見地ニ立チ親シク市民ノ指導啓發ニ任ス

ルコトハ寧ロ當然ノコト、言ハサル可カラズ
而シテ市カ此事業ヲ管マントスルハ決テ市民預金ヲ獨
占セムカ爲メニハアラズ從來存スル貯蓄機關ノ不備ヲ補
ヒ專ラ市民ノ貯蓄思想ヲ涵養セムトスルニ外ナラサルモ
ノデアリマス

或ハ寄ニ憂フルモノアラム市立貯蓄銀行ノ出現スルアラ
ムハ已設貯蓄機關ガ打撃ヲ蒙ルコトナキヤト是杞憂ナラム
斯ノ如キ機關出現ノ刺激ハ却テ各自ノ機能ヲ激勵シ各
異ナル特色ニ向ツテ益々領土ヲ開拓シ結局成績ノ總
和ニ於テ頗ル大ナルモノアルニ至ル可シ

由來同業ノ開始ニヨリテハ互ニ相利シ相繁榮スル例妙
シトセズ

先年政府ガ簡易生命保険業ヲスルヤ開始一般保險思
想ニ多大ノ覺醒ヲ與ヘ延テ一般ノ保險業者ニ多大ノ好
影響ヲ齎セシト同様市營貯蓄銀行開始モ必ラス一般
貯蓄思想ノ發達ヲ促シ他ノ預金業者ニ好影響ヲ與フル
ノ結果ニ至ル可シト思フノデアル

郵便貯金ハ固ト政府カ國民ノ貯蓄思想涵養ノ爲メニ
設ケタルモノニシテ預金多寡ハ寧ロ第二ノ要件デアリマス

去レハ今日政府ノ夫レト其主旨ヲ同シクスル此市營貯
蓄銀行カ設立セラレテ共ニ斯業ノ爲メニ盡スコトハ寧ロ
歡迎スル所ナラサル可カラズ
例令然ラズトスルモ此市營貯蓄銀行ガ果シテ市民ノ希
望ニ副ヒ益々發達シテ多數預金者ヲ得テ巨額ノ預金ヲ
吸收シ爲メニ幾分貯蓄機關ニ打撃ヲ與ヘタル如キコト
アリトスルモ夫ハ寧ロ多數市民ニ利便ヲ與フル結果ナリ
トセバ又止ムラ得サルモノニアリマス決シテ市營貯蓄銀
行ヲ非難スヘキノ理由ナキモノデアル
都市ノ爲メ市民ノ爲メ此有益必須ノ市營貯蓄銀行ノ
實現ヲ希望スル次第テアリマス願クハ滿場諸君ノ御賛
成ヲ得テ速ニ可決セラレンコト切望致シマス

